

シラバス

令和7年度

島根県立

浜田高等学校

通信制

目次

現代の国語	1	美術 I	52
言語文化	3	美術 II	54
文学国語	5	書道 I	56
古典探究	7	書道 II	58
地理総合	9	英語入門(1)	60
地理探究	11	英語入門(2)	61
歴史総合	13	英語コミュニケーション I	62
日本史探究	15	英語コミュニケーション II	64
世界史探究	17	論理・表現 I	66
公共	19	家庭総合	67
政治・経済	21	情報 I	69
数学入門(1)	23	ビジネス基礎	71
数学入門(2)	24	簿記	73
数学 I (1)	25	情報処理	75
数学 I (2)	26	保育基礎	77
数学 II	28	消費生活	79
数学 A	30	服飾文化	81
科学と人間生活	22	総合的な探究の時間	82
物理基礎	24		
化学基礎	26		
生物基礎	28		
体育 I	40		
体育 2	42		
体育 3	44		
体育 4	46		
体育 5	48		
保健	50		

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7(2025)年度	講座名	現代の国語	
●講座基礎情報					必履修科目	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	1	3回	2回	1	1回	令和7年7月24日(木)
後期	1	3回	2回	1	1回	令和7年12月23日(火)
使用教科書・学習書		『新編現代の国語』(東京書籍) 学習書(NHK出版)				
●学習目標						
<p>a 実社会に必要な国語の知識や技能を身につける。</p> <p>b 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。</p> <p>c 言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。</p>						
●評価規準						
a 知識・技能		実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。				
b 思考・判断・表現		論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。				
c 主体的に学習に取り組む態度		言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。				
●学習内容						
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。				
レポート合格基準		レポート内容80%以上の評点および各評価規準80%をもって合格とする。 提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。				
注意点		字数指定のある問については8割以上の記述をする。指示がない場合は句読点を字数に含める。				
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領	
前期	1	1 自己を見つめる ○こそめスープ ○ルリボシカミキリの青 ・気になるニュースについて話そう	・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解できる。	・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。	(1)アウエオ	
			・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解できる。	・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。		
			・目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討できる。	・目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。		
	2	2 他者に出会う ○未来をつくる想像力 ○水の東西 ・評論の読み方 ・分かりやすい説明をしよう	・学習を生かして自分の興味・関心を確認し、考えを伝えようとする。	・学習を生かして自分の興味・関心を確認し、考えを伝えようとしている。	(1)アウエオカ (2)アイエ	
			・主張と論拠など情報と情報との関係について理解できる。	・主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。		
			・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うことができる。	・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。		
3	3 視野を広げる ○スキマが育む都市の緑と生命のつながり ○無彩の色 ・情報を整理しながら話し合おう	・自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にし、論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫することができる。	・自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にし、論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。	話・聞(1)イウ 読(1)アイ		
		・話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫することができる。	・話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫している。			
		・情報社会における自己の在り方について考えを深め伝えようとする。	・情報社会における自己の在り方について考えを深め伝えようとしている。			
3	3 視野を広げる ○スキマが育む都市の緑と生命のつながり ○無彩の色 ・情報を整理しながら話し合おう	・個別の情報と一般化された情報との関係について理解できる。	・個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。	(1)アウエオ (2)イ		
		・論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	・論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。			

		<ul style="list-style-type: none"> ・論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫することができる。 ・筆者の価値観や主張を理解し、色彩に対する自分の考えを深め伝えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫している。 ・筆者の価値観や主張を理解し、色彩に対する自分の考えを深め伝えようとしている。 		
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領
後期	1	4 社会と関わる ○鍋洗いの日々 ○森で染める人 ○真夏のひしご漁 ・ブックガイド働くとは？	<ul style="list-style-type: none"> ・比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うことができる。 ・実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使っている。 ・実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解している。 	(1)アウエオカ (3)ア
			<ul style="list-style-type: none"> ・文章の種類を踏まえ、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基的に的確に捉え、要旨や要点を把握できる。 ・目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の種類を踏まえ、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基的に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 ・目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。 	読(1)アイ
			<ul style="list-style-type: none"> ・自然や社会での仕事や生活について自分の考えを深め伝えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や社会での仕事や生活について自分の考えを深め伝えようとしている。 	
	2	5 世界とつながる ○美しさの発見 ○りんごのほっぺ ・新聞記事を読んで意見文を書こう	<ul style="list-style-type: none"> ・引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使っている。 	(1)アイウエオ (2)オ
			<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にできる。 ・読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫することができる。 ・自分の考えや事柄が的確に伝わるよう根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫することができる。 ・目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。 ・読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。 ・自分の考えや事柄が的確に伝わるよう根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。 ・目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。 	書(1)アイウエ 読(1)アイ
			<ul style="list-style-type: none"> ・感受性の養い方や戦争体験を語り継ぐ意義について考え伝えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感受性の養い方や戦争体験を語り継ぐ意義について考え伝えようとしている。 	
	3	6 未来に目を向ける ○不思議な拍手 ○真の自立とは ○推論の仕方 ・資料を活用して発表しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・推論の仕方を理解し使うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・推論の仕方を理解し使っている。 	(1)アウエオ (2)ウ
			<ul style="list-style-type: none"> ・話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫している。 	話・聞(1)ウエ 読(1)アイ
			<ul style="list-style-type: none"> ・「自立」という観点から自分の考えを深め伝えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自立」という観点から自分の考えを深め伝えようとしている。 	

* 知識・技能(1)ウエの事項は全学習を通して育成する。

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7（2025）年度	講座名	言語文化	
●講座基礎情報					●履修科目	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	1	3回	2回	1	1回	令和7年 7月24日（木）
後期	1	3回	2回	1	1回	令和7年12月23日（火）
使用教科書・学習書		『新編現代の国語』（東京書籍） 学習書（NHK出版）				
●学習目標						
<p>a 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、我が国の言語文化に対する理解を深める。</p> <p>b 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。</p> <p>c 言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。</p>						
●評価規準						
a 知識・技能		生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、我が国の言語文化に対する理解を深めている。				
b 思考・判断・表現		論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。				
c 主体的に学習に取り組む態度		言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。				
●学習内容						
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。				
レポート合格基準		レポート内容80%以上の評点および各評価規準80%をもって合格とする。提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。				
注意点		字数指定のある問については8割以上の記述をする。指示がない場合は句読点を字数に含める。				
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領	
前期	1	○さくらさくらさくら ○宇治拾遺物語・児のそら寝 ・古文の言葉と仮名遣い ○今鏡・用光と白波 ・古語を調べるために	・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解できる。 ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解できる。	・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。	(1)アイウエ (2)ウエ	
			・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。	・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	読(1)アイ	
			・小倉百人一首から「花」と詠んで「桜」を歌っている和歌を探し、「桜」についてふだんどのように感じているか考え、伝えようとする。	・小倉百人一首から「花」と詠んで「桜」を歌っている和歌を探し、「桜」についてふだんどのように感じているか考え、伝えようとしている。		
	2	○とんかつ ○絵仏師良秀 ・古典から生まれた近現代の小説を読む ○訓読の基本 ・格言 ・再読文字	・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解できる。 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解できる。	・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解している。	(1)アイウエ (2)アウカ	
			・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。	・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	読(1)アイ	
			・登場人物の心情とその変化を読み取り主題について題名と関連づけて考え伝えようとする。	・登場人物の心情とその変化を読み取り主題について題名と関連づけて考え伝えようとしている。		
3	○詩 ○折々のうた ・短歌を作る	・本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解できる。	・本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。	(1)アウエオ (2)アイウ		

		○漢詩 ・漢詩の形式ときまり	<ul style="list-style-type: none"> 自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にすることができる。 自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。 自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している 	書(1)アイ 読(1)アイウオ
			<ul style="list-style-type: none"> 表現の仕方を工夫し、自分の感じたことや伝えたいメッセージなどを短歌や俳句で効果的に表現しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現の仕方を工夫し、自分の感じたことや伝えたいメッセージなどを短歌や俳句で効果的に表現しようとしている。 	
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領
後期	1	○短歌・俳句 ○枕草子・うつくしきもの ・用言の活用、助動詞 ○故事成語	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 	(1)アウエオ (2)イウエ
			<ul style="list-style-type: none"> 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 	読 (1)アイウエオ
			<ul style="list-style-type: none"> 短歌や俳句の特徴や表現効果を理解し歌にこめられた情景や心情を読み取り伝えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 短歌や俳句の特徴や表現効果を理解し歌にこめられた情景や心情を読み取り伝えようとしている。 	
	2	○羅生門 ○伊勢物語・芥川 ・用言の活用、助詞 ○論語	<ul style="list-style-type: none"> 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 	(1)アイウエ (2)イウ
			<ul style="list-style-type: none"> 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 	読(1)アイウオ
			<ul style="list-style-type: none"> 本文の構成や場面の展開、表現の特色を捉え、登場人物の心情の変化を読み取り、主題について考え伝えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文の構成や場面の展開、表現の特色を捉え、登場人物の心情の変化を読み取り、主題について考え伝えようとしている。 	
	3	○夢十夜 ○平家物語・木曾の最期 ・助詞 ○史話 ・文体の変遷	<ul style="list-style-type: none"> 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解できる。 言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解している。 	(1)アイウエオ (2)イウオ
			<ul style="list-style-type: none"> 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 	読(1)アイウ
			<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の言動や心情、主題を読み取り、関連させて自分の体験や考えについて伝えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の言動や心情、主題を読み取り、関連させて自分の体験や考えについて伝えている。 	

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7（2025）年度	講座名	文学国語	
●講座基礎情報					選択科目	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	2	6回	2回	1	1回	令和7年 7月24日（木）
後期	2	6回	2回	1	1回	令和7年12月23日（火）
使用教科書・学習書		標準文学国語（第一学習社）				
●学習目標						
<p>a 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>b 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>c 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>						
●評価規準						
a 知識・技能		情景の豊かさや心情の機微を表す語句・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴に興味を持ち、文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。				
b 思考・判断・表現		文学的な文章を通して、人間・社会・自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにし、思考力や想像力を伸ばそうとしている。				
c 主体的に学習に取り組む態度		今までの学習を通して作品の内容に興味を持ち、読書の意義と効用について理解し国語の能力の向上を図ろうとしている。				
●学習内容						
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。				
レポート合格基準		レポート内容80%以上の評点および各評価規準80%をもって合格とする。 提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。				
注意点		字数指定のある間については8割以上の記述をする。指示がない場合は句読点を字数に含める。 誤字脱字、不正表現等は減点する。				
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領	
前期	1	現代の小説（一） ○調律士のるみ子さん （いしいしんじ）	本文中に登場する、情景や心情の機微を表す語句・語彙、表現の技法を理解することができる。	本文中に登場する、情景や心情の機微を表す語句・語彙、表現の技法を理解している。	(1)イエ	
			「るみ子さん」の持ちが変化する過程を彼女の身の上起こった出来事を通して読み取ることができる。	「るみ子さん」の気持ちが変化する過程を彼女の身の上起こった出来事を通して読み取っている。	読(1)アイエ	
			老人が「るみ子さん」の調律に求めていることについて積極的に自分の考えをまとめて示そうとする。	老人が「るみ子さん」の調律に求めていることについて積極的に自分の考えをまとめて示そうとしている。		
	2	現代の詩 ○生命は（吉野弘） ○そこにひとつの席が （黒田三郎） ○食事（高橋紀一）	詩というジャンルの特徴や表現の技法を理解することができる。	詩というジャンルの特徴や表現の技法を理解している。	(1)ウエ	
			自分と他者との関係性について、作者の捉え方を理解することができる。	自分と他者との関係性について、作者の捉え方を理解している。	読(1)アイエオ	
			進んで表現上の効果や作品世界、そこに込められた心情などを理解しようとする。	進んで表現上の効果や作品世界、そこに込められた心情などを理解しようとしている。		
	3	現代の小説（二） ○相棒（内海隆一郎）	本文中に登場する、情景や心情の機微を表す語句・語彙、表現の技法を理解することができる。	本文中に登場する、情景や心情の機微を表す語句・語彙、表現の技法を理解している。	(1)イエ	
			登場人物の心情と行動に生じる変化を捉え、題名にこめられた意味を理解することができる。	登場人物の心情と行動に生じる変化を捉え、題名にこめられた意味を理解している。	読(1)アイエ	
			「相棒」という題名にこめられた意味を考えようとしている。	「相棒」という題名にこめられた意味を考えようとしている。		
	4	随想（芸術） ○真珠の耳飾りの少女 （原田マハ） ○フェルメールの技を読む （朽木ゆり子・福岡伸一）	本文中に登場する、情景や心情の機微を表す語句・語彙、表現の技法を理解することができる。	本文中に登場する、情景や心情の機微を表す語句・語彙、表現の技法を理解している。	(1)イエ	
			読み手の関心を引きつけるための工夫や両者の向き合い方の違いについて理解することができる。	読み手の関心を引きつけるための工夫や両者の向き合い方の違いについて理解している。	読(1)アウエキ	
			二つの文章の筆者間の違いを積極的に説明することができる。	二つの文章の筆者間の違いを積極的に説明している。		

後 期	5	近代の小説（一） ○鼻（芥川龍之介）	本文中に登場する、情景や心情の機微を表す語句・語彙、表現の技法を理解することができる。	本文中に登場する、情景や心情の機微を表す語句・語彙、表現の技法を理解している。	(1)イエ
			鼻が変化した内供と、彼を取り巻く人々の複雑な心理を理解することができる。	鼻が変化した内供と、彼を取り巻く人々の複雑な心理を理解している。	読(1)アイエ
			『今昔物語集』も粘り強く読み取り、作者の工夫をまとめようとする。	『今昔物語集』も粘り強く読み取り、作者の工夫をまとめようとしている。	
	6	近代の小説（二） ○こころ（夏目漱石）	本文中に登場する、情景や心情の機微を表す語句・語彙、表現の技法を理解することができる。	本文中に登場する、情景や心情の機微を表す語句・語彙、表現の技法を理解している。	(1)イエ
			物語の展開と出来事を整理しながら、「私」と「K」それぞれの心情をつかむことができる。	物語の展開と出来事を整理しながら、「私」と「K」それぞれの心情をつかんでいる。	読(1)アイエ
			本文とは異なる視点から書き換える活動に積極的に取り組み、解釈を深めようとする。	本文とは異なる視点から書き換える活動に積極的に取り組み、解釈を深めようとしている。	
	1	戦争と文学（一） ○わたしが一番きれいだったとき（茨木のり子） ○死んだ男の残したものは（谷川俊太郎） ○春—イラクの少女シャミラに（柴田三吉）	詩というジャンルの特徴や表現の技法を理解することができる。	詩というジャンルの特徴や表現の技法を理解している。	(1)ウエ
			現代の戦争を描いた表現上の工夫を読み取ることができる。	現代の戦争を描いた表現上の工夫を読み取っている。	読(1)アイエ
			進んで表現上の効果や作品世界、そこに込められた戦争に対する心情などを理解しようとする。	進んで表現上の効果や作品世界、そこに込められた戦争に対する心情などを理解しようとしている。	
	2	現代の小説（三） ○旅する本（角田光代）	本文中に登場する、情景や心情の機微を表す語句・語彙、表現の技法を理解することができる。	本文中に登場する、情景や心情の機微を表す語句・語彙、表現の技法を理解している。	(1)イエ
			本との再会を繰り返すたびに実感される「私」の変化を読み取ることができる。	本との再会を繰り返すたびに実感される「私」の変化を読み取っている。	読(1)アイエ
			作品全体における「その本」の意味について、各時期の「私」の受け止め方を踏まえて読み解こうとする。	作品全体における「その本」の意味について、各時期の「私」の受け止め方を踏まえて粘り強く読み解こうとしている。	
	3	近代の小説（三） ○山月記（中島敦）	本文中に登場する、情景や心情の機微を表す語句・語彙、表現の技法を理解することができる。	本文中に登場する、情景や心情の機微を表す語句・語彙、表現の技法を理解している。	(1)イエ
			人が虎になるという怪異の意味を踏まえて作品の主題を捉えることができる。	人が虎になるという怪異の意味を踏まえて作品の主題を捉えている。	読(1)アイ
			本文と典拠となった文章とを粘り強く読み比べ、主題の違いや作者の工夫をまとめようとする。	本文と典拠となった文章とを粘り強く読み比べ、主題の違いや作者の工夫をまとめようとしている。	
	4	近代の詩 ○こころ（萩原朔太郎） ○汚れちまった悲しみに……（中原中也） ○永訣の朝（宮沢賢治）	詩というジャンルの特徴や表現の技法を理解することができる。	詩というジャンルの特徴や表現の技法を理解している。	(1)ウエ
			多様な隠喩を通して「こころ」を描き出す、イメージの豊かさを味わうことができる。	多様な隠喩を通して「こころ」を描き出す、イメージの豊かさを味わっている。	読(1)アイエオ
			進んで表現上の効果や作品世界、そこに込められた心情などを理解しようとする。	進んで表現上の効果や作品世界、そこに込められた心情などを理解しようとしている。	
5	現代の小説（四） ○卒業（魚住直子）	本文中に登場する、情景や心情の機微を表す語句・語彙、表現の技法を理解することができる。	本文中に登場する、情景や心情の機微を表す語句・語彙、表現の技法を理解している。	(1)イエ	
		仕事に向き合う態度と友人への思いの変化を捉え、主人公にとっての「卒業」の意味を理解することができる。	仕事に向き合う態度と友人への思いの変化を捉え、主人公にとっての「卒業」の意味を理解している。	読(1)アイエ	
		共感できる表現について積極的に探し、その理由をわかりやすく発表しようとする。	共感できる表現について積極的に探し、その理由をわかりやすく発表しようとしている。		
6	戦争と文学（二） ○夏の花（原民喜）	本文中に登場する、情景や心情の機微を表す語句・語彙、表現の技法を理解することができる。	本文中に登場する、情景や心情の機微を表す語句・語彙、表現の技法を理解している。	(1)イエ	
		「私」の移動とともに場面が変わる文章展開を把握し、各場面における「私」の心情を読み取ることができる。	「私」の移動とともに場面が変わる文章展開を把握し、各場面における「私」の心情を読み取っている。	読(1)アイエ	
		小説の表現や描写の特徴とその効果について積極的に理解を深めようとする。	小説の表現や描写の特徴とその効果について積極的に理解を深めようとしている。		

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7（2025）年度	講座名	古典探究	
●講座基礎情報					選択科目	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	2	6回	2回	1	1回	令和7年 7月24日（木）
後期	2	6回	2回	1	1回	令和7年12月23日（火）
使用教科書・学習書		標準古典探究（第一学習社）				
●学習目標						
a 古典を学ぶことをとおして、生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深める。						
b 古典作品に触れることで、先人のものの見方、感じ方、考え方に触れ、自分の思いや考えを深める。						
c 言葉をおとして他者や社会に関わろうとする態度を養う。						
●評価規準						
a 知識・技能	古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深める。					
b 思考・判断・表現	古典特有の表現を理解し、話の内容を的確にとらえる。					
c 主体的に学習に取り組む態度	作品に興味を持ち、読み味わうとともに登場人物の言動等から多様な価値観を読み取ろうとする。					
●学習内容						
学習の進め方	自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。					
レポート合格基準	レポート内容80%以上の評点および各評価規準80%をもって合格とする。 提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。					
注意点	字数指定のある問については8割以上の記述をする。指示がない場合は句読点を字数に含める。 誤字脱字、不正表現等は減点する。					
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領	
前期	1	古文・説話 ○「文字一つの返し」(『十訓抄』) ○「小式部内侍が大江山歌の事」(『古今著聞集』)	語句の意味等を正確に調べ理解する。 和歌の修辞を理解する。	本文の不明な語句を辞書等で調べ、意味を理解できる。和歌の修辞が理解できる。	(1)エ (2)ア	
			古典特有の表現を理解し、話の内容を的確にとらえる。	話の展開を的確に捉え、内容を理解することができる。	読(1)イ、読(1)キ	
			内容について自分の言葉で説明でき、必要な事項について調べることができる。	本文の内容を自分の言葉で表現できる。		
	2	漢文・故事・寓話 ○「推敲」(『唐詩紀事』) 故事・寓話 ○「朝三暮四」(『列子』)	故事成語の成り立ちと日本で用いられてきた文化的背景について理解する。	教科書、学習書を参考にしながら、故事成語の成り立ちについて理解できる。	(1)ア (2)イ、ウ	
			本文全体を正確に理解し、込められた寓意について理解する。	本文を読み取り、寓意の込められた話であることが理解できる。	読(1)ア、オ	
			教材に興味を持ち、故事成語の調べ学習に意欲的に取り組む。	辞書をはじめとする様々なツールを用いて故事成語の調べ学習に取り組める。		
	3	古文・物語 ○「かぐや姫の昇天」(『竹取物語』) ○「初冠」(『伊勢物語』)	古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深める。	古典特有の表現、係り結び、敬語表現等が理解できる。	(1)イ、エ (2)ア	
			文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉える	文章の種類をふまえて、話の展開や人間関係などを正確に読み取る。	読(1)ア、イ 読(1)エ	
			作品の文学史的な位置づけを理解し、登場人物の心情について考える。	二つの作品の文学史的な位置づけを理解し、作品を読み味わう。		
	4	漢文・三国志の世界 ○「赤壁之戦」 ○「死諸葛走生仲達」	長文に読み慣れ、漢文独特の表現を理解する。三国時代の情勢を理解する。	三国の興亡について教科書・学習書を参考に理解する。	(2)ア、イ	
			登場人物、話の展開を正確に理解する。	話の展開、人物同士のやりとりの裏に隠された意図を正確に理解できる。	読(1)ア、ウ	
			三国志の物語世界が日本の文化に与えた影響について考える。	三国志の世界に興味を持ち、現在の日本の小説、漫画、ゲーム等への影響を理解する。		

	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領
後期	5	古文・随筆 ○「ゆく川の流れ」(『方丈記』) ○「雪のいと高う降りたるを」(『枕草子』)	音読み、和漢混淆文のリズムを理解する。助動詞の用法について理解を深める。	和漢混淆文について理解できる。助動詞の意味が理解できる。	(1) ア、イ (2) イ
			文中の対となる表現、比喻表現、漢詩との比較等を考える。	現代語訳を参考に、対句表現、比喻表現等を理解する。	読 (1) イ、力
			それぞれの作品の時代背景を理解する。作者のものの感じ方等について考える。	それぞれの作品背景にある漢文世界、中世的無常観等を理解する。	
	6	古文・和歌 ○『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』 漢文・漢詩の鑑賞 ○「絶句」「春夜」「不出門」	和歌、漢詩の発想や表現、韻律等の決まりについて理解する。	和歌・漢詩の修辞技巧、韻律等のきまりについて理解できる。	(1) イ、エ
			それぞれの歌集、作品の成立した時代背景を理解し、作品に描かれた情景、心情思想について考える。	作品の意味を正確に理解し、そこに表現されている情景、心情、思想等を読み取る。	読 (1) イ、力
			有名な歌人、詩人について興味を持ち、それぞれの作品世界を読み味わう。	気に入った作品を選び、感想を記すとともに、作者について調べ記述することができる。	
	1	古文・日記 ○「門出」(『更級日記』) ○「泪杯の水」(『蜻蛉日記』)	作品・作者の基礎事項・平安時代の旅・結婚のあり方等について正しい知識を身につける。	文学史・旧国名等の基礎知識について理解できる。	(1) ア、エ
			基本古語、文法事項に注意して正確に読解し、日記に記された作者の心情を理解する。	現代語訳が正確にでき、作者の心情が理解できる。	読 (1) ウ
			女流日記文学への理解を深めると共に、文学の虚構性について考える。	二つの日記を比較してそれぞれの立場心情の違いが理解できる。	
	2	漢文・項羽と劉邦 ○「鴻門之会」	長い文章を読み、漢文の読解に慣れる。「史記」の特徴やその背景について理解する。	長い文章を読み、人物関係等が理解できる。「史記」の特徴やその背景について理解できる。	(1) ウ
			本文の構成や展開を正確に理解し、登場人物の行動や心情を的確につかむ。	登場人物の行動、位置関係、意図、心情等を正確に理解できる。	読 (1) ア、工
			漢楚の興亡について理解し、ゲーム、漫画等の関連について考える。	漢楚の興亡について興味を持ち、ゲーム、漫画等の作品と比較考察できる。	
	3	古文・物語二 ○「若紫」(『源氏物語』) ○「弓争い」(『大鏡』)	「源氏物語」のストーリーを確認し、文学史的価値を知る。重要古語等の基礎知識を確認する。	「源氏物語」のあらすじが理解できる。重要古語等を調べ、まとめることができる。	(1) エ (2) ア
			登場人物の人間関係を正確につかみ、それぞれの心理の動きをたどる。	登場人物の人間関係、会話の内容、心情等が理解できる。	読 (1) イ、オ
			平安時代の貴族文化に興味を持ち、作品に描かれた人間社会のあり方に理解を深める。	平安時代の貴族社会のあり方を理解し、二つの作品を比較考察できる。	
	4	漢文・項羽と劉邦 ○「四面楚歌」	長い文章を読み、文章の構成や展開の仕方について正確に理解する	本文を正確に読み、文章の構成や展開について理解できる。	(1) ウ (2) ウ
			追い詰められた項羽の行動、心情を理解する。	各場面での項羽の行動を理解し、その心情を読み取れる。	読 (1) エ
			作品世界に興味を持ち、登場人物の行動や心情を把握し考察する。	作品を読み味わうとともに、登場人物の行動や心情について考察できる。	
5	古文・物語三 ○「能登殿の最期」(『平家物語』)	軍記物の文体のリズムに慣れ、正確に読める。	文体のリズム、音便のきまり、漢字の読みについて正しい知識を得る。	(1) イ、エ	
		作品背景を理解するとともに、登場人物それぞれの行動、考え方を理解する。	作品背景を理解し、登場人物の行動、考え方を正確に理解できる。	読 (1) ウ、工	
		軍記物のおもしろさを理解し、映画、ドラマ等での描かれ方と比較考察する。	平家物語がどのように映像化されたか、比較考察できる。		
6	漢文・諸家の思想 ○「仁人心也」(『孟子』) ○「鷓鴣得腐鼠」「胡蝶之夢」(『莊子』)	諸子百家、中国の思想について理解する。	諸子百家、中国の思想の概略を理解できる。	(2) ア、イ、ウ	
		本文を正確に読解し、文章に込められた作者の主張を理解する。	本文の内容を正確に読み取り、孟子、荘子のそれぞれの主張を理解できる。	読 (1) ア、イ、オ	
		それぞれの思想が現代に与えた影響について考察する。	中国古代思想について何らかの興味を持ち、現代に与えた影響について考察できる。		

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7（2025）年度	講座名	地理総合	
●講座基礎情報					必履修科目	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	1	3回	2回	1	1回	令和7年7月24日（木）
後期	1	3回	2回	1	1回	令和7年12月23日（火）
使用教科書・学習書		高等学校 新地理総合（帝国書院）・高等学校 新地理総合（NHK 出版）				
●学習目標						
<p>a 世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解し、地理に関する情報を調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>b 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、多面的・多角的に考察したり構想したり、それらを説明する力を養う。</p> <p>c 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に解決しようとする態度を養う。</p>						
●評価規準						
a 知識・技能		社会的事象等について理解し、その知識を身に付けている。社会的事象等を調べまとめる技能を身に付けている。				
b 思考・判断・表現		社会的事象等を見出し、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察している。社会に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想している。考察・構想したことについて説明している。				
c 主体的に学習に取り組む態度		学習対象について主体的に調べ分かつようとして課題を意欲的に追究している。よりよい社会を考え学んだことを生かそうとしている。				
●学習内容						
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。				
レポート合格基準		レポート内容80%以上の評点および各評価規準80%をもって合格とする。 提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。				
注意点		教科書に漢字で表記されている用語は漢字を使って解答すること。かな書きは減点もしくは誤答とする。 色塗り作業は色鉛筆を使用するよう指示している。色鉛筆以外の使用は空欄扱いとするので注意。				
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領	
前期	1	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地図情報システム 第2章 結び付きを深める現代世界	地図や地図情報システムの役割や有用性、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解できる。	地図や地図情報システムの役割や有用性、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解している。	A	
			地図や地図情報システムについて目的や用途・内容・適切な活用の仕方、日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを考察し表現できる。	地図や地図情報システムについて目的や用途・内容・適切な活用の仕方、日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを考察し表現している。	A	
			地図等についてみられる課題、現代世界の地域構成についての課題を主体的に追究・解決しようとする。	地図等についてみられる課題、現代世界の地域構成についての課題を主体的に追究・解決しようとしている。		
	2	第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 序説 生活文化の多様性 1節 世界の地形と人々の生活 2節 世界の気候と人々の生活 1～7, SKILL 14	世界の大地形・小地形と人々の生活、世界の気候・気候区分と人々の生活について理解できる。	世界の大地形・小地形と人々の生活、世界の気候・気候区分と人々の生活について理解している。	B（1）	
			世界の大地形・小地形と人々の生活、世界の気候・気候区分と人々の生活について多面的に考察し表現できる。	世界の大地形・小地形と人々の生活、世界の気候・気候区分と人々の生活について多面的に考察し表現している。	B（1）	
			世界の大地形・小地形と人々の生活、世界の気候・気候区分と人々の生活について、課題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。	世界の大地形・小地形と人々の生活、世界の気候・気候区分と人々の生活について、課題を主体的に追究・解決しようとしている。		
	3	2節 世界の気候と人々の生活 追究事例 自然1,2 3節 世界の言語・宗教と人々の生活 4節 歴史的背景と人々の生活 追究事例 歴史1	オセアニアや東南アジアの自然、イスラームやヒンドゥー教、ラテンアメリカの歴史と、各地域の人々の生活について理解できる。	オセアニアや東南アジアの自然、イスラームやヒンドゥー教、ラテンアメリカの歴史と、各地域の人々の生活について理解している。	B（1）	
			オセアニアや東南アジアの自然、イスラームやヒンドゥー教、ラテンアメリカの歴史と、各地域の人々の生活について多面的に考察し表現できる。	オセアニアや東南アジアの自然、イスラームやヒンドゥー教、ラテンアメリカの歴史と、各地域の人々の生活について多面的に考察し表現している。	B（1）	

			オセアニアや東南アジアの自然、イスラームやヒンドゥー教、ラテンアメリカの歴史と、各地域の人々の生活について課題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。	オセアニアや東南アジアの自然、イスラームやヒンドゥー教、ラテンアメリカの歴史と、各地域の人々の生活について課題を主体的に追究・解決しようとしている。	
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領
後期	1	4節 歴史的背景と人々の生 追究事例 歴史2,3	サハラ以南アフリカやロシアの歴史、アメリカ合衆国・東アジア・ヨーロッパの産業と、各地域の人々の生活について理解できる。	サハラ以南アフリカやロシアの歴史、アメリカ合衆国・東アジア・ヨーロッパの産業と、各地域の人々の生活について理解している。	B(1)
		5節世界の産業と人々の生活	サハラ以南アフリカやロシアの歴史、アメリカ合衆国・東アジア・ヨーロッパの産業と、各地域の人々の生活について多面的に考察し表現できる。	サハラ以南アフリカやロシアの歴史、アメリカ合衆国・東アジア・ヨーロッパの産業と、各地域の人々の生活について多面的に考察し表現している。	B(1)
			サハラ以南アフリカやロシアの歴史、アメリカ合衆国・東アジア・ヨーロッパの産業と、各地域の人々の生活について課題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。	サハラ以南アフリカやロシアの歴史、アメリカ合衆国・東アジア・ヨーロッパの産業と、各地域の人々の生活について課題を主体的に追究・解決しようとしている。	
	2	第2章 地球的課題と国際協力	地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口問題、食料問題、都市・居住問題について、理解できる。	地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口問題、食料問題、都市・居住問題について、理解している。	B(2)
			地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口問題、食料問題、都市・居住問題について、多面的に考察し表現できる。	地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口問題、食料問題、都市・居住問題について、多面的に考察し表現している。	B(2)
			地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口問題、食料問題、都市・居住問題について、主体的に追究・解決しようとする態度を養う。	地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口問題、食料問題、都市・居住問題について、主体的に追究・解決しようとしている。	
	3	第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災	日本の自然環境と、地震・津波・火山災害・気象災害とそれらへの備えについて、理解できる	日本の自然環境と、地震・津波・火山災害・気象災害とそれらへの備えについて、理解している。	C
			日本の自然環境と、地震・津波・火山災害・気象災害とそれらへの備えについて、多面的に考察し表現できる。	日本の自然環境と、地震・津波・火山災害・気象災害とそれらへの備えについて、多面的に考察し表現している。	C
			日本の自然環境と、地震・津波・火山災害・気象災害とそれらへの備えについて、主体的に追究・解決しようとする態度を養う。	日本の自然環境と、地震・津波・火山災害・気象災害とそれらへの備えについて、主体的に追究・解決しようとしている。	

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7（2025）年度	講座名	地理探究	
●講座基礎情報					必履修科目	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	2	6回	2回	1	1回	令和7年7月24日（木）
後期	1	3回	2回	1	1回	令和7年12月23日（火）
使用教科書・学習書		新詳地理探究（帝国書院）・新詳地理探究 NHK 出版）				
●学習目標						
<p>a 世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解し、地理に関する情報を調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>b 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、多面的・多角的に考察したり構想したり、それらを説明する力を養う。</p> <p>c 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に解決しようとする態度を養う。</p>						
●評価規準						
a 知識・技能		社会的事象等について理解し、その知識を身に付けている。社会的事象等を調べまとめる技能を身に付けている。				
b 思考・判断・表現		社会的事象等を見出し、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察している。社会に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想している。考察・構想したことについて説明している。				
c 主体的に学習に取り組む態度		学習対象について主体的に調べ分かつようとして課題を意欲的に追究している。よりよい社会を考え学んだことを生かそうとしている。				
●学習内容						
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。				
レポート合格基準		レポート内容80%以上の評点および各評価規準80%をもって合格とする。提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。				
注意点		教科書に漢字で表記されている用語は漢字を使って解答すること。かな書きは減点もしくは誤答とする。				
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領	
前期	1	第1部 現代世界の系統地理	地形の特徴・成因、気候の成り立ちの要因、それらと人間活動との関わりについて理解できる。	地形の特徴・成因、気候の成り立ちの要因、それらと人間活動との関わりについて理解している。	A（1）	
		第1章 自然環境	地形の特徴・成因、気候の成り立ちの要因、それらと人間活動との関わりについて、考察し表現できる。	地形の特徴・成因、気候の成り立ちの要因、それらと人間活動との関わりについて、考察し表現している。	A（1）	
		序説 地球環境と人間	地形の特徴・成因、気候の成り立ちの要因、それらと人間活動との関わりについて課題を主体的に追究しようとする態度を養う。	地形の特徴・成因、気候の成り立ちの要因、それらと人間活動との関わりについて、課題を主体的に追究しようとしている。	A（1）	
	2	2節 気候	世界の気候区分、日本列島の地形や気候の特徴、地球環境問題について、理解できる。	世界の気候区分、日本列島の地形や気候の特徴、地球環境問題について、理解している。	A（1）	
		3 世界の気候区分	世界の気候区分、日本列島の地形や気候の特徴、地球環境問題について、考察し表現できる。	世界の気候区分、日本列島の地形や気候の特徴、地球環境問題について、考察し表現している。	A（1）	
		4 さまざまな気候帯	世界の気候区分、日本列島の地形や気候の特徴、地球環境問題について、課題を主体的に追究しようとする態度を養う。	世界の気候区分、日本列島の地形や気候の特徴、地球環境問題について、課題を主体的に追究しようとしている。	A（1）	
	3	5 気候変動と異常気象	農林水産業と食料問題について、理解できる。	農林水産業と食料問題について、理解している。	A（2）	
		3節 日本の自然環境	農林水産業と食料問題について、考察し表現できる。	農林水産業と食料問題について、考察し表現している。	A（2）	
		4節 地球環境問題	農林水産業と食料問題について、課題を主体的に追究しようとする態度を養う。	農林水産業と食料問題について、課題を主体的に追究しようとしている。	A（2）	
	4	5節 工業	エネルギー・鉱産資源の利用と問題、さまざまな工業について、理解できる。	エネルギー・鉱産資源の利用と問題、さまざまな工業について、理解している。	A（2）	
		3節 エネルギー・鉱産資源	エネルギー・鉱産資源の利用と問題、さまざまな工業について、考察し表現できる。	エネルギー・鉱産資源の利用と問題、さまざまな工業について、考察し表現している。	A（2）	

			エネルギー・鉱産資源の利用と問題、さまざまな工業について、課題を主体的に追究しようとする態度を養う。	エネルギー・鉱産資源の利用と問題、さまざまな工業について課題を主体的に追究しようとしている。	A(2)	
	6節 第3次産業 第3章 交通・通信と観光、貿易 第4章 人口、村落・都市 1節 人口 2節 人口問題	第3次産業、交通・通信と観光、貿易、人口とその問題について、理解できる。	第3次産業、交通・通信と観光、貿易、人口とその問題について、考察し表現できる。	第3次産業、交通・通信と観光、貿易、人口とその問題について、課題を主体的に追究しようとする態度を養う。	A(2)(3) (4)	
第3次産業、交通・通信と観光、貿易、人口とその問題について、考察し表現している。		A(2)(3) (4)				
第3次産業、交通・通信と観光、貿易、人口とその問題について、課題を主体的に追究しようとしている。		A(2)(3) (4)				
	3節 村落と都市 4節 都市・居住問題 第5章 生活文化、民族・宗教	村落と都市、都市・居住問題、世界の生活文化、民族・宗教について、理解できる。	村落と都市、都市・居住問題、世界の生活文化、民族・宗教について考察し表現できる。	村落と都市、都市・居住問題、世界の生活文化、民族・宗教について、課題を主体的に追求しようとする態度を養う。	A(4)(5)	
村落と都市、都市・居住問題、世界の生活文化、民族・宗教について、考察し表現している。		A(4)(5)				
村落と都市、都市・居住問題、世界の生活文化、民族・宗教について、課題を主体的に追求しようとしている。		A(4)(5)				
回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領		
後期	1	第2部 現代世界の地誌的考察 第1章 現代世界の地域区分 第2章 現代世界の諸地域 序説 地域の考察方法 1節 中国 2節 韓国 3節 ASEAN 諸国 4節 インド	現代世界の地域区分全体と、そのうちの中国、韓国、ASEAN 諸国、インドについて、理解できる。	現代世界の地域区分全体と、そのうちの中国、韓国、ASEAN 諸国、インドについて、理解している。	B(1)(2)	
		現代世界の地域区分全体と、そのうちの中国、韓国、ASEAN 諸国、インドについて、考察し表現できる。	現代世界の地域区分全体と、そのうちの中国、韓国、ASEAN 諸国、インドについて、考察し表現している。	B(1)(2)		
		現代世界の地域区分全体と、そのうちの中国、韓国、ASEAN 諸国、インドについて、課題を主体的に追究しようとする態度を養う。	現代世界の地域区分全体と、そのうちの中国、韓国、ASEAN 諸国、インドについて、課題を主体的に追究しようとしている。	B(1)(2)		
	2	5節 西アジアと中央アジア 6節 北アフリカとサハラ以南アフリカ 7節 EU 諸国	西アジアと中央アジア、北アフリカとサハラ以南アフリカ、EU 諸国について、理解できる。	西アジアと中央アジア、北アフリカとサハラ以南アフリカ、EU 諸国について、考察し表現できる。	西アジアと中央アジア、北アフリカとサハラ以南アフリカ、EU 諸国について、課題を主体的に追究しようとする態度を養う。	B(2)
		西アジアと中央アジア、北アフリカとサハラ以南アフリカ、EU 諸国について、考察し表現している。	B(2)			
		西アジアと中央アジア、北アフリカとサハラ以南アフリカ、EU 諸国について、課題を主体的に追究しようとしている。	B(2)			
	3	8節 ロシア 9節 アメリカ合衆国 10節 ラテンアメリカ 11節 オーストラリアとニュージーランド	ロシア、アメリカ合衆国、ラテンアメリカ、オーストラリアとニュージーランド、将来の日本の国土について、理解できる。	ロシア、アメリカ合衆国、ラテンアメリカ、オーストラリアとニュージーランド、将来の日本の国土について、考察し表現できる。	ロシア、アメリカ合衆国、ラテンアメリカ、オーストラリアとニュージーランド、将来の日本の国土について、課題を主体的に追究しようとする態度を養う。	B(2)
		ロシア、アメリカ合衆国、ラテンアメリカ、オーストラリアとニュージーランド、将来の日本の国土について、考察し表現している。	B(2)			
		ロシア、アメリカ合衆国、ラテンアメリカ、オーストラリアとニュージーランド、将来の日本の国土について、課題を主体的に追究しようとしている。	B(2)			

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7(2025)年度	講座名	歴史総合
●講座基礎情報					必履修科目
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数
前期	1	3回	2回	1	1回
後期	1	3回	2回	1	1回
使用教科書・学習書		新選 歴史総合(東京書籍)・新選 歴史総合 学習書(NHK出版)			
●学習目標					
a 主に近現代における世界及び日本の歴史を理解し、歴史に関する情報を調べまとめる技能を身に付ける。					
b 歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、多面的・多角的に考察したり構想したり、それらを説明する力を養う。					
c 世界及び日本の近現代の歴史を踏まえて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に解決しようとする態度を養う。					
●評価規準					
a 知識・技能	社会的事象等について理解し、その知識を身に付けている。社会的事象等を調べまとめる技能を身に付けている。				
b 思考・判断・表現	社会的事象等を見出し、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察している。社会に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想している。考察・構想したことについて説明している。				
c 主体的に学習に取り組む態度	学習対象について主体的に調べ分かつようとして課題を意欲的に追究している。よりよい社会を考え学んだことを生かそうとしている。				
●学習内容					
学習の進め方	自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。				
レポート合格基準	レポート内容80%以上の評点および各評価規準80%をもって合格とする。提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。				
注意点	教科書に漢字で表記されている用語は漢字を使って解答すること。かな書きは減点もしくは誤答とする。				
レポート計画					
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領
前期	1	第1章 歴史の扉	私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象が日本や日本周辺の地域および世界の歴史とつながっていることを理解できる。	私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象が日本や日本周辺の地域および世界の歴史とつながっていることを理解している。	A B(1)(2)
		第2章 近代化と私たち 1節 近代化への問い 2節 結び付く世界と日本の開国	私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象と日本や日本周辺の地域および世界の歴史との関連性について考察し、表現できる。	私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象と日本や日本周辺の地域および世界の歴史との関連性について考察し、表現している。	A B(1)(2)
			近代化に伴う生活や社会の変容について、課題を追究できる。	近代化に伴う生活や社会の変容について、課題を追究している。	
	2	3節 国民国家と明治維新 4節 近代化と現代的な諸課題	立憲体制と国民国家の形成、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解できる。	立憲体制と国民国家の形成、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解している。	B(3)(4)
			政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを考察し、表現できる。	政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを考察し、表現している。	B(3)(4)C
			近代化の歴史に関わる諸事象について、学習に取り組もうとし、課題を追究できる。	近代化の歴史に関わる諸事象について、学習に取り組もうとし、課題を追究している。	
	3	第3章 国際秩序の変化や大衆化の私たち 1節 国際秩序の変化や大衆化への問い 2節 第一次世界大戦と大衆社会	第一次世界大戦の展開、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、国際連盟の成立、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化などを理解できる。	第一次世界大戦の展開、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、国際連盟の成立、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化などを理解している。	C(1)(2)
			第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジアおよび太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴、戦後の社会の変容と社会運動との関連などを考察し、表現できる。	第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジアおよび太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴、戦後の社会の変容と社会運動との関連などを考察し、表現できる。	C(1)(2)
			国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について、学習の見通しを立て、課題を追究できる。	国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について、学習の見通しを立て、課題を追究している。	

	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領
後期	1	3節 経済危機と第二次世界大戦 4節 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	世界恐慌、ファシズムの伸長、日本の対外政策、第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦のはじまりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを理解できる。	世界恐慌、ファシズムの伸長、日本の対外政策、第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦のはじまりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを理解している。	C(3)(4)
			各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを考察し、表現できる。	各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを考察し、表現している。	C(3)(4)
			国際秩序の変化や大衆化の歴史に関わる諸事象について、学習に取り組もうとし課題を追究できる。	国際秩序の変化や大衆化の歴史に関わる諸事象について、学習に取り組もうとし課題を追究している。	
	2	第4章 グローバル化と私たち 1節 グローバル化への問い 2節 冷戦と世界経済	冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理、西ヨーロッパや東南アジアの地域連携、計画経済とその波及、日本の高度経済成長などを理解できる。	冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理、西ヨーロッパや東南アジアの地域連携、計画経済とその波及、日本の高度経済成長などを理解している。	D(1)(2)
			地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因、日本の高度経済成長の背景と影響などを考察し、表現できる。	地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因、日本の高度経済成長の背景と影響などを考察し、表現している。	D(1)(2)
			グローバル化に伴う生活や社会の変容について、学習の見通しを立て、課題を追究できる。	グローバル化に伴う生活や社会の変容について、学習の見通しを立て、課題を追究している。	
	3	3節 世界秩序の変容と日本 4節 現代的な諸課題の形成と展望	石油危機、アジアの諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展、冷戦の終結、民主化の進展、地域統合の拡大と変容、地域紛争の拡散とそれへの対応などを理解できる。	石油危機、アジアの諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展、冷戦の終結、民主化の進展、地域統合の拡大と変容、地域紛争の拡散とそれへの対応などを理解している。	D(3)(4)
			アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、冷戦の変容と終結、地域紛争の拡散などを考察し、表現できる。	アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、冷戦の変容と終結、地域紛争の拡散などを考察し、表現している。	D(3)(4)
			グローバル化の歴史に関わる諸事象について、学習を振り返りながら課題を追究できる。	グローバル化の歴史に関わる諸事象について、学習を振り返りながら課題を追究している。	

浜田高等学校通信制課程		開講年度		令和7(2025)年度	講座名	日本史探究
●講座基礎情報						
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	1	3回	2回	1	1回	令和7年7月24日(木)
後期	2	6回	2回	1	1回	令和7年12月23日(火)
使用教科書・学習書		日本史探究(東京書籍)・日本史探究 学習書(NHK出版)				
●学習目標						
<p>a 古代から現代にいたる日本及とそれに関係する世界の歴史を理解し、歴史に関する情報を調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>b 歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、多面的・多角的に考察したり構想したり、それらを説明する力を養う。</p> <p>c 日本とそれに関連する世界の歴史を踏まえて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に解決しようとする態度を養う。</p>						
●評価規準						
a 知識・技能	社会的事象等について理解し、その知識を身に付けている。社会的事象等を調べまとめる技能を身に付けている。					
b 思考・判断・表現	社会的事象等を見出し、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察している。社会に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想している。考察・構想したことについて説明している。					
c 主体的に学習に取り組む態度	学習対象について主体的に調べ分かつようとして課題を意欲的に追究している。よりよい社会を考え学んだことを生かそうとしている。					
●学習内容						
学習の進め方	自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。					
レポート合格基準	レポート内容80%以上の評点および各評価規準80%をもって合格とする。提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。					
注意点	教科書に漢字で表記されている用語は漢字を使って解答すること。かな書きは減点もしくは誤答とする。★OK					
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領	
前期	1	第1編 先史・古代の日本と東アジア 第1章 先史社会の生活と文化	先史・古代の日本と東アジアの展開に関わる諸事象について理解し諸資料から様々な情報を調べまとめる技能を身に付けられる。	先史・古代の日本と東アジアの展開に関わる諸事象について理解し諸資料から様々な情報を調べまとめる技能を身に付けている。	A(1)(2)	
		第2章 歴史資料と先史・古代の展望	先史・古代の日本と東アジアの展開に関わる事象の意味や意義を考察する力や、考察したことを説明・主張する力を持つ。	先史・古代の日本と東アジアの展開に関わる事象の意味や意義を考察する力や、考察したことを説明・主張する力を持っている。	A(1)(2)	
		第3章 古代社会の形成と展開 1節	先史・古代の日本と東アジアに関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組み、課題を追究できる。	先史・古代の日本と東アジアに関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組み、課題を追究している。	A(3)	
	2	第3章 古代社会の形成と展開 2節	平安時代から中世の日本と世界の展開に関わる諸事象について理解し、様々な情報を調べまとめる技能を身に付けられる。	平安時代から中世の日本と世界の展開に関わる諸事象について理解し、情報を調べまとめる技能を身に付けている。	A(3) B(1)	
		第2編 中世の日本と世界 第1章 中世社会の成立	平安時代から中世の日本と世界の展開に関わる事象の意味や意義を考察する力や、それを説明したり議論したりする力を持つ。	平安時代から中世の日本と世界の展開に関わる事象の意味や意義を考察する力や、それを説明したり議論したりする力を持っている。	A(3) B(1)	
		第2章 歴史資料と中世の展望	平安時代から中世の日本と世界に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組み、課題を追究できる。	平安時代から中世の日本と世界に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組み、課題を追究している。	A(3) B(1)	
	3	第3章 中世社会の展開 1節 2節	武家政権の変容、日明貿易の展開と琉球王国の成立、村落や都市の自立等について、様々な情報を調べまとめ理解できる。	武家政権の変容、日明貿易の展開と琉球王国の成立、村落や都市の自立等について、様々な情報を調べまとめ理解している。	B(2)(3)	
			社会や経済の変化とその影響、東アジアの国際情勢の変化とその影響等に注目して考察し、諸事象の解釈などを表現できる。	社会や経済の変化とその影響、東アジアの国際情勢の変化とその影響等に注目して察し、諸事象の解釈などを表現している。	B(2)(3)	
			鎌倉時代から室町時代の「武家政権」の学習内容に対して、見通しをもって学習に取り組むことができる。	鎌倉時代から室町時代の「武家政権」の学習内容に対して、見通しをもって学習に取り組んでいる。	B(2)(3)	

	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領
後期	1	第3編 近世の日本と世界 第1章 近世社会の形成 第2章 歴史資料と近世の展望 第3章 近世社会の展開 1節 1・2・3	織豊政権について調べて中世から近世への時代の転換を理解し、後の幕藩体制の確立、近世の社会と文化の特色を理解できる。	織豊政権について調べて中世から近世への時代の転換を理解し、後の幕藩体制の確立、近世の社会と文化の特色を理解している。	C(1)
			中世から近世の国家・社会の変容を考察し、表現できる。近世の特色について考察し、時代を通観する問いを表現できる。	中世から近世の国家・社会の変容を考察し表現している。近世の特色について考察し、時代を通観する問いを表現している。	C(1)
			近世の日本と世界に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組み、課題を追究できる。	近世の日本と世界に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組み、課題を追究している。	C(1)
	2	第3章 近世社会の展開 1節 4・5 2節	幕藩体制の変容、近世の庶民の生活と文化の特色、近代化の基盤の形成を理解できる。	幕藩体制の変容、近世の庶民の生活と文化の特色、近代化の基盤の形成を理解している。	C(2)(3)
			近世の国家・社会の変容について考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現できる。	近世の国家・社会の変容について考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	C(2)(3)
			近世社会の確立と、その成熟さらに幕藩体制の動揺に対して、見通しをもって学習に取り組むことができる。	近世社会の確立と、その成熟さらに幕藩体制の動揺に対して、見通しをもって学習に取り組んでいる。	C(2)(3)
	3	第4編 近現代の地域・日本と世界 第1章 近代社会の幕開け 第2章 歴史資料と近現代の展望 第3章 近現代社会の展望 1節 2節 1・2・3	対外関係の変容と開国、幕藩体制の崩壊と新政権の成立等について情報を調べまとめ、近世から近代への時代の転換を理解できる。	対外関係の変容と開国、幕藩体制の崩壊と新政権の成立等について情報を調べまとめ、近世から近代への時代の転換を理解している。	D(1)
			欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化、政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、近世から近代の国家・社会の変容を考察し、表現できる。	欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化、政治・経済の変化と思想への影響等に着目して、近世から近代への国家・社会の変容を考察し、表現している。	D(1)
			近現代の地域・日本と世界に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組み、課題を追究できる。	近現代の地域・日本と世界に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組み、課題を追究している。	D(1)
	4	第3章 近現代社会の展望 2節 4・5・6 3節・4節	第一次世界大戦、政党政治、恐慌と国際関係、軍部の台頭と対外政策、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開などを基に、情報を調べまとめ理解できる。	第一次世界大戦、政党政治、恐慌と国際関係、軍部の台頭と対外政策、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開などを基に、情報を調べまとめ理解している。	D(2)
			第一次世界大戦前後の対外政策や国内経済、国民の政治参加の拡大、日本の工業化の進展、第二次世界大戦と日本の動向の関わりについて考察し、解釈などを表現できる。	第一次世界大戦前後の対外政策や国内経済、国民の政治参加の拡大、日本の工業化の進展、第二次世界大戦と日本の動向の関わりについて考察し、解釈などを表現している。	D(2)
			「両大戦間期の日本」「第二次世界大戦と日本」の内容を見通しをもって学習できる。	「両大戦間期の日本」「第二次世界大戦と日本」の内容を見通しをもって学習している。	D(2)
	5	第3章 近現代社会の展望 5節 6節	占領政策と諸改革、日本国憲法の成立、戦後の経済復興、平和条約と独立の回復、高度経済成長等について調べ、理解できる。	占領政策と諸改革、日本国憲法の成立、戦後の経済復興、平和条約と独立の回復、高度経済成長等について調べ、理解している。	D(3)
			第二次世界大戦前後の政治や社会の類似と相違、国民の生活や地域社会の変化、冷戦の影響等について考察し、解釈を表現できる。	第二次世界大戦前後の政治や社会の類似と相違、国民の生活や地域社会の変化、冷戦の影響等について考察し、解釈を表現している。	D(3)
			5節「占領と改革」、6節「国際社会への復帰と高度経済成長」の内容に対して、見通しをもって学習できる。	5節「占領と改革」、6節「国際社会への復帰と高度経済成長」の内容に対して、見通しをもって学習している。	D(3)
	6	第3章 近現代社会の展望 7節 8節 第4章 現代の日本の課題の探究	情報を調べまとめ、現代の政治や社会の枠組み、国民生活の変容を理解できる。	情報を調べまとめ、現代の政治や社会の枠組み、国民生活の変容を理解している。	D(4)
			冷戦の影響、グローバル化の進展の影響などに着目して、第二次世界大戦後の国際社会における我が国の役割について考察し、解釈などを表現できる。	冷戦の影響、グローバル化の進展の影響などに着目して、第二次世界大戦後の国際社会における我が国の役割について考察し、解釈などを表現している。	D(4)
			7節「アジア情勢の変化と経済大国日本」、8節「新しい国際秩序と日本の課題」の内容に見通しをもって学習できる。	7節「アジア情勢の変化と経済大国日本」、8節「新しい国際秩序と日本の課題」の内容に見通しをもって学習している。	D(4)

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7(2025)年度	講座名	世界史探究	
●講座基礎情報					選択科目	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	2	6回	2回	1	1回	令和7年7月24日(木)
後期	1	3回	2回	1	1回	令和7年12月23日(火)
使用教科書・学習書		世界史探究(東京書籍)・世界史探究 学習書(NHK出版)				
●学習目標						
a 世界の歴史の展開について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、世界の歴史に関する情報を調べまとめる技能を身に付ける。						
b 世界の歴史の展開について、意義、特色などを、多面的・多角的に考察したり構想したり、それらを説明する力を養う。						
c 世界の歴史の展開に関わる事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。						
●評価規準						
a 知識・技能	世界の歴史の展開について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解している。世界の歴史に関する情報を調べまとめる技能を身に付けている。					
b 思考・判断・表現	世界の歴史の展開について、意義、特色などを、多面的・多角的に考察したり構想できている。それらを説明する力を身に付けている。					
c 主体的に学習に取り組む態度	世界の歴史の展開に関わる事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を身に付けている。					
●学習内容						
学習の進め方	自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。					
レポート合格基準	レポート内容80%以上の評点および各評価規準80%をもって合格とする。 提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。					
注意点	教科書に漢字で表記されている用語は漢字を使って解答すること。かな書きは減点もしくは誤答とする。					
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領	
前期	1	序章 世界史へのまなざし	人類の歴史と地球環境との関わり、古代文明や西アジア・地中海周辺の歴史的特質について理解する。	人類の歴史と地球環境との関わり、古代文明や西アジア・地中海周辺の歴史的特質について理解している。	A(1)(2) B(1)(2)(3)	
		第1編 諸地域の歴史的特質	諸事象の背景や原因、影響、事象相互の関連などに着目して、諸地域の歴史的特質を多面的・多角的に考察する。	諸事象の背景や原因、影響、事象相互の関連などに着目して、諸地域の歴史的特質を多面的・多角的に考察している。	A(1)(2) B(1)(2)(3)	
		第1章 古代文明の出現 第2章 西アジアと地中海周辺	諸地域の歴史的特質について、課題意識をもち、主体的に学習に取り組む。	諸地域の歴史的特質について、課題意識をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。	A(1)(2) B(1)(2)(3)	
	2	第3章 南アジア	地域間の交流や自然環境との関わりなどに注目しながら諸地域の歴史的特質について理解している。	地域間の交流や自然環境との関わりなどに注目しながら諸地域の歴史的特質について理解している。	B(1)(2)(3)	
		第4章 東南アジア	各地域における宗教や文化の特色、周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察する。	各地域における宗教や文化の特色、周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察している。	B(1)(2)(3)	
		第5章 東アジアと中央ユーラシア 第6章 アフリカ、オセアニア、古アメリカ	諸地域の歴史的特質について、課題意識や学習への見通しをもち、主体的に学習に取り組む。	諸地域の歴史的特質について、課題意識や学習への見通しをもち、主体的に学習に取り組もうとしている。	B(1)(2)(3)	
	3	第2編 諸地域の交流と再編	西アジア社会の動向やイスラームの伝播、ヨーロッパ封建社会とその展開、モンゴル帝国の拡大などを基に、諸地域の交流の広がりを構造的に理解する。	西アジア社会の動向やイスラームの伝播、ヨーロッパ封建社会とその展開、モンゴル帝国の拡大などを基に、諸地域の交流の広がりを構造的に理解している。	B(3) C(1)(2)	
		第7章 イスラーム世界の拡大と繁栄	諸事象の背景や原因、影響、事象相互の関連などに着目し、諸地域の交流を多面的・多角的に考察する。	諸事象の背景や原因、影響、事象相互の関連などに着目し、諸地域の交流を多面的・多角的に考察している。	B(3) C(1)(2)	
		第8章 中世ヨーロッパ 第9章 中華世界の変容とモンゴル帝国	諸地域の交流・再編について、課題意識や学習への見通しをもち、主体的に学習に取り組んでいる。	諸地域の交流・再編について、課題意識や学習への見通しをもち、主体的に学習に取り組もうとしている。	B(3) C(1)(2)	

	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領
前期	4	第10章 インド洋海域世界の発展と東南アジア 第11章 大交易時代と世界の一体化	アジア海域での交易の興隆、明と日本・朝鮮の動向、スペインとポルトガルの活動などを基に、諸地域の交易の進展とヨーロッパの進出を理解する。	アジア海域での交易の興隆、明と日本・朝鮮の動向、スペインとポルトガルの活動などを基に、諸地域の交易の進展とヨーロッパの進出を理解している。	C(2)(3)
			諸事象の背景や原因、影響、事象相互の関連などに着目し、各地域間の交易の特徴やアメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察する。	諸事象の背景や原因、影響、事象相互の関連などに着目し、各地域間の交易の特徴やアメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察している。	C(2)(3)
			諸地域の交易の進展やヨーロッパの進出について、課題意識をもち、主体的に学習に取り組む。	諸地域の交易の進展やヨーロッパの進出について、課題意識をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。	C(2)(3)
	5	第12章 ユーラシア諸帝国の繁栄 第13章 主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大	西アジアや南アジアの諸帝国、清と日本・朝鮮などの動向やヨーロッパにおける主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解する。	西アジアや南アジアの諸帝国、清と日本・朝鮮などの動向やヨーロッパにおける主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解している。	C(3)
			諸事象の背景や原因、影響、事象相互の関連などに着目し、アジア諸地域の統治の特徴やヨーロッパ諸地域の動向などを多面的・多角的に考察している。	諸事象の背景や原因、影響、事象相互の関連などに着目し、アジア諸地域の統治の特徴やヨーロッパ諸地域の動向などを多面的・多角的に考察している。	C(3)
			アジア諸帝国の繁栄やヨーロッパにおける主権国家体制の形成について、課題意識をもち、主体的に学習に取り組む。	アジア諸帝国の繁栄やヨーロッパにおける主権国家体制の形成について、課題意識をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。	C(3)
	6	第3編 一体化していく世界 第14章 国民国家と近代社会の形成	産業革命、自由主義とナショナリズム、南北戦争の展開などを基に、国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に理解する。	産業革命、自由主義とナショナリズム、南北戦争の展開などを基に、国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に理解している。	D(1)(2)
			産業革命の意義、自由主義とナショナリズムの特徴、南北アメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察する。	産業革命の意義、自由主義とナショナリズムの特徴、南北アメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察している。	D(1)(2)
			近代社会の形成について、課題意識をもち、主体的に学習に取り組む。	近代社会の形成について、課題意識をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。	D(1)(2)
後期	1	第15章 世界市場の形成とアジア諸国の変容 第16章 アジア・アフリカ諸国の統治再編と世界分割の進行	世界市場の形成とアジア諸国の変容や世界分割の進展とナショナリズムの高まりを構造的に理解する。	世界市場の形成とアジア諸国の変容や世界分割の進展とナショナリズムの高まりを構造的に理解している。	D(2)(3)
			世界経済の構造的な変化、列強の帝国主義政策の特徴、アジア諸国のナショナリズムなどを多面的・多角的に考察する。	世界経済の構造的な変化、列強の帝国主義政策の特徴、アジア諸国のナショナリズムなどを多面的・多角的に考察している。	D(2)(3)
			世界市場の形成や世界分割の進展について、課題意識をもち、主体的に学習に取り組む。	世界市場の形成や世界分割の進展について、課題意識をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。	D(2)(3)
	2	第17章 第一次世界大戦の展開と諸地域の変容 第18章 国際協調体制の動揺と第二次世界大戦 第19章 第二次世界大戦と戦後の東アジア	第一次世界大戦の展開やその後の国際関係の緊張と対立、第二次世界大戦の展開と大戦後の国際秩序について理解する。	第一次世界大戦の展開やその後の国際関係の緊張と対立、第二次世界大戦の展開と大戦後の国際秩序について理解している。	D(3)(4)
			第一次世界大戦後の国際協調主義の性格、第二次世界大戦に向かう国際関係の変化の要因などを多面的・多角的に考察する。	第一次世界大戦後の国際協調主義の性格、第二次世界大戦に向かう国際関係の変化の要因などを多面的・多角的に考察している。	D(3)(4)
			2つの世界大戦の要因や関わり、大戦後の国際秩序について、課題意識をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。	2つの世界大戦の要因や関わり、大戦後の国際秩序について、課題意識をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。	D(3)(4)
	3	第4編 グローバル化と地球的課題 第20章 冷戦の世界化と国際制度 第21章 冷戦の変容・終結と経済のグローバル化 第22章 21世紀の地球的課題と人類社会	冷戦の展開や地域紛争の頻発、経済のグローバル化、科学技術の発達などの地球的課題について理解する。	冷戦の展開や地域紛争の頻発、経済のグローバル化、科学技術の発達などの地球的課題について理解している。	E(1)(2)(3)
			今日の地球的課題について、政治・経済・社会の変化と関連させて多面的・多角的に考察する。	今日の地球的課題について、政治・経済・社会の変化と関連させて多面的・多角的に考察している。	E(1)(2)(3)
			近年の世界の変容やグローバル化、地球的課題の解決などについて課題意識をもち、主体的に学習に取り組む。	近年の世界の変容やグローバル化、地球的課題の解決などについて課題意識をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。	E(1)(2)(3)

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7（2025）年度	講座名	公共	
●講座基礎情報					必修修科目	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	1	3回	2回	1	1回	令和7年7月24日（木）
後期	1	3回	2回	1	1回	令和7年12月23日（火）
使用教科書・学習書		公共（東京書籍）・公共 学習書（NHK 出版）				
●学習目標						
<p>a 現代の諸課題を考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解し、情報を調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>b 事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、構想したことを表現する力を養う。</p> <p>c 現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養い、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。</p>						
●評価規準						
a 知識・技能		社会的事象等について理解し、その知識を身に付けている。社会的事象等を調べまとめる技能を身に付けている。				
b 思考・判断・表現		社会的事象等を見出し、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察している。社会に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想している。考察・構想したことについて説明している。				
c 主体的に学習に取り組む態度		学習対象について主体的に調べ分かつようとして課題を意欲的に追究している。よりよい社会を考え学んだことを生かそうとしている。				
●学習内容						
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。				
レポート合格基準		レポート内容80%以上の評点および各評価規準80%をもって合格とする。 提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。				
注意点		教科書に漢字で表記されている用語は漢字を使って解答すること。かな書きは減点もしくは誤答とする。				
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領	
前期	1	第1部「公共」のとびら 第1章 公共的な空間をつくる私たち—社会のなかの自己	青年期の特徴と自己形成の課題について理解できる。功利主義や義務論などの考え方について理解できる。	青年期の特徴と自己形成の課題について理解している。功利主義や義務論などの考え方について理解している。	A(1)ア (2)ア	
		第2章 公共的な空間における人間としての在り方生き方—共に生きるための倫理	青年期の特徴と自己形成の課題、生命倫理や環境倫理について考察し、それを適切な方法で表現できる。	青年期の特徴と自己形成の課題、生命倫理や環境倫理について考察し、それを適切な方法で表現している。	A(1)イ (2)イ	
			青年期の特徴と自己形成の課題、現代の諸課題について、自分自身の課題として捉え主体的に追究できる。	青年期の特徴と自己形成の課題、現代の諸課題について、自分自身の課題として捉え主体的に追究している。		
	2	第3章 公共的な空間における基本的原理—私たちの民主的な社会	民主主義、法の支配と立憲主義、地方自治及び国会、内閣、選挙等について理解できる。	民主主義、法の支配と立憲主義、地方自治及び国会、内閣、選挙等について理解している。	A(3)ア Bア(ア)	
		第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第1章 民主政治と私たち	民主主義、法の支配と立憲主義、地方自治及び国会、内閣、選挙等について多面的に考察・判断できる。	民主主義、法の支配と立憲主義、地方自治及び国会、内閣、選挙等について多面的に考察・判断している。	A(3)イ Bイ(ア)	
			民主主義、法の支配と立憲主義、地方自治及び国会、内閣、選挙等について主体的に追究できる。	民主主義、法の支配と立憲主義、地方自治及び国会、内閣、選挙等について主体的に追究している。		
	3	第2章 法の働きと私たち	法や規範の意義と役割、法の成立と適用、消費者の権利と責任、司法のしくみ等について理解できる。	法や規範の意義と役割、法の成立と適用、消費者の権利と責任、司法のしくみ等について理解している。	Bア(イ)	
			法や規範の意義と役割、法の成立と適用、消費者の権利と責任、司法のしくみ等について多面的に考察・判断できる。	法や規範の意義と役割、法の成立と適用、消費者の権利と責任、司法のしくみ等について多面的に考察・判断している。	Bイ(ア)	
			法や規範の意義と役割、法の成立と適用、消費者の権利と責任、司法のしくみ等について主体的に追究できる。	法や規範の意義と役割、法の成立と適用、消費者の権利と責任、司法のしくみ等について主体的に追究している。		

	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領
後期	1	第3章 経済社会で生きる私たち	経済活動の意義、市場経済のしくみと政府の役割、国民所得と経済成長等について、理解できる。	経済活動の意義、市場経済のしくみと政府の役割、国民所得と経済成長等について、理解している。	Bア(ウ)
			経済活動の意義、市場経済のしくみと政府の役割、国民所得と経済成長等について、多面的に考察・判断できる。	経済活動の意義、市場経済のしくみと政府の役割、国民所得と経済成長等について、多面的に考察・判断している。	Bイ(ア)
			経済活動の意義、市場経済のしくみと政府の役割、国民所得と経済成長等について、主体的に追究できる。	経済活動の意義、市場経済のしくみと政府の役割、国民所得と経済成長等について、主体的に追究している。	
	2	第4章 私たちの職業生活 第5章 国際社会のなかで生きる私たち テーマ1・テーマ2	産業社会の発達と職業の変化、労働市場の役割、労働者の権利と労働三法、等について理解できる。	産業社会の発達と職業の変化、労働市場の役割、労働者の権利と労働三法、等について理解している。	Bア(ウ)
			産業社会の発達と職業の変化、労働市場の役割、労働者の権利と労働三法、等について多面的に考察・判断できる。	産業社会の発達と職業の変化、労働市場の役割、労働者の権利と労働三法、等について多面的に考察・判断している。	Bイ(ア)
			産業社会の発達と職業の変化、労働市場の役割、労働者の権利と労働三法、等について主体的に追究できる。	産業社会の発達と職業の変化、労働市場の役割、労働者の権利と労働三法、等について主体的に追究している。	
	3	第5章 国際社会のなかで生きる私たち テーマ3・テーマ4 第3部 持続可能な社会づくりに参画するために	国際連合の役割、冷戦後の日本、貿易のしくみ、国際金融の仕組みと動向等、また課題解決に必要な事項を理解できる。	国際連合の役割、冷戦後の日本、貿易のしくみ、国際金融の仕組みと動向等、また課題解決に必要な事項を理解している。	Bア(ウ)(エ) C
			国際連合の役割、冷戦後の日本、貿易のしくみ、国際金融の仕組みと動向等、また課題解決に必要な事項を考察・判断・表現できる。	国際連合の役割、冷戦後の日本、貿易のしくみ、国際金融の仕組みと動向等、また課題解決に必要な事項を考察・判断・表現している。	Bイ(ア) C
			国際連合の役割、冷戦後の日本、貿易のしくみ、国際金融の仕組みと動向等、また課題解決に必要な事項を主体的に追究し、取り組むことができる。	国際連合の役割、冷戦後の日本、貿易のしくみ、国際金融の仕組みと動向等、また課題解決に必要な事項を主体的に追究し、取り組むことをしようとしている。	

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7（2025）年度	講座名	政治・経済	
●講座基礎情報					選択科目	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	1	3回	2回	1	1回	令和7年 7月24日（木）
後期	1	3回	2回	1	1回	令和7年12月23日（火）
使用教科書・学習書		公共（東京書籍）・公共 学習書（NHK 出版）				
●学習目標						
<p>a 現実社会の諸課題の解決に向けた探究のための概念や理論を理解し、情報を調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>b 現実社会の課題について構想したことを表現し、公正な判断のもと合意形成や社会参画にむかう力を養う。</p> <p>c 現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養い、国家や社会の形成のために積極的な役割を果たそうとする自覚を深める。</p>						
●評価規準						
a 知識・技能		現実社会の諸課題の解決に向けた探究のための概念や理論を理解できている。情報を調べまとめる技能を身に付けている。				
b 思考・判断・表現		現実社会の課題について構想したことを表現できている。公正な判断ができ、合意形成や社会参画にむかう力を身に付けている。				
c 主体的に学習に取り組む態度		現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度が見られる。国家や社会の形成のために積極的な役割を果たそうとする自覚を深めることができている。				
●学習内容						
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。				
レポート合格基準		レポート内容80%以上の評点および各評価規準80%をもって合格とする。提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。				
注意点		教科書に漢字で表記されている用語は漢字を使って解答すること。かな書きは減点もしくは誤答とする。				
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領	
前期	1	第1編 現代日本の政治と経済 第1章 現代日本の政治 1節 民主政治の基本原則 2節 日本国憲法の基本原則	民主政治や日本国憲法の基本原理について理解を深める。	民主政治や日本国憲法の基本原理について理解を深めている。	A(1)ア	
			望ましい政治のあり方ならびに主権者としての政治参加のあり方について、多面的・多角的に考察、構想し、表現する。	望ましい政治のあり方ならびに主権者としての政治参加のあり方について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	A(1)イ	
			現代の日本政治について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする。	現代の日本政治について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。		
	2	3節 日本の政治機構 4節 現代政治の特質と課題	現代政治のしくみやその課題について理解する。	現代政治のしくみやその課題について理解している。	A(1)ア	
			日本の政治機構にはどのような課題があり、どうすればそれを解決できるか多面的・多角的に考察し、表現する。	日本の政治機構にはどのような課題があり、どうすればそれを解決できるか多面的・多角的に考察し、表現している。	A(1)イ	
			現代の日本政治について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする。	現代の日本政治について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。		
	3	第2章 現代日本の経済 1節 現代の資本主義経済 2節 現代経済のしくみ	資本主義経済や現代経済のしくみについて理解する。	資本主義経済や現代経済のしくみについて理解している。	A(1)ア	
			現代の経済はどのようなしくみで、どのような課題を抱えているか多面的・多角的に考察し、表現する。	現代の経済はどのようなしくみで、どのような課題を抱えているか多面的・多角的に考察し、表現している。	A(1)イ	
			現代の資本主義経済や日本経済について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする。	現代の資本主義経済や日本経済について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする。		

			する。	している。	
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領
後期	1	3節 日本経済の発展と現状 4節 福祉社会と日本経済の課題	戦後日本経済の発展と、日本経済の現状について理解する。	戦後日本経済の発展と、日本経済の現状について理解している。	A(1)ア
			現在の日本経済が抱える課題に着目しながら、戦後の日本経済がどのような変遷をたどってきたか多面的・多角的に考察し、表現する。	現在の日本経済が抱える課題に着目しながら、戦後の日本経済がどのような変遷をたどってきたか多面的・多角的に考察し、表現している。	A(1)イ
			現代の日本経済について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする。	現代の日本経済について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	
	2	第3章 現代日本の諸課題 第2編 グローバル化する国際社会 第1章 現代の国際政治	国際社会の変遷や国際機構の役割、国際政治の課題、日本の国際貢献について理解している。	国際社会の変遷や国際機構の役割、国際政治の課題、日本の国際貢献について理解している。	B(1)ア
			国際法の果たす役割および国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について、多面的・多角的に考察、構想し、表現する。	国際法の果たす役割および国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	B(1)イ
			現代の国際政治について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする。	現代の国際政治について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	
	3	第2章 現代の国際経済 第3章 国際社会の諸課題	現代の国際経済のしくみや、国際協調の必要性、国際経済機関の役割について、現実社会の諸事象を通して理解を深める。	現代の国際経済のしくみや、国際協調の必要性、国際経済機関の役割について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。	B(1)ア
			国際経済において果たすことが求められる日本の役割について、多面的・多角的に考察、構想し、表現する。	国際経済において果たすことが求められる日本の役割について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	B(1)イ B(2)ア
			現代の国際経済について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決する。	現代の国際経済について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7（2025）年度	講座名	数学入門（1）	
●講座基礎情報					選択科目	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	1	3回	2回	1	1回	令和7年 7月24日（木）
後期	1	3回	2回	1	1回	令和7年12月23日（火）
使用教科書・学習書		数学I入門学習書（NHK出版）				
●学習目標						
<p>a 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。</p> <p>b 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付ける。</p> <p>c 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を身に付ける。</p>						
●評価規準						
a 知識・技能		数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。				
b 思考・判断・表現		数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。				
c 主体的に学習に取り組む態度		数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を身に付けている。				
●学習内容						
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。				
レポート合格基準		レポート内容80%以上の評点および各評価規準80%をもって合格とする。 提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点cにおいて減点する。				
注意点		答だけでなく、途中の過程も記述するよう指示されている問題については、その指示に沿っていない場合は空欄とみなす。				
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領	
半 期 （ 前 期 ま た は 後 期）	1	1章 数の計算 1 整数 2 正負の数の計算 3 小数の計算 4 分数の計算 5 計算の利用	・整数、分数などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解することができる。	・整数、分数などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。	以下の学習指導要領に準ずる。 ・小学校算数科領域A ・中学校数学科領域A	
			・整数、分数などの性質や計算について考察したり表現したりすることができる。	・整数、分数などの性質や計算について考察したり表現したりしている。		
			・事象を数の計算の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。	・事象を図形の性質の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。		
	2	2章 数と式 1 文字と式	・文字を用いた式の基礎的な概念や原理・法則などを理解することができる。	・文字を用いた式の基礎的な概念や原理・法則などを理解している。	以下の学習指導要領に準ずる。 ・中学校数学科領域A	
			・文字を用いた式の加減乗除の計算の方法を考察したり表現したりすることができる。	・文字を用いた式の加減乗除の計算の方法を考察したり表現したりしている。		
			・事象を文字を用いた式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。	・事象を文字を用いた式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。		
	3	2章 数と式 2 実数	・数の平方根についての基礎的な概念や原理・法則などを理解することができる。	・数の平方根についての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。	以下の学習指導要領に準ずる。 ・中学校数学科領域A	
			・数の平方根を含む式の計算の方法を考察したり表現したりすることができる。	・数の平方根を含む式の計算の方法を考察したり表現したりしている。		
			・事象を数の平方根の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。	・事象を数の平方根の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。		

浜田高等学校通信制課程		開講年度		令和7(2025)年度	講座名	数学入門(2)	
●講座基礎情報						選択科目	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日	
前期	1	3	2回	1	1回	令和7年 7月24日(木)	
後期	1	3	2回	1	1回	令和7年12月23日(火)	
使用教科書・学習書		数学I入門学習書(NHK出版)					
●学習目標							
a 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。							
b 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付ける。							
c 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を身に付ける。							
●評価規準							
a 知識・技能	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。						
b 思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。						
c 主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を身に付けている。						
●学習内容							
学習の進め方	自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。						
レポート合格基準	レポート内容80%以上の評点および各評価規準80%をもって合格とする。 提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点cにおいて減点する。						
注意点	答だけでなく、途中の過程も記述するよう指示されている問題については、その指示に沿っていない場合は空欄とみなす。						
レポート計画							
	回	学習内容	学習の目標		学習の評価規準		学習指導要領
半 期 (前 期 ま た は 後 期)	1	2章 数と式 3 方程式	・1次方程式、2次方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解することができる。		・1次方程式、2次方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。		以下の学習指導要領に準ずる。 ・中学校数学科領域A
			・1次方程式、2次方程式を解く方法を考察したり表現したりすることができる。		・1次方程式、2次方程式を解く方法を考察したり表現したりしている。		
			・事象を1次方程式、2次方程式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。		・事象を1次方程式、2次方程式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。		
	2	3章 関数 1 関数	・関数関係や座標の意味、1次関数や2次関数についての基礎的な概念や原理・法則などを理解することができる。		・関数関係や座標の意味、1次関数や2次関数についての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。		以下の学習指導要領に準ずる。 ・小学校算数科領域D ・中学校数学科領域C
			・関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察したり表現したりすることができる。		・関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察したり表現したりしている。		
			・事象を関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。		・事象を関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。		
	3	4章 平面図形 1 三角形 5章 データの分析 1 様々なグラフ	・相似な三角形、三平方の定理についての基礎的な概念や原理・法則などを理解することができる。		・相似な三角形、三平方の定理についての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。		以下の学習指導要領に準ずる。 ・小学校算数科領域C, D ・中学校数学科領域B, C
			・データの分布についての基礎的な概念や原理・法則などを理解することができる。		・データの分布についての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。		
			・図形の構成要素の関係に着目し、図形の性質や計量について考察したり表現したりすることができる。		・図形の構成要素の関係に着目し、図形の性質や計量について考察したり表現したりしている。		
		・データの分布に着目し、その傾向を読み取って考察したり表現したりすることができる。		・データの分布に着目し、その傾向を読み取って考察したり表現したりしている。			
		・事象を平面図形の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。		・事象を平面図形の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。			
		・事象をデータの分析の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。		・事象をデータの分析の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。			

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7（2025）年度	講座名	数学Ⅰ（1）	
●講座基礎情報					必履修科目	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	1	3回	2回	1	1回	令和7年 7月24日（木）
後期	1	3回	2回	1	1回	令和7年12月23日（火）
使用教科書・学習書		『新数学Ⅰ』（東京書籍） 学習書（NHK出版）				
●学習目標						
a 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。						
b 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付ける。						
c 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を身に付ける。						
●評価規準						
a 知識・技能		数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。				
b 思考・判断・表現		数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。				
c 主体的に学習に取り組む態度		数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を身に付けている。				
●学習内容						
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。				
レポート合格基準		レポート内容80%以上の評点および各評価規準80%をもって合格とする。 提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点cにおいて減点する。				
注意点		答だけでなく、途中の過程も記述するよう指示されている問題については、その指示に沿っていない場合は空欄とみなす。				
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標		学習の評価規準	学習指導要領
半 期 （ 前 期 ま た は 後 期）	1	1章 数と式	・乗法公式及び因数分解の公式の理解を適切に用いて計算することができる。		・乗法公式及び因数分解の公式の理解を適切に用いて計算している。	(1)ア(ウ)
		1節 文字と式	・問題を解決する際に、既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。		・問題を解決する際に、既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形している。	(1)イ(イ)
		1 文字を使った式 2 多項式と単項式 3 多項式の計算(1) 4 多項式の計算(2) 5 乗法公式 6 因数分解(1) 7 因数分解(2) 8 展開, 因数分解のくふう	・事象を数と式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。		・事象を数と式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。	
	2	1章 数と式	・数を実数まで拡張する意義を理解するとともに、簡単な無理数の四則計算をすることができる。		・数を実数まで拡張する意義を理解するとともに、簡単な無理数の四則計算をしている。	(1)ア(ア)
		2節 実数	・問題を解決する際に、既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。		・問題を解決する際に、既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形している。	(1)イ(イ)
		1 平方根 2 根号をふくむ式の計算 3 数の分類 4 分数と小数	・事象を数と式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。		・事象を数と式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。	
	3	1章 数と式	・不等式の解の意味や不等式の性質について理解するとともに、一次不等式の解を求めることができる。		・不等式の解の意味や不等式の性質について理解するとともに、一次不等式の解を求めている。	(1)ア(エ)
		3節 方程式と不等式	・一次方程式を解く方法や不等式の性質を基に一次不等式を解く方法を考察することができる。		・一次方程式を解く方法や不等式の性質を基に一次不等式を解く方法を考察している。	(1)イ(ウ)
		1 1次方程式 2 不等式 3 不等式の性質 4 不等式の解 5 不等式の解き方 6 2次方程式とその解き方 7 2次方程式の解の公式	・事象を数と式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。		・事象を数と式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。	

※ 思考・判断・表現…(1)イ(エ)の事項は面接指導(スクーリング)を主とした学習活動を通して育成する。

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7（2025）年度	講座名	数学Ⅰ（2）	
●講座基礎情報					必履修科目	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	2	6回	2回	1	1回	令和7年7月24日（木）
後期	2	6回	2回	1	1回	令和7年12月23日（火）
使用教科書・学習書		『新数学Ⅰ』（東京書籍） 学習書（NHK出版）				
●学習目標						
a 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。						
b 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付ける。						
c 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を身に付ける。						
●評価規準						
a 知識・技能		数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。				
b 思考・判断・表現		数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。				
c 主体的に学習に取り組む態度		数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を身に付けている。				
●学習内容						
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。				
レポート合格基準		レポート内容80%以上の評点および各評価規準80%をもって合格とする。 提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点cにおいて減点する。				
注意点		答だけでなく、途中の過程も記述するよう指示されている問題については、その指示に沿っていない場合は空欄とみなす。				
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領	
半 期 （ 前 期 ま た は 後 期 ）	1	2章 2次関数	<ul style="list-style-type: none"> 2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解することができる。 2次関数の式とグラフとの関係について、多面的に考察することができる。 事象を2次関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。 2次関数の式とグラフとの関係について、多面的に考察している。 事象を2次関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。 	(3) ア (ア)	
		1節 2次関数とそのグラフ				(3) イ (ア)
		1 関数				
	2	2 1次関数とそのグラフ	<ul style="list-style-type: none"> 2次関数の最大値や最小値を求めることができる。 2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解することができる。 2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求めることができる。 2次関数の最大・最小、2次方程式・2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について、多面的に考察することができる。 事象を2次関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 2次関数の最大値や最小値を求めている。 2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解している。 2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求めている。 2次関数の最大・最小、2次方程式・2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について、多面的に考察している。 事象を2次関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。 	(3) ア (イ) ア (ウ) ア (ウ)	
		3 2次関数とそのグラフ				
		4 グラフの平行移動				
5 $y = ax^2 + bx + c$ のグラフ						
3	3章 三角比	<ul style="list-style-type: none"> 鋭角の三角比の意味とその基本的な性質や相互関係について理解することができる。 図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現して考察することができる。 測量の問題に三角比を活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 鋭角の三角比の意味とその基本的な性質や相互関係について理解している。 図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現して考察している。 測量の問題に三角比を活用している。 	(2) ア (ア) イ (イ)		
	1節 鋭角の三角比					
	1 三角形					
	2 タンジェント					
	3 サインとコサイン					
4 三角比の利用						
5 三角比の相互関係						

	6 90°-Aの三角比	<ul style="list-style-type: none"> 事象を図形と計量の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 事象を図形と計量の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。 	
4	3章 三角比 2節 鋭角の三角比 1 三角形の面積 2 正弦定理 3 余弦定理 4 鈍角の三角比 5 三角比の相互関係 6 鈍角の三角比の利用	<ul style="list-style-type: none"> 正弦定理や余弦定理を用いて三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。 鈍角の三角比を理解し、それを利用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 正弦定理や余弦定理を用いて三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めている。 鈍角の三角比を理解し、それを利用している。 	(2) ア (ウ) ア (イ)
		<ul style="list-style-type: none"> 図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現し、定理や公式と繋げて考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現し、定理や公式と繋げて考察している。 	(2) イ (ア)
		<ul style="list-style-type: none"> 事象を図形と計量の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 事象を図形と計量の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。 	
5	4章 データの分析 1 データにもとづいた問題解決の進め方 2 データの特徴の調べ方 3 代表値 4 四分位数と箱ひげ図 5 分散と標準偏差 6 相関関係 7 相関係数 8 データにもとづく考え方	<ul style="list-style-type: none"> 分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその使い方を理解することができる。 データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりすることができる。 具体的な事象において仮説検定の考え方を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその使い方を理解している。 データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりしている。 具体的な事象において仮説検定の考え方を理解している。 	(4) ア (ア) ア (イ) ア (ウ)
		<ul style="list-style-type: none"> データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察することができる。 収集したデータを適切な手法で分析し、事象の傾向や特徴を表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察している。 収集したデータを適切な手法で分析し、事象の傾向や特徴を表現している。 	(4) イ (ア) イ (イ)
		<ul style="list-style-type: none"> 事象をデータの分析の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 事象をデータの分析の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。 	
6	5章 集合と論証 1 集合 2 集合と命題 3 命題と証明	<ul style="list-style-type: none"> 集合と命題に関する基本的な概念を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 集合と命題に関する基本的な概念を理解している。 	(1) ア (イ)
		<ul style="list-style-type: none"> 集合の考えを用いて命題を論理的に考察し、簡単な命題の証明をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 集合の考えを用いて命題を論理的に考察し、簡単な命題の証明をしている。 	(1) イ (ア)
		<ul style="list-style-type: none"> 事象を集合と論証の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 事象を集合と論証の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。 	

※ 知識・技能 … (4) ア (イ) のコンピューターなどの情報機器を用いる機会は、面接指導（スクーリング）を主とした学習活動を通して育成する。

※ 思考・判断・表現 … (3) イ (ア) のコンピューターなどの情報機器を用いる機会、(3) イ (イ) の事項、(4) イ (ウ) の事項は面接指導（スクーリング）を主とした学習活動を通して育成する。

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7（2025）年度	講座名	数学Ⅱ	
●講座基礎情報					選択科目	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	2	6回	2回	1	1回	令和7年 7月24日（木）
後期	2	6回	2回	1	1回	令和7年12月23日（火）
使用教科書・学習書		『新 数学Ⅱ』（東京書籍） 学習書（NHK出版）				
●学習目標						
a 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。						
b 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付ける。						
c 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を身に付ける。						
●評価規準						
a 知識・技能		数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。				
b 思考・判断・表現		数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。				
c 主体的に学習に取り組む態度		数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を身に付けている。				
●学習内容						
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。				
レポート合格基準		レポート内容80%以上の評点および各評価規準80%をもって合格とする。 提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点cにおいて減点する。				
注意点		答だけでなく、途中の過程も記述するよう指示されている問題については、その指示に沿っていない場合は空欄とみなす。				
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領	
前期	1	1章 方程式・式と証明	・3次式、分数式、複素数についての基礎的な概念や原理・法則などを理解することができる。	・3次式、分数式、複素数についての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。	(1) ア(ア) (イ)(ウ)	
		1 節式の計算				
		1 3次の乗法公式と因数分解	・式の計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け、多面的に考察し表現することができる	・式の計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け、多面的に考察し表現している。		
		2 二項定理				
		3 分数式のかけ算とわり算	・事象をいろいろな式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。	・事象をいろいろな式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。		
		4 分数式のたし算とひき算				
	2節 2次方程式	1 複素数 2 複素数の計算	・二次方程式、高次方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解することができる。	・二次方程式、高次方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。		
	1 複素数					
	2	1章 方程式・式と証明	・いろいろな事象を数学的に捉え、方程式を問題解決に活用することができる。	・いろいろな事象を数学的に捉え、方程式を問題解決に活用している。	(1) イ(ウ)	
		2節 2次方程式				
		3 2次方程式の解				
	4 解と係数の関係	・事象を方程式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。	・事象を方程式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。			
3節 高次方程式						
1 多項式のわり算	2 高次方程式	・等式の証明、不等式の証明についての基礎的な概念や原理・法則などを理解することができる。	・等式の証明、不等式の証明についての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。			
2 因数定理						
3	1章 方程式・式と証明	・実数の性質や等式・不等式の性質などを基に、等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明できる。	・実数の性質や等式・不等式の性質などを基に、等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明している。	(1) ア(ア) (イ)(イ)		
	4節 式と証明					
	1 等式の証明					
2 不等式の証明	・事象を式と証明の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。	・事象を式と証明の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。				
2 不等式の証明						
4	2章 図形と方程式	・直線上の点や平面上の点についての基礎的な概念や原理・法則などを理解することができる。	・直線上の点や平面上の点についての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。	(2) ア(ア) (イ)(ア)		
	1節 座標と直線の方程式					
	1 直線上の点の座標	・座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、図形の性質や位置関係について考察することができる。	・座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、図形の性質や位置関係について考察している。			
2 平面上の点の座標						

			・事象を図形と方程式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。	・事象を図形と方程式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。		
後期	5	2章 図形と方程式 1節 座標と直線の方程式 3 直線の方程式 4 2直線の関係	・直線の方程式、円の方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解することができる。	・直線の方程式、円の方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。	(2) ア (イ)	
		2節 円の方程式 1 円の方程式 2 円と直線	・直線や円のなどの座標平面上の図形を、方程式を用いて考察したり表現することができる。	・直線や円のなどの座標平面上の図形を、方程式を用いて考察したり表現している。	(2) イ (ア)	
			・事象を図形と方程式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。	・事象を図形と方程式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。		
	6	2章 図形と方程式 3節 軌跡と領域 1 軌跡 2 不等式の表す領域 3 連立不等式の表す領域	・軌跡、不等式の表す領域についての基礎的な概念や原理・法則などを理解することができる。	・軌跡、不等式の表す領域についての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。	(2) ア (ウ) (エ)	
			・座標平面上の図形について、それを軌跡や領域を用いて考察したり表現することができる。	・座標平面上の図形について、それを軌跡や領域を用いて考察したり表現している。	(2) イ (ア)	
			・事象を図形と方程式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。	・事象を図形と方程式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。		
	後期	1	3章 三角関数 1節 三角関数 1 一般角 2 三角関数 3 三角関数の相互関係 4 三角関数のグラフ 5 三角関数の性質	・一般角と弧度法、三角関数の値の変化やグラフ、三角関数の相互関係についての基礎的な概念や原理・法則などを理解することができる。	・一般角と弧度法、三角関数の値の変化やグラフ、三角関数の相互関係についての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。	(4) ア (ア) (イ) (ウ)
				・三角関数に関する様々な性質、三角関数の式とグラフの関係について、考察したり表現することができる。	・三角関数に関する様々な性質、三角関数の式とグラフの関係について、考察したり表現している。	(4) イ (ア) (イ)
				・事象を三角関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。	・事象を三角関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。	
		2	3章 三角関数 2節 加法定理 1 加法定理 2 加法定理の応用 3 弧度法	・三角関数の加法定理や2倍角の公式、三角関数の合成について理解することができる。	・三角関数の加法定理や2倍角の公式、三角関数の合成について理解している。	(4) ア (エ)
				・三角関数の加法定理から新たな性質を考察したり表現することができる。	・三角関数の加法定理から新たな性質を考察したり表現している。	(4) イ (ア)
				・事象を三角関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。	・事象を三角関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。	
3		4章 指数関数と対数関数 1節 指数関数 1 整数の指数 2 累乗根 3 分数の指数 4 指数関数とそのグラフ 5 指数関数の利用	・指数を有理数まで拡張した数や式の計算、指数関数の値の変化やグラフの特徴についての基礎的な概念や原理・法則などを理解することができる。	・指数を有理数まで拡張した数や式の計算、指数関数の値の変化やグラフの特徴についての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。	(3) ア (ア) (イ)	
			・指数関数の式とグラフの関係について考察したり表現することができる。	・指数関数の式とグラフの関係について考察したり表現している。	(3) イ (イ)	
			・事象を指数関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。	・事象を指数関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。		
4		4章 指数関数と対数関数 2節 対数関数 1 対数 2 対数の性質 3 対数関数とそのグラフ 4 常用対数	・対数の意味と計算、対数関数の値の変化やグラフの特徴についての基礎的な概念や原理・法則などを理解することができる。	・対数の意味と計算、対数関数の値の変化やグラフの特徴についての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。	(3) ア (ウ) (エ)	
			・指数と対数を相互の関連、対数関数の式とグラフの関係について考察したり表現することができる。	・指数と対数を相互の関連、対数関数の式とグラフの関係について考察したり表現している。	(3) イ (ア) (イ)	
			・事象を対数関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。	・事象を対数関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。		
5	5章 微分と積分 1節 微分係数と導関数 1 平均変化率 2 微分係数 3 導関数 4 導関数の計算 5 接線 2節 導関数の応用 1 関数の増加・減少 2 関数の極大・極小 3 関数の最大・最小	・微分係数、導関数、関数の値の増減と極大・極小及びグラフの概形についての基礎的な概念や原理・法則などを理解することができる。	・微分係数、導関数、関数の値の増減と極大・極小及びグラフの概形についての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。	(5) ア (ア) (イ)		
		・関数とその導関数との関係について考察したり表現することができる。	・関数とその導関数との関係について考察したり表現している。	(5) イ (ア)		
		・事象を微分の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。	・事象を微分の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。			
6	5章 微分と積分 3節 積分 1 不定積分 2 定積分 3 面積	・不定積分、定積分についての基礎的な概念や原理・法則などを理解することができる。	・不定積分、定積分についての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。	(5) ア (ウ)		
		・直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積の求め方について考察したり表現することができる。	・直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積の求め方について考察したり表現している。	(5) イ (ウ)		
		・事象を積分の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。	・事象を積分の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。			

※ 思考・判断・表現 … (2) イ (イ)、(3) イ (ウ)、(4) イ (ウ)、及び (5) イ (イ) の事項は面接指導 (スクーリング) を主とした学習活動を通して育成する。

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7（2025）年度	講座名	数学A	
●講座基礎情報					選択科目	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	1	3回	2回	1	1回	令和7年 7月24日（木）
後期	1	4回	2回	1	1回	令和7年12月23日（火）
使用教科書・学習書		『新 数学A』（東京書籍） 学習書（NHK出版）				
●学習目標						
a 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。						
b 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付ける。						
c 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を身に付ける。						
●評価規準						
a 知識・技能		数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。				
b 思考・判断・表現		数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。				
c 主体的に学習に取り組む態度		数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を身に付けている。				
●学習内容						
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。				
レポート合格基準		レポート内容80%以上の評点および各評価規準80%をもって合格とする。 提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点cにおいて減点する。				
注意点		答だけでなく、途中の過程も記述するよう指示されている問題については、その指示に沿っていない場合は空欄とみなす。				
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領	
前期	1	1章 場合の数と確率	<ul style="list-style-type: none"> 集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則などの数え上げの原則について理解することができる。 具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し、順列の総数や組合せの総数を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則などの数え上げの原則について理解している。 具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し、順列の総数や組合せの総数を求めている。 	(2)ア(ア)	
		1節 場合の数				(2)ア(イ)
		1 集合				
		2 集合の要素の個数				
		3 個数の数え方			(2)イ(ア)	
		4 和の法則と積の法則				
		5 順列				
		6 順列の利用			(2)イ(イ)	
		7 いろいろな順列				
8 組合せ						
9 組合せの利用						
2	2章 確率 ①～④	1章 場合の数と確率	<ul style="list-style-type: none"> 確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率を求めることができる。 確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察することができる。 事象を場合の数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率を求めている。 確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察している。 事象を場合の数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。 	(2)ア(ウ)	
		2節 確率 ①～④				(2)イ(イ)
		1 事象と確率				
		2 確率の計算				
		3 排反事象の確率			(2)イ(イ)	
		4 余事象の確率				
5 独立な試行の確率						
3	3章 確率 ⑤～⑧	1章 場合の数と確率	<ul style="list-style-type: none"> 独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求めることができる。 条件付き確率の意味を理解し、簡単な場合について条件付き確率を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求めている。 条件付き確率の意味を理解し、簡単な場合について条件付き確率を求めている。 	(2)ア(エ)	
		2節 確率 ⑤～⑧				(2)ア(オ)
		5 独立な試行の確率				
		6 反復試行の確率				
7 条件付き確率						

		8 期待値	<ul style="list-style-type: none"> 確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりすることができる。 事象を場合の数や確率の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用している。 事象を場合の数や確率の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。 	(2) イ (ウ)		
後 期	1	2章 図形の性質 1節 平面図形の基礎 1 直線と角 2 多角形の角 3 三角形の合同と相似 4 基本の作図 5 作図の利用	<ul style="list-style-type: none"> 平面図形に関する基本的な性質について理解することができる。 図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 事象を図形の性質の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 平面図形に関する基本的な性質について理解している。 図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりしている。 事象を図形の性質の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。 	(1) ア (ア) (1) イ (ア) (1) イ (イ)		
		2	2章 図形の性質 2節 三角形の性質 1 三角形と比 2 三角形の重心 3 三角形の外心と内心 4 角の二等分線と線分の比	<ul style="list-style-type: none"> 三角形に関する基本的な性質について理解することができる。 三角形の構成要素間の関係や既に学習した三角形の性質に着目し、三角形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 事象を三角形の性質の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 三角形に関する基本的な性質について理解している。 三角形の構成要素間の関係や既に学習した三角形の性質に着目し、三角形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりしている。 事象を三角形の性質の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。 	(1) ア (ア) (1) イ (ア) (1) イ (イ)	
			3	2章 図形の性質 3節 円の性質 1 円の接線 2 円周角の定理 3 円に内接する四角形 4 接線と弦のつくる角 5 方べきの定理 6 2つの円 4節 空間図形 1 直線や平面の位置関係 2 多面体	<ul style="list-style-type: none"> 円に関する基本的な性質について理解することができる。 空間図形に関する基本的な性質について理解することができる。 円の構成要素間の関係や既に学習した円の性質に着目し、円の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 空間図形の構成要素間の関係や既に学習した空間図形の性質に着目し、空間図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 事象を円や空間図形の性質の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 円に関する基本的な性質について理解している。 空間図形に関する基本的な性質について理解している。 円の構成要素間の関係や既に学習した円の性質に着目し、円の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりしている。 空間図形の構成要素間の関係や既に学習した空間図形の性質に着目し、空間図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりしている。 事象を円や空間図形の性質の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。 	(1) ア (イ) (1) ア (ウ) (1) イ (ア) (1) イ (イ) (1) イ (ア) (1) イ (イ)
	4				3章 数学と人間の活動 1節 数や位置を表す ①数を表す～④位置を表す 2節 数のつくりを調べる ①約数と倍数～③ユークリッドの互除法 3節 はかる ①測る～③計る 4節 数学で遊ぶ ①数で遊ぼう～⑤和算で遊ぼう	<ul style="list-style-type: none"> 数量や図形に関する概念などと人間の活動との関わりについて理解することができる。 数学と文化との関わりについての理解を深めることができる。 数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察できる。 パズルなどに数学的な要素を見だし、目的に応じて数学を活用して考察することができる。 人間の活動における数学のよさを認識し、様々な場面で数学を活用しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 数量や図形に関する概念などと人間の活動との関わりについて理解している。 数学と文化との関わりについての理解を深めている。 数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察している。 パズルなどに数学的な要素を見だし、目的に応じて数学を活用して考察している。 人間の活動における数学のよさを認識し、様々な場面で数学を活用しようとしている。

※ 思考・判断・表現 … (1) イ (イ) のコンピューターなどの情報機器を用いる機会は面接指導（スクーリング）を主とした学習活動を通して育成する。

浜田高等学校通信制課程		開講年度		令和7(2025)年度	講座名	科学と人間生活
●講座基礎情報						必修修科目
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	2	3回	4回	1	2回	令和7年7月24日(木)
後期	2	3回	4回	1	2回	令和7年12月23日(火)
使用教科書・学習書		科学と人間生活(東京書籍)・科学と人間生活 学習書(NHK出版)				
●学習目標						
a 自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。						
b 観察、実験などから得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを論理的に表現する。						
c 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究し、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かす。						
●評価規準						
a 知識・技能		自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについて理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。				
b 思考・判断・表現		観察、実験などから得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを論理的に表現している。				
c 主体的に学習に取り組む態度		自然の事物・現象に主体的にかかわり、科学的に探究し、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。				
●学習内容						
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。				
レポート合格基準		レポート内容80%以上の得点および各評価規準80%をもって合格とする。提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。				
注意点		漢字の間違えは減点する。「なし」、「特になし」、問題の指示に沿っていない場合は、空欄とみなす。				
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領	
前期	1	2編 物質の科学 1章 材料とその再利用 1 リサイクルとは何か 2 金属の性質とその再利用	・金属の種類、性質および用途と資源の再利用について理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などについて理解することができる。	・金属の種類、性質および用途と資源の再利用について理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などについて理解している。	(2)ア(1) ㊦	
			・材料とその再利用について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察することができる。	・材料とその再利用について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察している。	(2)イ	
			・材料とその再利用に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	・材料とその再利用に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。		
	2	3 プラスチックの性質とその再利用 3編 光や熱の科学 2章 熱の性質とその利用 1 熱とは何か	・プラスチックの種類、性質および用途と資源の再利用、熱について理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などを理解することができる。	・プラスチックの種類、性質および用途と資源の再利用、熱について理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などを理解している。	(2)ア(1) ㊦, (2)ア(7) ㊱	
			・材料とその再利用、熱について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察することができる。	・材料とその再利用、熱について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察している。	(2)イ	
			・材料とその再利用、熱に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	・材料とその再利用、熱に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。		
	3	1 熱とは何か 2 エネルギーの利用と私たちの暮らし	・熱容量と比熱、熱の伝わり方について理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などを理解することができる。	・熱容量と比熱、熱の伝わり方について理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などを理解している。	(2)ア(7) ㊱	
			・熱容量と比熱、熱の伝わり方について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察することができる。	・熱容量と比熱、熱の伝わり方について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察している。	(2)イ	
			・熱容量と比熱、熱の伝わり方に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	・熱容量と比熱、熱の伝わり方に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。		

		学習内容	学習の目標	学習の評価基準	学習指導要領
後期	1	1編 生命の科学 2章 ヒトの生命現象 1 ヒトの視覚と光による影響 2 血糖濃度を調節するしくみ	・視覚、血糖について、人間生活と関連付けて理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などを理解することができる。	・視覚、血糖について、人間生活と関連付けて理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などを理解している。	(2)ア(ウ) ㊦
			・視覚、血糖について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察することができる。	・視覚、血糖について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察している。	(2)イ
			・視覚、血糖に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	・視覚、血糖に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	
	2	3 体を守る免疫のしくみ 4 生命現象の大本となる遺伝子のはたらき	・免疫、遺伝子について理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などについて理解することができる。	・免疫、遺伝子について理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などについて理解している。	(2)ア(ウ) ㊦
			・免疫、遺伝子について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察することができる。	・免疫、遺伝子について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察している。	(2)イ
			・免疫、遺伝子に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	・免疫、遺伝子に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	
	3	4編 宇宙や地球の科学 1章 太陽と地球 1 太陽と月がもたらすリズム 2 太陽が動かす大気と水	・太陽などの身近に見られる天体の運動や太陽の放射エネルギーについて理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などを理解することができる。	・太陽などの身近に見られる天体の運動や太陽の放射エネルギーについて理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などを理解している。	(2)ア(イ) ㊦
			・太陽と地球について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察することができる。	・太陽と地球について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察している。	(2)イ
			・太陽と地球に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	・太陽と地球に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7(2025)年度	講座名	物理基礎	
●講座基礎情報					必修修科目	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	2	3回	4回	1	2回	令和7年7月24日(木)
後期	2	3回	4回	1	2回	令和7年12月23日(火)
使用教科書・学習書		新編物理基礎(東京書籍)・新編物理基礎 学習書(NHK出版)				
●学習目標						
a 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。						
b 観察、実験などから得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを論理的に表現する。						
c 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究し、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かす。						
●評価規準						
a 知識・技能		日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。				
b 思考・判断・表現		観察、実験などから得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを論理的に表現している。				
c 主体的に学習に取り組む態度		物体の運動と様々なエネルギーに主体的にかかわり、科学的に探究し、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。				
●学習内容						
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。				
レポート合格基準		レポート内容80%以上の得点および各評価規準80%をもって合格とする。 提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。				
注意点		各レポートに実践課題があるので、早目に確認すること。漢字の間違えは減点する。「なし」、「特になし」、問題の指示に沿っていない場合は、空欄とみなす。				
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領	
前期	1	1編 物体の運動とエネルギー 1章 直線運動の世界	・運動の表し方について理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などを理解することができる。	・運動の表し方について理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などを理解している。	(1)ア(7), (1)⑤	
			・運動の表し方について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察することができる。	・運動の表し方について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察している。		
			・運動の表し方に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	・運動の表し方に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。		
	2	2章 力と運動の法則	・さまざまな力とそのはたらきについて理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などについて理解することができる。	・さまざまな力とそのはたらきについて理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などについて理解している。	(1)ア(1), イ	
			・さまざまな力とそのはたらきについて、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察することができる。	・さまざまな力とそのはたらきについて、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察している。		
			・さまざまな力とそのはたらきに関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	・さまざまな力とそのはたらきに関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。		
	3	3章 力学的エネルギー	・力学的エネルギーについて理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などについて理解することができる。	・力学的エネルギーについて理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などについて理解している。	(1)ア(7), イ	
			・力学的エネルギーについて、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察することができる。	・力学的エネルギーについて、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察している。		
			・力学的エネルギーに関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	・力学的エネルギーに関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。		

	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領
後期	1	2編 さまざまな物理現象とエネルギー 1章 熱	・熱について理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などを理解することができる。	・熱について理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などを理解している。	(2)ア(イ), イ
			・熱について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察することができる。	・熱について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察している。	
			・熱に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	・熱に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	
	2	2章 波	・波について理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などを理解することができる。	・波について理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などを理解している。	(2)ア(ア), イ
			・波について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察することができる。	・波について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察している。	
			・波に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	・波に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	
	3	3章 電気 4章 エネルギーとその利用	・電気、さまざまなエネルギーの特性や利用について理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などを理解することができる。	・電気、さまざまなエネルギーの特性や利用について理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などを理解している。	(2)ア(ウ), イ
			・電気、さまざまなエネルギーの特性や利用について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察することができる。	・電気、さまざまなエネルギーの特性や利用について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察している。	
			・電気、エネルギーとその利用に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	・電気、さまざまなエネルギーとその利用に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7(2025)年度	講座名	化学基礎	
●講座基礎情報					必履修科目	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	2	3回	4回	1	2回	令和7年7月24日(木)
後期	2	3回	4回	1	2回	令和7年12月23日(火)
使用教科書・学習書		新編化学基礎(東京書籍)・新編化学基礎 学習書(NHK出版)				
●学習目標						
a 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。						
b 観察、実験などから得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを論理的に表現する。						
c 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究し、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かす。						
●評価規準						
a 知識・技能		日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。				
b 思考・判断・表現		観察、実験などから得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを論理的に表現している。				
c 主体的に学習に取り組む態度		物質とその変化に主体的にかかわり、科学的に探究し、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。				
●学習内容						
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。				
レポート合格基準		レポート内容80%以上の得点および各評価規準80%をもって合格とする。 提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。				
注意点		各レポートに実践課題があるので、早目に確認すること。漢字の間違えは減点する。「なし」、「特になし」、問題の指示に沿っていない場合は、空欄とみなす。				
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領	
前期	1	1編 化学と人間生活 1章 化学とは何か 2章 物質の成分と構成元素	・化学と物質について、化学の特徴を理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などを理解することができる。	・化学と物質について、化学の特徴を理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などを理解している。	(1)ア, イ	
			・化学と物質について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察することができる。	・化学と物質について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察している。		
			・化学の特徴に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	・化学の特徴に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。		
	2	2編 物質の構成 1章 原子の構造と元素の周期表	・物質の構成粒子について理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などについて理解することができる。	・物質の構成粒子について理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などについて理解している。	(2)ア, イ	
			・原子の構造、電子配置と周期表について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察することができる。	・原子の構造、電子配置と周期表について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察している。		
			・原子の構造、電子配置と周期表に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	・原子の構造、電子配置と周期表に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。		
	3	2章 化学結合	・物質と化学結合について理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などについて理解することができる。	・物質と化学結合について理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などについて理解している。	(2)ア, イ	
			・イオン結合、共有結合、金属結合について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察することができる。	・イオン結合、共有結合、金属結合について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察している。		
			・イオン結合、共有結合、金属結合に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	・イオン結合、共有結合、金属結合に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。		

	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領
後期	1	3編 物質の変化 1章 物質と化学反応式	・物質と化学反応式について理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などを理解することができる。	・物質と化学反応式について理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などを理解している。	(3)ア, イ
			・物質と化学反応式について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察することができる。	・物質と化学反応式について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察している。	
			・物質と化学反応式に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	・物質と化学反応式に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	
	2	2章 酸と塩基	・酸・塩基と中和について理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などを理解することができる。	・酸・塩基と中和について理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などを理解している。	(3)ア, イ
			・酸・塩基と中和について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察することができる。	・酸・塩基と中和について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察している。	
			・酸・塩基と中和に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	・酸・塩基と中和に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	
	3	3章 酸化還元反応	・酸化と還元について理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などを理解することができる。	・酸化と還元について理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などを理解している。	(3)ア, イ
			・酸化と還元について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察することができる。	・酸化と還元について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察している。	
			・酸化と還元に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	・酸化と還元に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7(2025)年度	講座名	生物基礎	
●講座基礎情報					必修修科目	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	2	3回	4回	1	2回	令和7年7月24日(木)
後期	2	3回	4回	1	2回	令和7年12月23日(火)
使用教科書・学習書		新編生物基礎(東京書籍)・新編生物基礎 学習書(NHK出版)				
●学習目標						
a 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。						
b 観察、実験などから得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを論理的に表現する。						
c 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究し、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かす。						
●評価規準						
a 知識・技能		日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。				
b 思考・判断・表現		観察、実験などから得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを論理的に表現している。				
c 主体的に学習に取り組む態度		生物や生物現象に主体的にかかわり、科学的に探究し、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。				
●学習内容						
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。				
レポート合格基準		レポート内容80%以上の得点および各評価規準80%をもって合格とする。 提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。				
注意点		各レポートに実践課題があるので、早目に確認すること。漢字の間違えは減点する。「なし」、「特になし」、問題の指示に沿っていない場合は、空欄とみなす。				
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領	
前期	1	1編 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性 2章 生物とエネルギー	・生物の特徴について、生物の共通性と多様性を理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などを理解することができる。	・生物の特徴について、生物の共通性と多様性を理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などを理解している。	(1) ア(ア)㉔, ㉕ イ	
			・生物の共通性と多様性について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察することができる。	・生物の共通性と多様性について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察している。		
			・生物の共通性と多様性に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	・生物の共通性と多様性に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。		
	2	2編 遺伝子とそのはたらき 1章 遺伝情報とDNA 2章 遺伝情報とタンパク質の合成	・遺伝子とその働きについて、遺伝情報とDNAを理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などについて理解することができる。	・遺伝子とその働きについて、遺伝情報とDNAを理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などについて理解している。	(1) ア(イ)㉔, ㉕ イ1	
			・遺伝情報とDNAについて、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察することができる。	・遺伝情報とDNAについて、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察している。		
			・遺伝情報とDNAに関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	・遺伝情報とDNAに関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。		
	3	3編 ヒトの体の調節 1章 ヒトの体を調節するしくみ	・神経系と内分泌系による調節について理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などについて理解することができる。	・神経系と内分泌系による調節について理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などについて理解している。	(2) ア(ア)㉔㉕, ㉖ イ	
			・情報の伝達について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察することができる。	・情報の伝達について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察している。		
			・情報の伝達に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	・情報の伝達に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。		

	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領
後期	1	2章 免疫のはたらき	・免疫について、免疫の働きについて理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などを理解することができる。	・免疫について、免疫の働きについて理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などを理解している。	(2)ア(イ)㉔, イ
			・免疫の働きについて、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察することができる。	・免疫の働きについて、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察している。	
			・免疫の働きに関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	・免疫の働きに関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	
	2	4編 生物の多様性と生態系 1章 植生と遷移	・植生と遷移について理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などを理解することができる。	・植生と遷移について理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などを理解している。	(3)ア(イ)㉔ ④, イ
			・植生と遷移について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察することができる。	・植生と遷移について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察している。	
			・植生と遷移に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	・植生と遷移に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	
	3	2章 生態系と生物の多様性	・生態系とその保全について、生態系と生物の多様性、ならびに生態系のバランスと保全について理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などを理解することができる。	・生態系とその保全について、生態系と生物の多様性、ならびに生態系のバランスと保全について理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などを理解している。	(3) ア(イ)㉔④, イ
			・生態系と生物の多様性、ならびに生態系のバランスと保全について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察することができる。	・生態系と生物の多様性、ならびに生態系のバランスと保全について、問題を見だし、観察、実験などから科学的に考察している。	
			・生態系と生物の多様性、ならびに生態系のバランスと保全に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	・生態系と生物の多様性、ならびに生態系のバランスと保全に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7(2025)年度	講座名	体育1	
●講座基礎情報					選択必修	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	1	1回	5回	1	3回	令和7年7月24日(木)
後期	1	1回	5回	1	3回	令和7年12月23日(火)
使用教科書・学習書		現代高等保健体育(大修館書店)・現代高等保健体育 学習書(NHK出版)				
●学習目標						
a 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付ける。						
b 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身につける。						
c 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむことができる。						
●評価規準						
a 知識・技能		運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。				
b 思考・判断・表現		生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身につけている。				
c 主体的に学習に取り組む態度		運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむことができる。				
●学習内容						
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。				
レポート合格基準		レポート内容80%以上の評点および各評価規準80%をもって合格とする。 提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。				
スクーリング時の注意点		スクーリングは実技の授業とする。その際、運動に適した服装(ジャージ)と体育館用シューズを持参すること。 「卓球」、「バドミントン」、「バスケットボール」の3種目から選択して活動する。 協力校では実態に応じてバレーボールも選択できる。 各期実技試験は、「卓球」、「バドミントン」、「バスケットボール」3種目の中から1種目を選択して受験する。 前期と後期で異なる種目を受験すること。				
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領	
前期	1	○ スポーツの発祥と発展 1 スポーツの始まりと変遷 ～ 3 オリンピックとパラリンピックの意義	・スポーツの歴史的発展と多様な変化、現代のスポーツの意義や価値について理解することができる。	・スポーツの歴史的発展と多様な変化、現代のスポーツの意義や価値について理解している。	・H,1, A,(7)(1) ・E,(1)	
			・スポーツの歴史的発展や現代のスポーツの意義等について、事実や理念を整理したり、自己のスポーツへの関わりを見いだしたりして、自己や社会にスポーツがもたらす影響について課題を発見することができる。 ・学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けることができる。	・スポーツの歴史的発展や現代のスポーツの意義等について、事実や理念を整理したり、自己のスポーツへの関わりを見いだしたりして、自己や社会にスポーツがもたらす影響について課題を発見している。 ・学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。	・H,1, I,(1) ・E,(2)	
			・スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展についての学習に、主体的に取り組む。	・スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展についての学習に、主体的に取り組もうとしている。		

	回	学習内容	学習の目標	学習の評価基準	学習指導要領
後期	1	○ スポーツの発祥と発展 4 スポーツが 経済に及ぼす効果 ～ 6 スポーツと環境	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの経済的効果と高潔さ、スポーツが環境や社会にもたらす影響について理解することができる。 ・器械運動において用いられる技の行い方は技の課題を解決するための合理的な動き方のポイントがあり、同じ系統の技には共通性があることを理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの経済的効果と高潔さ、スポーツが環境や社会にもたらす影響について理解している。 ・器械運動において用いられる技の行い方は技の課題を解決するための合理的な動き方のポイントがあり、同じ系統の技には共通性があることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・H,1,ア,(9)(I) ・B,(1) ・C,(1)
		<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの経済的効果やスポーツが環境や社会へもたらす影響について、習得した知識を基に、持続可能なスポーツの発展のための課題の解決に向けて、自己の提案を言葉や文章などを通して伝えることができる。 ・学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの経済的効果やスポーツが環境や社会へもたらす影響について、習得した知識を基に、持続可能なスポーツの発展のための課題の解決に向けて、自己の提案を言葉や文章などを通して伝えている。 ・学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・H,1,イ,(1) ・B,(2) ・C,(2) 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展についての学習に、主体的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展についての学習に、主体的に取り組もうとしている。 		

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7（2025）年度	講座名	体育2	
●講座基礎情報					選択必修	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	1	1回	5回	1	3回	令和7年7月24日（木）
後期	1	1回	5回	1	3回	令和7年12月23日（火）
使用教科書・学習書		現代高等保健体育（大修館書店）・現代高等保健体育 学習書（NHK出版）				
●学習目標						
a 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付ける。						
b 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身につける。						
c 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむことができる。						
●評価規準						
a 知識・技能		運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。				
b 思考・判断・表現		生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身につけている。				
c 主体的に学習に取り組む態度		運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむことができる。				
●学習内容						
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。				
レポート合格基準		レポート内容80%以上の評点および各評価規準80%をもって合格とする。 提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。				
スクーリング時の注意点		スクーリングは実技の授業とする。その際、運動に適した服装（ジャージ）と体育館用シューズを持参すること。 「卓球」、「バドミントン」、「バスケットボール」の3種目から選択して活動する。 協力校では実態に応じてバレーボールも選択できる。 各期実技試験は、「卓球」、「バドミントン」、「バスケットボール」3種目の中から1種目を選択して受験する。 前期と後期で異なる種目を受験すること。				
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領	
前期	1	○ 運動・スポーツの学び方 1 スポーツにおける 技能と体力 ～ 3 技能の上達過程と練習	・運動やスポーツの技能と体力及びスポーツによる生涯、スポーツの技術と技能及びその変化、運動やスポーツの技能の上達過程について理解することができる。	・運動やスポーツの技能と体力及びスポーツによる生涯、スポーツの技術と技能及びその変化、運動やスポーツの技能の上達過程について理解している。	・H,2, A,(7)(1)(ウ) ・E,(1)	
			・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、概念と自己の状況を関連付けたりして、自己や社会についての課題を発見することができる。 ・学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けることができる。	・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、概念と自己の状況を関連付けたりして、自己や社会についての課題を発見している。 ・学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。	・H,2, 1,(2) ・E,(2)	
			・運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に、主体的に取り組む。	・運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に、主体的に取り組もうとしている。		

	回	学習内容	学習の目標	学習の評価基準	学習指導要領		
後期	1	○ 運動・スポーツの学び方	<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツの技能の上達過程や健康・安全の確保の仕方について理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツの技能の上達過程や健康・安全の確保の仕方について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・H,2,ア,(ウ)(I) ・D,(1) ・G,(1) 		
		4 効果的な動きのメカニズム				～	6 運動やスポーツでの安全の確保
			<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に、主体的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に、主体的に取り組もうとしている。 			

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7（2025）年度	講座名	体育3			
●講座基礎情報					選択必修			
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日		
前期	2	2回	10回	1	6回	令和7年 7月24日（木）		
後期	1	1回	5回	1	3回	令和7年12月23日（火）		
使用教科書・学習書		現代高等保健体育（大修館書店）・現代高等保健体育 学習書（NHK出版）						
●学習目標								
<p>a 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付ける。</p> <p>b 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身につける。</p> <p>c 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむことができる。</p>								
●評価規準								
a 知識・技能		運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。						
b 思考・判断・表現		生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身につけている。						
c 主体的に学習に取り組む態度		運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむことができる。						
●学習内容								
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。						
レポート合格基準		レポート内容80%以上の評点および各評価規準80%をもって合格とする。 提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。						
スクーリング時の注意点		スクーリングは実技の授業とする。その際、運動に適した服装（ジャージ）と体育館用シューズを持参すること。 「卓球」、「バドミントン」、「バスケットボール」の3種目から選択して活動する。 協力校では実態に応じてバレーボールも選択できる。 各期実技試験は、「卓球」、「バドミントン」、「バスケットボール」3種目の中から1種目を選択して受験する。 前期と後期で異なる種目を受験すること。						
レポート計画								
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領			
前期	1	○ 豊かなスポーツライフの設計	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方やライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方について理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方やライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・H,3,ア,(7),(1) ・E,(1) 			
		1 生涯スポーツの見方・考え方				<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方やライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方について、自己や自己を取り巻く環境の変化を予想し、自己や社会についての課題を発見することができる。 ・学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方やライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方について、自己や自己を取り巻く環境の変化を予想し、自己や社会についての課題を発見している。 ・学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・H,3,イ,(3) ・E,(2)
		2 ライフスタイルに応じたスポーツ						

	回	学習内容	学習の目標	学習の評価基準	学習指導要領		
前期	2	○ 豊かなスポーツライフの設計	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進のための施策と諸条件や豊かなスポーツライフが広がる未来の社会について理解することができる。 ・豊かなスポーツライフが広がる未来の社会について、これまで学習したことを基に、将来の自己のスポーツ設計や未来の社会についての自己の提案を言葉や文章などを通して伝えることができる。 ・学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進のための施策と諸条件や豊かなスポーツライフが広がる未来の社会について理解している。 ・豊かなスポーツライフが広がる未来の社会について、これまで学習したことを基に、将来の自己のスポーツ設計や未来の社会についての自己の提案を言葉や文章などを通して伝えている。 ・学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・H,3,ア,(9),(I) ・E,(1) 		
		3 スポーツを推進する取り組み				<ul style="list-style-type: none"> ・豊かなスポーツライフの設計の仕方の学習に、主体的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かなスポーツライフの設計の仕方の学習に、主体的に取り組もうとしている。
		4 豊かなスポーツライフの創造					
後期	1	○ スポーツの発祥と発展	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの歴史的発展と多様な変化、現代のスポーツの意義や価値について理解することができる。 ・スポーツの歴史的発展や現代のスポーツの意義等について、事実や理念を整理したり、自己のスポーツへの関わりを見いだしたりして、自己や社会にスポーツがもたらす影響について課題を発見することができる。 ・学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの歴史的発展と多様な変化、現代のスポーツの意義や価値について理解している。 ・スポーツの歴史的発展や現代のスポーツの意義等について、事実や理念を整理したり、自己のスポーツへの関わりを見いだしたりして、自己や社会にスポーツがもたらす影響について課題を発見している。 ・学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・H,1,ア,(7)(1) ・E,(1) 		
		1 スポーツの始まりと変遷				<ul style="list-style-type: none"> ・H,1,イ,(1) ・E,(2) 	
		3 オリンピックとパラリンピックの意義					<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展についての学習に、主体的に取り組む。

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7（2025）年度	講座名	体育4	
●講座基礎情報					選択必修	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	1	1回	5回	1	3回	令和7年7月24日（木）
後期	1	1回	5回	1	3回	令和7年12月23日（火）
使用教科書・学習書		現代高等保健体育（大修館書店）・現代高等保健体育 学習書（NHK出版）				
●学習目標						
a 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付ける。						
b 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身につける。						
c 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむことができる。						
●評価規準						
a 知識・技能		運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。				
b 思考・判断・表現		生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身につけている。				
c 主体的に学習に取り組む態度		運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむことができる。				
●学習内容						
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。				
レポート合格基準		レポート内容80%以上の評点および各評価規準80%をもって合格とする。 提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。				
スクーリング時の注意点		スクーリングは実技の授業とする。その際、運動に適した服装（ジャージ）と体育館用シューズを持参すること。 「卓球」、「バドミントン」、「バスケットボール」の3種目から選択して活動する。 協力校では実態に応じてバレーボールも選択できる。 各期実技試験は、「卓球」、「バドミントン」、「バスケットボール」3種目の中から1種目を選択して受験する。 前期と後期で異なる種目を受験すること。				
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領	
前期	1	○ 運動・スポーツの学び方	・運動やスポーツの技能と体力及びスポーツによる生涯、スポーツの技術と技能及びその変化、運動やスポーツの技能の上達過程について理解することができる。	・運動やスポーツの技能と体力及びスポーツによる生涯、スポーツの技術と技能及びその変化、運動やスポーツの技能の上達過程について理解している。	・H,2, ア,(7)(1)(ウ) ・E,(1)	
		1 スポーツにおける 技能と体力 ～				
		3 技能の上達過程と練習				
		・運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に、主体的に取り組む。	・運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に、主体的に取り組もうとしている。			

	回	学習内容	学習の目標	学習の評価基準	学習指導要領
後期	1	○ 運動・スポーツの学び方			
		4 効果的な動きのメカニズム	・運動やスポーツの技能の上達過程や健康・安全の確保の仕方について理解することができる。	・運動やスポーツの技能の上達過程や健康・安全の確保の仕方について理解している。	・H,2, ア,(ウ)(I) ・D,(1) ・G,(1)
		～ 6 運動やスポーツでの安全の確保	・運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方について、習得した知識を基に、環境の異なる場所や変化を想定して、危険を予見し回避するための自己の提案を言葉や文章などを通して伝えることができる。 ・学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けることができる。	・運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方について、習得した知識を基に、環境の異なる場所や変化を想定して、危険を予見し回避するための自己の提案を言葉や文章などを通して伝えている。 ・学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。	・H,2, イ,(2) ・D,(2) ・G,(2)
		・運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に、主体的に取り組む。	・運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に、主体的に取り組もうとしている。		

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7（2025）年度	講座名	体育5	
●講座基礎情報					選択必修	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	1	1回	5回	1	3回	令和7年 7月24日（木）
後期	1	1回	5回	1	3回	令和7年12月23日（火）
使用教科書・学習書		現代高等保健体育（大修館書店）・現代高等保健体育 学習書（NHK出版）				
●学習目標						
a 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付ける。						
b 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身につける。						
c 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむことができる。						
●評価規準						
a 知識・技能		運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。				
b 思考・判断・表現		生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身につけている。				
c 主体的に学習に取り組む態度		運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむことができる。				
●学習内容						
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。				
レポート合格基準		レポート内容80%以上の評点および各評価規準80%をもって合格とする。 提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。				
スクーリング時の注意点		スクーリングは実技の授業とする。その際、運動に適した服装（ジャージ）と体育館用シューズを持参すること。 「卓球」、「バドミントン」、「バスケットボール」の3種目から選択して活動する。 協力校では実態に応じてバレーボールも選択できる。 各期実技試験は、「卓球」、「バドミントン」、「バスケットボール」3種目の中から1種目を選択して受験する。 前期と後期で異なる種目を受験すること。				
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領	
前期	1	○ 豊かなスポーツライフの設計	・ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方やライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方について理解することができる。	・ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方やライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方について理解している。	・H,3, ア,(7),(1) ・E,(1)	
		1 生涯スポーツの見方・考え方				
		2 ライフスタイルに応じたスポーツ				
		・豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に、主体的に取り組む。	・豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に、主体的に取り組もうとしている。			

	回	学習内容	学習の目標	学習の評価基準	学習指導要領
後期	1	○ 豊かなスポーツライフの設計	・スポーツ推進のための施策と諸条件や豊かなスポーツライフが広がる未来の社会について理解することができる。	・スポーツ推進のための施策と諸条件や豊かなスポーツライフが広がる未来の社会について理解している。	・H,3, ア,(9),(I) ・F,(1)
		3 スポーツを推進する 取り組み ～	・豊かなスポーツライフが広がる未来の社会について、これまで学習したことを基に、将来の自己のスポーツ設計や未来の社会についての自己の提案を言葉や文章などを通して伝えることができる。 ・学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けることができる。	・豊かなスポーツライフが広がる未来の社会について、これまで学習したことを基に、将来の自己のスポーツ設計や未来の社会についての自己の提案を言葉や文章などを通して伝えている。 ・学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。	・H,3, イ,(3) ・F,(2)
		4 豊かなスポーツライフの創造	・豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に、主体的に取り組む。 ・武道の学習に自主的に取り組む。	・豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に、主体的に取り組んでいる。 ・武道の学習に自主的に取り組もうとしている。	

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7（2025）年度	講座名	保健	
●講座基礎情報					必履修科目	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	1	3回	1回	1	0回	令和7年7月24日（木）
後期	1	3回	1回	1	0回	令和7年12月23日（火）
使用教科書・学習書		現代高等保健体育（大修館書店）・現代高等保健体育 学習書（NHK出版）				
●学習目標						
a 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身につける。						
b 健康について自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身につける						
c 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指す						
●評価規準						
a 知識・技能		個人及び社会生活における健康・安全について理解しているとともに、技能を身につけている。				
b 思考・判断・表現		健康について自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身につけている。				
c 主体的に学習に取り組む態度		生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指している。				
●学習内容						
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。				
レポート合格基準		レポート内容80%以上の評点および各評価規準80%をもって合格とする。 提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。				
注意点		各レポートに実践課題があるので、早目に確認すること。漢字の間違えは減点する。「なし」、「特になし」、問題の指示に沿っていない場合は、空欄とみなす。				
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領	
前期	1	○ 現代社会と健康 1 健康の考え方と成り立ち ～	国民の健康課題、健康の考え方と成り立ち、生活習慣病などの予防と回復、喫煙・飲酒・薬物乱用と健康について理解することができる。	国民の健康課題、健康の考え方と成り立ち、生活習慣病などの予防と回復、喫煙・飲酒・薬物乱用と健康について理解している。	(1) ア (ア)㉔,㉕, (ウ), (イ)㉔,㉕	
		1 1 薬物乱用と健康	現代社会と健康に関わる事象や情報から課題を発見し、生活の質の向上などと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができる。	現代社会と健康に関わる事象や情報から課題を発見し、生活の質の向上などと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明している。	(1) イ	
			現代社会と健康について、課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組む。	現代社会と健康について、課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組もうとしている。		
	2	○ 現代社会と健康 1 2 精神疾患の特徴 ～	健康の保持増進のための適切な意思決定や行動選択と環境づくり、精神疾患の予防と回復について理解することができる。	健康の保持増進のための適切な意思決定や行動選択と環境づくり、精神疾患の予防と回復について理解している。	(1) ア (ア)㉔, (イ), (オ)㉔,㉕	
1 9 健康に関する環境づくり		現代社会と健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疫病等のリスクの軽減、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができる。	現代社会と健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疫病等のリスクの軽減、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明している。	(1) イ		
		現代社会と健康について、課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組む。	現代社会と健康について、課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組もうとしている。			

	回	学習内容	学習の目標	学習の評価基準	学習指導要領
前期	3	○ 安全な社会生活	安全な社会づくり、応急手当について理解することができる。	安全な社会づくり、応急手当について理解している。	(2) ア (7)㉗,㉘,㉙, (1)㉗,㉘,㉙
		1 事故の現状と発生要因 ～	安全な社会生活に関わる事象や情報から課題を発見し、自他や社会の危険の予測を基に、危険を回避したり、障害の悪化を防止したりする方法を選択し、安全な社会の実現に向けてそれらを説明することができる。	安全な社会生活に関わる事象や情報から課題を発見し、自他や社旗の危険の予測を基に、危険を回避したり、障害の悪化を防止したりする方法を選択し、安全な社会の実現に向けてそれらを説明している。	(2) イ
		6 心肺蘇生法	安全な社会生活について、課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組む。	安全な社会生活について、課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組もうとしている。	
後期	1	○ 生涯を通じる健康	思春期と健康、結婚生活と健康について理解することができる。	思春期と健康、結婚生活と健康について理解している。	(3) ア (7)㉗,㉘
		1 ライフステージと健康 ～	生涯を通じる健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上などと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができる。	生涯を通じる健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上などと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明している。	(3) イ
		6 結婚生活と健康	生涯を通じる健康について、課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組む。	生涯を通じる健康について、課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組もうとしている。	
	2	○ 生涯を通じる健康	加齢と健康、労働と健康、環境と健康について理解することができる。	加齢と健康、労働と健康、環境と健康について理解している。	(3) ア (7)㉗, (1)㉗,㉘, (4) ア (7)㉗,㉘,㉙
		7 中高年と健康 ～	生涯を通じる健康に関わる事象や情報から課題を発見し、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができる。	生涯を通じる健康に関わる事象や情報から課題を発見し、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明している。	(3) イ (4) イ
		10 健康的な職業生活	健康を支える環境づくりについて、課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組む。	健康を支える環境づくりについて、課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組もうとしている。	
	3	○ 健康を支える環境づくり	食品と健康、保健・医療制度及び地域の保健・医療機関、様々な保健活動や社会的対策、健康に関する環境づくりと社会参加について理解することができる。	食品と健康、保健・医療制度及び地域の保健・医療機関、様々な保健活動や社会的対策、健康に関する環境づくりと社会参加について理解している。	(4) ア (1)㉗,㉘, (7)㉗,㉘,㉙, (1),(ㄐ)
		5 食品の安全性 ～	健康を支える環境づくりに関わる情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な整備や活用方法を選択し、それらを説明することができる。	健康を支える環境づくりに関わる情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な整備や活用方法を選択し、それらを説明している。	(4) イ
		11 健康に関する環境づくりと社会参加	健康を支える環境づくりについて、課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組む。	健康を支える環境づくりについて、課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組もうとしている。	

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7（2025）年度	講座名	美術Ⅰ	
●講座基礎情報					選択必修科目	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	1	3回	4回	1	2回	令和7年7月24日（木）
後期	1	3回	4回	1	2回	令和7年12月23日（火）
使用教科書・学習書		日本文教出版「高校生の美術Ⅰ」NHK出版「高校生の美術Ⅰ」				
●学習目標						
a 美術文化についての理解を深める。 b 感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 c 美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる。						
●評価規準						
a 知識・技能		美術文化についての理解を深めようとしている。				
b 思考・判断・表現		感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばそうとしている。				
c 主体的に学習に取り組む態度		美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を通して、生涯にわたり美術を愛好しようとしている。				
●学習内容						
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。作品の制作（特にはじめ）はできるだけスクリーニングで行うとよい。				
レポート合格基準		レポート内容80%以上の評点および各評価規準80%をもって合格とする。提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。				
注意点		画用紙の大きさはレポートの指定する大きさとする。				
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標※	学習の評価規準※	学習指導要領	
前期	1	絵画 ○鉛筆デッサンで手を表現しよう	材料や用具の特性を生かした技能を身につけ、創意工夫することができる。	材料や用具の特性を生かした技能を身につけ、創意工夫しようとしている。	A（1）イ	
			感じ取ったことや考えたことなどを基に表現することができる。	感じ取ったことや考えたことなどを基に表現しようとしている。	A（1）ア	
			主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことができる。	主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。		
	2	絵画 ○三原色でたくさんの色を作ってみよう	材料や用具の特性を生かした技能を身につけ、創意工夫することができる。	材料や用具の特性を生かした技能を身につけ、創意工夫しようとしている。	A（1）イ	
			感じ取ったことや考えたことなどを基に表現することができる。	感じ取ったことや考えたことなどを基に表現しようとしている。	A（1）ア	
			主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことができる。	主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。		
	3	絵画 ○風景を着彩で表現しよう	材料や用具の特性を生かした技能を身につけ、創意工夫することができる。	材料や用具の特性を生かした技能を身につけ、創意工夫しようとしている。	A（1）イ	
			感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想を練り、表現することができる。	感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想を練り、表現しようとしている。	A（1）ア	
			主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことができる。	主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。		

※上から a 知識・技能 b 思考・判断・表現 c 主体的に学習に取り組む態度

	回	学習内容	学習の目標※	学習の評価規準※	学習指導要領
後期	1	デザイン ○ポスターのためのイラストを描こう	材料や用具の特性を生かした技能を身につけ、創意工夫することができる。	材料や用具の特性を生かした技能を身につけ、創意工夫しようとしている。	B(1)イ
			感じとったことや考えたことなどを基に、物事を抽象化し、発想や構想を練り、表現することができる。	感じ取ったことや考えたことなどを基に、物事を抽象化し、発想や構想を練り、表現しようとしている。	B(1)ア
			主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことができる。	主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	
	2	絵画 ○自然物を着彩で表現しよう	材料や用具の特性を生かした技能を身につけ、創意工夫することができる。	材料や用具の特性を生かした技能を身につけ、創意工夫しようとしている。	A(1)イ
			自然の造形を見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想を練り、表現することができる。	自然の造形を見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想を練り、表現しようとしている。	A(1)ア
			主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことができる。	主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	
	3	絵画 ○人物(上半身)を着彩で表現しよう	材料や用具の特性を生かした技能を身につけ、創意工夫することができる。	材料や用具の特性を生かした技能を身につけ、創意工夫しようとしている。	A(1)イ
			対象を深く見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想を練り、表現することができる。	対象物を深く見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想を練り、表現しようとしている。	A(1)ア
			主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことができる。	主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	

※上から a 知識・技能 b 思考・判断・表現 c 主体的に学習に取り組む態度

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7（2025）年度	講座名	美術Ⅱ	
●講座基礎情報					選択科目	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	1	3回	4回	1	0回	令和7年7月24日（木）
後期	1	3回	4回	1	0回	令和7年12月23日（火）
使用教科書・学習書		日本文教出版「高校生の美術2」				
●学習目標						
a 美術文化についての理解を深める。 b 個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばす。 c 美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術うい愛好する心情を育てる。						
●評価規準						
a 知識・技能		美術文化についての理解を深めようとしている。				
b 思考・判断・表現		個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばそうとしている。				
c 主体的に学習に取り組む態度		美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好しようとしている。				
●学習内容						
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。作品の制作（特にはじめ）はできるだけスクリーニングで行うとよい。				
レポート合格基準		レポート内容80%以上の評点および各評価規準80%をもって合格とする。提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。				
注意点		画用紙の大きさはレポート内で指定する大きさとする。				
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標※	学習の評価規準※	学習指導要領	
前期	1	絵画 ○線と明暗で人物画を描こう	材料や用具の特性を生かした技能を身につけ、創意工夫することができる。	材料や用具の特性を生かした技能を身につけ、創意工夫しようとしている。	A（1）ア	
			対象（他者）から感じ取ったことや考えたことなどを基に表現することができる。	対象（他者）感じ取ったことや考えたことなどを基に表現しようとしている。	A（1）イ、ウ	
			主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことができる。	主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。		
	2	デザイン ○部活に勧誘するためのデザインをしよう	材料や用具の特性を生かした技能を身につけ、創意工夫することができる。	材料や用具の特性を生かした技能を身につけ、創意工夫しようとしている。	A（2）ア	
			目的や条件などを基に、デザイン効果を考えて創造的で心豊かな構想を練ることができる。	目的や条件などを基に、デザイン効果を考えて創造的で心豊かな構想を練ろうとしている。	A（2）イ、ウ	
			主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことができる。	主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。		
	3	絵画 ○質感の表現方法を工夫して、モチーフの「〇〇感」を表そう	材料や用具の特性を生かした技能を身につけ、創意工夫することができる。	材料や用具の特性を生かした技能を身につけ、創意工夫しようとしている。	A（1）ア	
			対象（モチーフ）を観察し、感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想を練り、表現することができる。	対象（モチーフ）を観察し、感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想を練り、表現しようとしている。	A（1）イ、ウ	
			主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことができる。	主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。		

※上から a 知識・技能 b 思考・判断・表現 c 主体的に学習に取り組む態度

	回	学習内容	学習の目標※	学習の評価規準※	学習指導要領
後期	1	絵画 ○奥行きや空間を意識して風景を豊かに表現しよう	材料や用具の特性を生かした技能を身につけ、創意工夫することができる。	材料や用具の特性を生かした技能を身につけ、創意工夫しようとしている。	A(1)ウ
			自然の造形を見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想を練り、表現することができる。	自然の造形を見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想を練り、表現しようとしている。	A(1)ア、イ
			主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことができる。	主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	
	2	絵画 ○空想の生き物を描こう	材料や用具の特性を生かした技能を身につけ、創意工夫することができる。	材料や用具の特性を生かした技能を身につけ、創意工夫しようとしている。	A(1)ウ
			柔軟な思考力を基に、夢や想像からイメージを広げ、発想や構想を練り、表現することができる。	柔軟な思考力を基に、夢や想像からイメージを広げ、発想や構想を練り、表現しようとしている。	A(1)ア、イ
			主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことができる。	主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	
	3	絵画 ○錯覚による不思議な世界を創ろう	材料や用具の特性を生かした技能を身につけ、創意工夫することができる。	材料や用具の特性を生かした技能を身につけ、創意工夫しようとしている。	A(1)ウ
			形や明暗、描く角度などを工夫し、「錯覚」によって生まれる不思議な世界を表現することができる。	形や明暗、描く角度などを工夫し、「錯覚」によって生まれる不思議な世界を表現しようとしている。	A(1)ア、イ
			主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことができる。	主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	

※上から a 知識・技能 b 思考・判断・表現 c 主体的に学習に取り組む態度

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7（2025）年度	講座名	書道Ⅰ	
●講座基礎情報					選択必修科目	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	1	3回	4回	1	2回	令和7年 7月24日（木）
後期	1	3回	4回	1	2回	令和7年12月23日（火）
使用教科書・学習書		東京書籍「書道Ⅰ」、NHK出版「書道Ⅰ」				
●学習目標						
<p>a ・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技術を身に付け、表している。</p> <p>b 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の味の味わい深く捉えたりしている。</p> <p>c 書の芸術と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。</p>						
●評価規準						
a 知識・技能		書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技術を身に付けるようにしている。				
b 思考・判断・表現		書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにしている。				
c 主体的に学習に取り組む態度		主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していこうとしている。				
●学習内容						
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。				
レポート合格基準		レポート内容80%以上の評点および各評価規準80%をもって合格とする。 提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。				
注意点		指定の紙の大きさに書く。作品の制作はできるだけスクーリングで行う。HPの学習支援サイトの動画を参考とする。				
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標※	学習の評価規準※	学習指導要領	
前期	1	書写から書道へ	線筆、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解する。	線筆、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解しようとしている。	B(1)イ(ア)	
			生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わってとらえる。	生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わってとらえようとしている。	B(1)ア(イ)	
			主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことができる。	主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。		
	2	漢字の書 漢字の成立と変遷 古典に基づく学習 楷書の特徴	・書体や書風と用筆・運筆との関わりを理解する。 ・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身につける。	・書体や書風と用筆・運筆との関わりを理解しようとしている。 ・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身につけようとしている。	A(2)イ(イ) A(2)ウ(ア)	
			古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。	古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫しようとしている。	A(2)ア(ア)	
			主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことができる。	主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。		
	3	漢字の書 行書の特徴	・書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。 ・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身につける。	・書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解しようとしている。 ・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身につけようとしている。	A(2)イ(イ) A(2)ウ(ア)	
			古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。	古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫しようとしている。	A(2)ア(ア)	
			主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことができる。	主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。		

※上から a 知識・技能 b 思考・判断・表現 c 主体的に学習に取り組む態度

	回	学習内容	学習の目標※	学習の評価規準※	学習指導要領
後期	1	漢字の書 草書の特徴	・書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。 ・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身につける。	・書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解しようとしている。 ・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身につけようとしている。	A(2)イ(イ) A(2)ウ(ア)
			古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。	古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫しようとしている。	A(2)ア(ア)
			主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことができる。	主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	
	2	漢字の書 隷書の特徴 仮名の書 仮名の成立 仮名を書く準備 平仮名の単体	・線筆や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。 ・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身につける。	・線筆や書風と用筆・運筆との関わりについて理解しようとしている。 ・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身につけようとしている。	A(3)イ(ア) A(3)ウ(ア)
			古典の書風に即した表筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。	古典の書風に即した表筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。	A(3)ア(ア)
			主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことができる。	主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	
	3	漢字仮名交じりの書 まとめ	・用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解する。 ・漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身につける。	・用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解しようとしている。 ・漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身につけようとしている。	A(1)イ(ア) A(1)ウ(イ)
			目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現を構想し工夫する。	目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現を構想し工夫しようとしている。	A(1)ア(イ)
			主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことができる。	主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	
共通事項 (a 知識)			・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解する。 ・書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解する。	・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解しようとしている。【a 知識】 ・書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解しようとしている。【a 知識】	

※上から a 知識・技能 b 思考・判断・表現 c 主体的に学習に取り組む態度

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7（2025）年度	講座名	書道Ⅱ	
●講座基礎情報					選択科目	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	1	3回	4回	1	0回	令和7年 7月24日（木）
後期	1	3回	4回	1	0回	令和7年12月23日（火）
使用教科書・学習書		東京書籍「書道Ⅱ」				
●学習目標						
a 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けようとしている。						
b 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美の味わい深く捉えたりしている。						
c 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していこうとしている。						
●評価規準						
a 知識・技能		書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技術を身に付けるようにしている。				
b 思考・判断・表現		書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにしている。				
c 主体的に学習に取り組む態度		主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していこうとしている。				
●学習内容						
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。				
レポート合格基準		レポート内容80%以上の評点および各評価規準80%をもって合格とする。 提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。				
注意点		指定の紙の大きさに書く。作品の制作はできるだけスクーリングで行う。HPの学習支援サイトの動画を参考とする。				
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標※	学習の評価規準※	学習指導要領	
前期	1	漢字の書 篆書の成立と種類 石鼓文の概要 隷書の成立と種類 礼器碑の概要	篆書や隷書の成立と歴史的変遷や各古典の特徴と用筆、運筆の関わりについて理解する。	篆書や隷書の成立と歴史的変遷や各古典の特徴と用筆、運筆の関わりについて理解しようとしている。	B(1)イ(ア)	
			書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫する。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫しようとしている。	B(1)ア(イ)	
			主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことができる。	主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。		
	2	漢字の書 草書の成立と美書譜の概要 集王聖教序の概要	草書や行書の成立と歴史的変遷や各古典の特徴と用筆、運筆の関わりについて理解する。	草書や行書の成立と歴史的変遷や各古典の特徴と用筆、運筆の関わりについて理解しようとしている。	A(2)イ(イ) A(2)ウ(ア)	
			書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫する。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫しようとしている。	A(2)ア(ア)	
			主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことができる。	主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。		
	3	漢字の書 張猛龍碑の概要 鄭義下碑の概要 孟法師碑の概要 薦季直表の概要 書の表現と歴史 楷書の完成と日本への影響	楷書の成立と歴史的変遷や各古典の特徴と用筆、運筆の関わりについて理解する。	楷書の成立と歴史的変遷や各古典の特徴と用筆、運筆の関わりについて理解しようとしている。	A(2)イ(イ) A(2)ウ(ア)	
			書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫する。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫しようとしている。	A(2)ア(ア)	
			主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことができる。	主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。		

※上から a知識・技能 b思考・判断・表現 c主体的に学習に取り組む態度

	回	学習内容	学習の目標※	学習の評価規準※	学習指導要領
後期	1	仮名の書 仮名の美 高野切第一種	仮名の成立と歴史的変遷や古典の特徴と用筆、運筆の関わりについて理解する。	仮名の成立と歴史的変遷や古典の特徴と用筆、運筆の関わりについて理解しようとしている。	A(2)イ(イ) A(2)ウ(ア)
			書よさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫する。	書よさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫しようとしている。	A(2)ア(ア)
			主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことができる。	主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	
	2	漢字の書 創作と鑑賞 書の表現と歴史 個性と復古、新しい形式の流行 篆書・隸書の復興	・古典の特徴を生かして、書体や書風、紙面構成を工夫する。 ・作品を鑑賞し、書き手の意図に基づいた表現の工夫を理解して相互評価することができる。	・古典の特徴を生かして、書体や書風、紙面構成を工夫しようとしている。 ・作品を鑑賞し、書き手の意図に基づいた表現の工夫を理解して相互評価しようとしている。	A(3)イ(ア) A(3)ウ(ア)
			古典の書風に即した表筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。	古典の書風に即した表筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。	A(3)ア(ア)
			主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことができる。	主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	
	3	漢字仮名交じりの書 まとめ	・古典の表現の特徴を生かして、漢字と平仮名を調和させて書くことができる。 ・自分の意図や感興に応じて、表現を工夫して書くことができる。	・古典の表現の特徴を生かして、漢字と平仮名を調和させて書こうとしている。 ・自分の意図や感興に応じて、表現を工夫して書こうとしている。	A(1)イ(ア) A(1)ウ(イ)
			目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現を構想し工夫する。	目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現を構想し工夫しようとしている。	A(1)ア(イ)
			主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことができる。	主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	
共通事項 (a 知識)			・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解する。 ・書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解する。	・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解しようとしている。【a 知識】 ・書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解しようとしている。【a 知識】	

※上から a 知識・技能 b 思考・判断・表現 c 主体的に学習に取り組む態度

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7（2025）年度	講座名	英語入門（1）	
●講座基礎情報					選択科目	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	1	3回	4回	1	2回	令和7年 7月24日（木）
後期	1	3回	4回	1	2回	令和7年12月23日（火）
使用教科書・学習書		英語 I 入門 学習書（NHK出版）				
●学習目標						
a 外国語の基礎的な語彙、表現、文法などの理解を深め、適切に活用できる技能を身につける。						
b 場面・目的・状況等に応じて、情報や考えなどの概要を外国語で的確に理解したり、適切に表現したりすることができる。						
c 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。						
●評価規準						
a 知識・技能		外国語の基礎的な語彙、表現、文法などの理解を深め、適切に活用できる技能を身につける。				
b 思考・判断・表現		場面・目的・状況等に応じて、情報や考えなどの概要を外国語で的確に理解したり、適切に表現したりすることができる。				
c 主体的に学習に取り組む態度		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。				
●学習内容						
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。				
レポート合格基準		レポート内容80%以上の得点および各評価規準80%をもって合格とする。 提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。				
注意点		漢字の間違えは減点する。「なし」、「特になし」と解答した場合は空欄とみなす。 また、問題の指示に沿っていない場合も、空欄、または減点とみなす。				
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領	
半 期 （ 前 期 ま た は 後 期）	1	Part 1～Part 4, Story 1-1 主語、be 動詞の否定文・疑問文、一般動詞など	・主語、be 動詞の否定文・疑問文、一般動詞などについて理解・運用できる。	・主語、be 動詞の否定文・疑問文、一般動詞などについて理解・運用しようとしている。	以下の学習指導要領に準ずる。 ・中学校外国語科領域 A	
			・本文中の重要表現の用法を理解・運用できる。	・本文中の重要表現の用法を理解・運用しようとしている。		
			・読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとする。	・読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとしている。		
	2	Part 5～Part 6, Story 1-2 一般動詞の否定文・疑問文	・一般動詞の否定文・疑問文について理解・運用できる。	・一般動詞の否定文・疑問文について理解・運用しようとしている。	以下の学習指導要領に準ずる。 ・中学校外国語科領域 A	
			・本文中の重要表現の用法を理解・運用できる。	・本文中の重要表現の用法を理解・運用しようとしている。		
			・読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとする。	・読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとしている。		
	3	Part 7～Part 8, Story 2-1 There is(are)～の文とその否定文・疑問文、疑問詞	・There is(are)～の文とその否定文・疑問文、疑問詞について理解・運用できる。	・There is(are)～の文とその否定文・疑問文、疑問詞について理解・運用しようとしている。	以下の学習指導要領に準ずる。 ・中学校外国語科領域 A	
			・本文中の重要表現の用法を理解・運用できる。	・本文中の重要表現の用法を理解・運用しようとしている。		
			・読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとする。	・読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとしている。		

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7（2025）年度	講座名	英語入門（2）	
●講座基礎情報					選択科目	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	1	3回	4回	1	2回	令和7年 7月24日（木）
後期	1	3回	4回	1	2回	令和7年12月23日（火）
使用教科書・学習書		英語 I 入門 学習書（NHK出版）				
●学習目標						
a 外国語の基礎的な語彙、表現、文法などの理解を深め、適切に活用できる技能を身につける。						
b 場面・目的・状況等に応じて、情報や考えなどの概要を外国語で的確に理解したり、適切に表現したりすることができる。						
c 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。						
●評価規準						
a 知識・技能		外国語の基礎的な語彙、表現、文法などの理解を深め、適切に活用できる技能を身につける。				
b 思考・判断・表現		場面・目的・状況等に応じて、情報や考えなどの概要を外国語で的確に理解したり、適切に表現したりすることができる。				
c 主体的に学習に取り組む態度		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。				
●学習内容						
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。				
レポート合格基準		レポート内容80%以上の得点および各評価規準80%をもって合格とする。 提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。				
注意点		漢字の間違えは減点する。「なし」、「特になし」と解答した場合は空欄とみなす。 また、問題の指示に沿っていない場合も、空欄、または減点とみなす。				
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領	
半 期 （ 前 期 ま た は 後 期 ）	1	Part 9～Part 11, Story 2-2 be 動詞の過去形とその否定文・疑問文、一般動詞の過去形とその否定文・疑問文	・be 動詞や一般動詞の過去形とその否定文・疑問文について理解・運用できる。	・be 動詞や一般動詞の過去形とその否定文・疑問文について理解・運用しようとしている。	以下の学習指導要領に準ずる。 ・中学校外国語科領域 A	
			・本文中の重要表現の用法を理解・運用できる。	・本文中の重要表現の用法を理解・運用しようとしている。		
			・読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとする。	・読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとしている。		
	2	Part 12～Part 13, Story 3 疑問詞、現在進行形	・疑問詞や現在進行形について理解・運用できる。	・疑問詞や現在進行形について理解・運用しようとしている。	以下の学習指導要領に準ずる。 ・中学校外国語科領域 A	
			・本文中の重要表現の用法を理解・運用できる。	・本文中の重要表現の用法を理解・運用しようとしている。		
			・読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとする。	・読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとしている。		
	3	Part 14～Part 16, Story 4 所有代名詞、助動詞、命令文、to 不定詞	・所有代名詞、助動詞、命令文、to 不定詞について理解・運用できる。	・所有代名詞、助動詞、命令文、to 不定詞について理解・運用しようとしている。	以下の学習指導要領に準ずる。 ・中学校外国語科領域 A	
			・本文中の重要表現の用法を理解・運用できる。	・本文中の重要表現の用法を理解・運用しようとしている。		
			・読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとする。	・読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとしている。		

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7（2025）年度	講座名	英語コミュニケーションⅠ	
●講座基礎情報					必修科目	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	1	3回	4回	1	2回	令和7年 7月24日（木）
後期	2	6回	8回	1	4回	令和7年12月23日（火）
使用教科書・学習書		All Aboard! English Communication I（東京書籍） All Aboard! English Communication I 学習書（NHK 出版）				
●学習目標						
a 外国語の語彙、表現、文法などの理解を深め、実際のコミュニケーションにおいて、適切に活用できる技能を身につける。						
b 場面・目的・状況等に応じて、情報や考えなどの概要・意図を外国語で的確に理解したり、適切に表現したりすることができる。						
c 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。						
●評価規準						
a 知識・技能		外国語の語彙、表現、文法などの理解を深め、実際のコミュニケーションにおいて、適切に活用できる技能を身に付けている。				
b 思考・判断・表現		場面・目的・状況等に応じて、情報や考えなどの概要・意図を外国語で的確に理解したり、適切に表現したりしている。				
c 主体的に学習に取り組む態度		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。				
●学習内容						
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。				
レポート合格基準		レポート内容80%以上の評点および各評価規準80%をもって合格とする。 提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。				
注意点		漢字の間違えは減点する。「なし」、「特になし」と解答した場合は空欄とみなす。 また、問題の指示に沿っていない場合も、空欄、または減点とみなす。				
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領	
前期	1	Pre-Lesson 1 My Name Is Ito Neko	・be 動詞、一般動詞を用いた文の形・意味・用法を理解できる。	・be 動詞、一般動詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。	(1)	
		Pre-Lesson 2 I Like Junk Food!	・動詞の過去形を用いた文の形・意味・用法を理解できる。	・動詞の過去形を用いた文の形・意味・用法を理解している。		
		Lesson 1 Breakfast around the World	・本文の内容について自分の考えや好み、その理由などを伝えることができる。 ・本文中の重要表現の用法を理解・運用できる。	・本文の内容について自分の考えや好み、その理由などを伝えようとしている。 ・本文中の重要表現の用法を理解・運用しようとしている。	(2) 読・書ア	
	2	Lesson 2 Australia's Cute Quokkas Lesson 3 A Train Driver in Sanriku	・本文の内容について自分の考えや好み、その理由を伝えようとする。	・本文の内容について自分の考えや好み、その理由を伝えようとしている。	(3) 読・書ア	
			・進行形を用いた文の形・意味・用法を理解できる。 ・助動詞を用いた文の形・意味・用法を理解できる。	・進行形を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ・助動詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。	(1)	
			・読んだことを活用しながら、自分ができること・できないことなどを伝えることができる。 ・本文中の重要表現の用法を理解・運用できる。	・読んだことを活用しながら、自分ができること・できないことなどを伝えようとしている。 ・本文中の重要表現の用法を理解・運用しようとしている。	(2) 読・書ア	
	3	Lesson 4 A Miracle Mirror	・読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとする。	・読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとしている。	(3) 読・書ア	
			・to 不定詞を用いた文の形・意味・用法を理解できる。	・to 不定詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。	(1)	
			・読んだことを活用しながら、行ってみたい場所ややりたいことなどについて伝えることができる。 ・本文中の重要表現の用法を理解・運用できる。	・読んだことを活用しながら、行ってみたい場所ややりたいことなどについて伝えようとしている。 ・本文中の重要表現の用法を理解・運用しようとしている。	(2) 読・書ア	

	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領
後期	1	Lesson 5 Learning from the Sea	・動名詞を用いた文の形・意味・用法を理解できる。	・動名詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。	(1)
			・読んだことを活用しながら、将来の夢や週末に楽しんだことなどについて伝えることができる。 ・本文中の重要表現の用法を理解・運用できる。	・読んだことを活用しながら、将来の夢や週末に楽しんだことなどについて伝えようとしている。 ・本文中の重要表現の用法を理解・運用しようとしている。	(2) 読・書ア
			・読んだことを活用しながら、考えや気持ち、情報などを伝えようとする。	・読んだことを活用しながら、考えや気持ち、情報などを伝えようとしている。	(3) 読・書ア
	2	Lesson 6 A Funny Picture from the Edo Period	・受け身を用いた文の形・意味・用法を理解できる。	・受け身を用いた文の形・意味・用法を理解している。	(1)
			・読んだことを活用しながら、好きな絵や写真とその理由などについて伝えることができる。 ・本文中の重要表現の用法を理解・運用できる。	・読んだことを活用しながら、好きな絵や写真とその理由などについて伝えようとしている。 ・本文中の重要表現の用法を理解・運用しようとしている。	(2) 読・書ア
			・読んだことを活用しながら、考えや気持ち、情報などを伝えようとする。	・読んだことを活用しながら、考えや気持ち、情報などを伝えようとしている。	(3) 読・書ア
	3	Lesson 7 A Diary of Hope	・比較表現を用いた文の形・意味・用法を理解できる。	・比較表現を用いた文の形・意味・用法を理解している。	(1)
			・読んだことを活用しながら、2つ以上のものを比べて説明することができる。 ・本文中の重要表現の用法を理解・運用できる。	・読んだことを活用しながら、2つ以上のものを比べて説明しようとしている。 ・本文中の重要表現の用法を理解・運用しようとしている。	(2) 読・書ア
			・読んだことを活用しながら、考えや気持ち、情報などを伝えようとする。	・読んだことを活用しながら、考えや気持ち、情報などを伝えようとしている。	(3) 読・書ア
	4	Lesson 8 A Door to a New Life	・現在完了形を用いた文の形・意味・用法を理解できる。	・現在完了形を用いた文の形・意味・用法を理解している。	(1)
			・読んだことを活用しながら、自分の経験などについて伝えることができる。 ・本文中の重要表現の用法を理解・運用できる。	・読んだことを活用しながら、自分の経験などについて伝えようとしている。 ・本文中の重要表現の用法を理解・運用しようとしている。	(2) 読・書イ
			・読んだことを活用しながら、考えや気持ち、情報などを伝えようとする。	・読んだことを活用しながら、考えや気持ち、情報などを伝えようとしている。	(3) 読・書イ
	5	Lesson 9 Fighting Plastic Pollution	・名詞を後から説明する分詞を用いた文の形・意味・用法を理解できる。	・名詞を後から説明する分詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。	(1)
			・読んだことを活用しながら、プラスチックごみなどの環境問題に関して自分たちにできることについて伝えることができる。 ・本文中の重要表現の用法を理解・運用できる。	・読んだことを活用しながら、プラスチックごみなどの環境問題に関して自分たちにできることについて伝えようとしている。 ・本文中の重要表現の用法を理解・運用しようとしている。	(2) 読・書イ
			・読んだことを活用しながら、考えや気持ち、情報などを伝えようとする。	・読んだことを活用しながら、考えや気持ち、情報などを伝えようとしている。	(3) 読・書イ
	6	Lesson 10 Pigs from across the Sea	・関係代名詞を用いた文の形・意味・用法を理解できる。	・関係代名詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。	(1)
			・読んだことを活用しながら、人や物について説明することができる。 ・本文中の重要表現の用法を理解・運用できる。	・読んだことを活用しながら、人や物について説明しようとしている。 ・本文中の重要表現の用法を理解・運用しようとしている。	(2) 読・書イ
			・読んだことを活用しながら、考えや気持ち、情報などを伝えようとする。	・読んだことを活用しながら、考えや気持ち、情報などを伝えようとしている。	(3) 読・書イ

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7(2025)年度	講座名	英語コミュニケーションⅡ	
●講座基礎情報					選択科目	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	2	6回	8回	1	4回	令和7年7月24日(木)
後期	2	6回	8回	1	4回	令和7年12月23日(火)
使用教科書・学習書		All Aboard! English CommunicationⅡ(東京書籍) All Aboard! English CommunicationⅡ学習書(NHK出版)				
●学習目標						
a 外国語の語彙、表現、文法などの理解を深め、実際のコミュニケーションにおいて、適切に活用できる技能を身につける。						
b 場面・目的・状況等に応じて、情報や考えなどの概要・意図を外国語で的確に理解したり、適切に表現したりすることができる。						
c 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。						
●評価規準						
a 知識・技能		外国語の語彙、表現、文法などの理解を深め、実際のコミュニケーションにおいて、適切に活用できる技能を身に付けている。				
b 思考・判断・表現		場面・目的・状況等に応じて、情報や考えなどの概要・意図を外国語で的確に理解したり、適切に表現したりしている。				
c 主体的に学習に取り組む態度		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。				
●学習内容						
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。				
レポート合格基準		レポート内容80%以上の得点および各評価規準80%をもって合格とする。 提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。				
注意点		漢字の間違えは減点する。「なし」、「特になし」と解答した場合は空欄とみなす。 また、問題の指示に沿っていない場合も、空欄、または減点とみなす。				
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領	
前期	1	Lesson 1 A Colorful Island	・関係詞 what を用いた文の形・意味・用法を理解できる。	・関係詞 what を用いた文の形・意味・用法を理解している。	(1)	
			・本文の内容について自分の考えや好み、その理由などを伝えることができる。 ・本文中の重要表現の用法を理解・運用できる。	・本文の内容について自分の考えや好み、その理由などを伝えようとしている。 ・本文中の重要表現の用法を理解・運用しようとしている。	(2) 読・書ア	
			・読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとする。	・読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとしている。	(3) 読・書ア	
	2	Lesson 2 With the Beatles	・比較表現を用いた文の形・意味・用法を理解できる。	・比較表現を用いた文の形・意味・用法を理解している。	(1)	
			・本文の内容について自分の考えや好み、その理由などを伝えることができる。 ・本文中の重要表現の用法を理解・運用できる。	・本文の内容について自分の考えや好み、その理由などを伝えようとしている。 ・本文中の重要表現の用法を理解・運用しようとしている。	(2) 読・書ア	
			・読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとする。	・読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとしている。	(3) 読・書ア	
	3	Lesson 3 Wild Men	・It を用いた文の形・意味・用法を理解できる。	・It を用いた文の形・意味・用法を理解している。	(1)	
			・本文の内容について自分の考えや好み、その理由などを伝えることができる。 ・本文中の重要表現の用法を理解・運用できる。	・本文の内容について自分の考えや好み、その理由などを伝えようとしている。 ・本文中の重要表現の用法を理解・運用しようとしている。	(2) 読・書ア	
			・読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとする。	・読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとしている。	(3) 読・書ア	
	4	Lesson 4 Little Hero	・間接疑問文を用いた文の形・意味・用法を理解できる。	・間接疑問文を用いた文の形・意味・用法を理解している。	(1)	
			・本文の内容について自分の考えや好み、その理由などを伝えることができる。 ・本文中の重要表現の用法を理解・運用できる。	・本文の内容について自分の考えや好み、その理由などを伝えようとしている。 ・本文中の重要表現の用法を理解・運用しようとしている。	(2) 読・書ア	
			・読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとする。	・読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとしている。	(3) 読・書ア	

後期	5	Lesson 5 Special Makeup in Kabuki	・ to 不定詞を用いた文の形・意味・用法を理解できる。	・ to 不定詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。	(1)
		・ 本文の内容について自分の考えや好み、その理由などを伝えることができる。 ・ 本文中の重要表現の用法を理解・運用できる。	・ 本文の内容について自分の考えや好み、その理由などを伝えようとしている。 ・ 本文中の重要表現の用法を理解・運用しようとしている。	(2) 読・書ア	
		・ 読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとする。	・ 読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとしている。	(3) 読・書ア	
	6	Lesson 6 Seeds for Future Generations	・ 動詞の目的語になる if 節を用いた文の形・意味・用法を理解できる。	・ 動詞の目的語になる if 節を用いた文の形・意味・用法を理解している。	(1)
		・ 本文の内容について自分の考えや好み、その理由などを伝えることができる。 ・ 本文中の重要表現の用法を理解・運用できる。	・ 本文の内容について自分の考えや好み、その理由などを伝えようとしている。 ・ 本文中の重要表現の用法を理解・運用しようとしている。	(2) 読・書ア	
		・ 読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとする。	・ 読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとしている。	(3) 読・書ア	
1	Lesson 7 Over the Wall	・ 関係副詞を用いた文の形・意味・用法を理解できる。	・ 関係副詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。	(1)	
	・ 本文の内容について自分の考えや好み、その理由などを伝えることができる。 ・ 本文中の重要表現の用法を理解・運用できる。	・ 本文の内容について自分の考えや好み、その理由などを伝えようとしている。 ・ 本文中の重要表現の用法を理解・運用しようとしている。	(2) 読・書ア		
	・ 読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとする。	・ 読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとしている。	(3) 読・書ア		
2	Lesson 8 Inspiration from Nature	・ 知覚動詞を用いた文の形・意味・用法を理解できる。	・ 知覚動詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。	(1)	
	・ 本文の内容について自分の考えや好み、その理由などを伝えることができる。 ・ 本文中の重要表現の用法を理解・運用できる。	・ 本文の内容について自分の考えや好み、その理由などを伝えようとしている。 ・ 本文中の重要表現の用法を理解・運用しようとしている。	(2) 読・書ア		
	・ 読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとする。	・ 読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとしている。	(3) 読・書ア		
3	Lesson 9 The Bitter Truth behind Chocolate	・ 使役動詞を用いた文の形・意味・用法を理解できる。	・ 使役動詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。	(1)	
	・ 本文の内容について自分の考えや好み、その理由などを伝えることができる。 ・ 本文中の重要表現の用法を理解・運用できる。	・ 本文の内容について自分の考えや好み、その理由などを伝えようとしている。 ・ 本文中の重要表現の用法を理解・運用しようとしている。	(2) 読・書ア		
	・ 読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとする。	・ 読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとしている。	(3) 読・書ア		
4	Lesson 9 The Bitter Truth behind Chocolate	・ 使役動詞を用いた文の形・意味・用法を理解できる。	・ 使役動詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。	(1)	
	・ 本文の内容について自分の考えや好み、その理由などを伝えることができる。 ・ 本文中の重要表現の用法を理解・運用できる。	・ 本文の内容について自分の考えや好み、その理由などを伝えようとしている。 ・ 本文中の重要表現の用法を理解・運用しようとしている。	(2) 読・書ア		
	・ 読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとする。	・ 読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとしている。	(3) 読・書ア		
5	Lesson 10 Fighting Angel	・ 分詞構文を用いた文の形・意味・用法を理解できる。	・ 分詞構文を用いた文の形・意味・用法を理解している。	(1)	
	・ 本文の内容について自分の考えや好み、その理由などを伝えることができる。 ・ 本文中の重要表現の用法を理解・運用できる。	・ 本文の内容について自分の考えや好み、その理由などを伝えようとしている。 ・ 本文中の重要表現の用法を理解・運用しようとしている。	(2) 読・書ア		
	・ 読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとする。	・ 読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとしている。	(3) 読・書ア		
6	Lesson 10 Fighting Angel	・ 分詞構文を用いた文の形・意味・用法を理解できる。	・ 分詞構文を用いた文の形・意味・用法を理解している。	(1)	
	・ 本文の内容について自分の考えや好み、その理由などを伝えることができる。 ・ 本文中の重要表現の用法を理解・運用できる。	・ 本文の内容について自分の考えや好み、その理由などを伝えようとしている。 ・ 本文中の重要表現の用法を理解・運用しようとしている。	(2) 読・書ア		
	・ 読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとする。	・ 読んだことを活用しながら、情報や考えを伝えようとしている。	(3) 読・書ア		

※ 思考・判断・表現 … (2) イ (イ)、(3) イ (ウ)、(4) イ (ウ)、及び (5) イ (イ) の事項は面接指導 (スクーリング) を主とした学習活動を通して育成する。

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7（2025）年度	講座名	論理・表現Ⅰ	
●講座基礎情報					選択科目	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	1	3回	4回	1	0回	令和7年 7月24日（木）
後期	1	3回	4回	1	0回	令和7年12月23日（火）
使用教科書・学習書		NEW FAVORITE English Logic and Expression I（東京書籍）、学習書（NHK出版）				
●学習目標						
a 外国語の基礎的な語彙、表現、文法などの理解を深め、適切に活用できる技能を身につける。						
b 場面・目的・状況等に応じて、情報や考えなどの概要を外国語で的確に理解したり、適切に表現したりすることができる。						
c 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。						
●評価規準						
a 知識・技能		外国語の基礎的な語彙、表現、文法などの理解を深め、適切に活用できる技能を身につける。				
b 思考・判断・表現		場面・目的・状況等に応じて、情報や考えなどの概要を外国語で的確に理解したり、適切に表現したりすることができる。				
c 主体的に学習に取り組む態度		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。				
●学習内容						
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。				
レポート合格基準		レポート内容80%以上の得点および各評価規準80%をもって合格とする。 提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。				
注意点		漢字の間違えは減点する。「なし」、「特になし」と解答した場合は空欄とみなす。 また、問題の指示に沿っていない場合も、空欄、または減点とみなす。				
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領	
前期	1	Unit 1 L1 初めての食事 L2 道に迷う L3 人物紹介	・「褒める」、「提案する」、「紹介する」などの文の形や表現を理解できる。	・「褒める」、「提案する」、「紹介する」などの文の形や表現を理解している。	(1) (2)	
			・本文の内容について自分の考えやその理由を伝えることができる。	・本文の内容について自分の考えやその理由を伝えようとしている。		
			・本文の内容について自分の考えやその理由を伝えようとする。	・本文の内容について自分の考えやその理由を伝えようとしている。		
	2	Unit 1 L4 体調が悪い L5 買い物 L6 行ってみたい場所	・「体調を伝える」、「描写する」、「理由を述べる」などの文の形や表現を理解できる。	・「体調を伝える」、「描写する」、「理由を述べる」などの文の形や表現を理解している。	(1) (3)	
			・本文の内容について自分の考えや指示・アドバイスを伝えることができる。	・本文の内容について自分の考えや指示・アドバイスを伝えようとしている。		
			・本文の内容について自分の考えや指示・アドバイスを伝えようとする。	・本文の内容について自分の考えや指示・アドバイスを伝えようとしている。		
	3	Unit 2 L1,2 クラスでディベート①② L3 経験談のスピーチ L4 遊びやスポーツを紹介	・「理由を述べる」「反駁する」「説明する」などの文の形や表現を理解できる。	・「理由を述べる」「反駁する」「説明する」などの文の形や表現を理解している。	(1)	
			・本文の内容について自分の考えや相手の意見について反駁を伝えることができる。	・本文の内容について自分の考えや相手の意見について反駁を伝えようとしている。		
			・本文の内容について自分の考えや相手の意見について反駁を伝えようとする。	・本文の内容について自分の考えや相手の意見について反駁を伝えようとしている。		
後期	1	Unit 1 L7 イベントに誘われる L8 スクールカウンセラーに相談 L9 お気に入りの紹介	・「誘う」、「提案する」、「紹介する」などの文の形や表現を理解できる。	・「誘う」、「提案する」、「紹介する」などの文の形や表現を理解している。	(1) (2)	
			・本文の内容について説明したり、感想を伝えたりすることができる。	・本文の内容について説明したり、感想を伝えたりしようとしている。		
			・本文の内容について説明したり、感想を伝えたりしようとする。	・本文の内容について説明したり、感想を伝えたりしようとしている。		
	2	Unit 1 L10 待ち合わせに遅刻 L11 家庭でのディスカッション L12 英字新聞に投稿	・「謝る」、「解決策を提案する」などの文の形や表現を理解できる。	・「謝る」、「解決策を提案する」などの文の形や表現を理解している。	(1) (3)	
			・本文の内容について気持ちや解決策を伝えることができる。	・本文の内容について気持ちや解決策を伝えようとしている。		
			・本文の内容について気持ちや解決策を伝えようとする。	・本文の内容について気持ちや解決策を伝えようとしている。		
	3	Unit 2 L5 日本をPR L6 物事の両面を伝える L7 読み手を納得させる L8 読み手を説得する	・「利点や欠点、意見を述べる」などの文の形や表現を理解できる。	・「利点や欠点、意見を述べる」などの文の形や表現を理解している。	(2)	
			・物事の両面を伝えたり、意見を述べたりすることができる。	・物事の両面を伝えたり、意見を述べたりしようとしている。		
			・物事の両面を伝えたり、意見を述べたりしようとする。	・物事の両面を伝えたり、意見を述べたりしようとしている。		

浜田高等学校通信制課程		開講年度		令和7(2025)年度		講座名	家庭総合
●講座基礎情報							必履修科目
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日	
前期	2	4回	4回	1	2回	令和7年 7月24日(木)	
後期	2	4回	4回	1	2回	令和7年12月 23日(火)	
使用教科書・学習書		家庭総合 自立・共生・創造(東京書籍)・家庭総合 自立・共生・創造 学習書(NHK出版)					
●学習目標							
<p>a 生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境について理解を深め、それらに係る技能を身に付ける。</p> <p>b 生活の中から問題を見だし、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現する。</p> <p>c よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組み、自分の家庭・地域の生活を創造し、実践しようとする。</p>							
●評価規準							
a 知識・技能		生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。					
b 思考・判断・表現		生活の中から問題を見だし、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。					
c 主体的に学習に取り組む態度		よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組み、自分の家庭・地域の生活を創造し、実践しようとしている。					
●学習内容							
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。					
レポート合格基準		レポート内容80%以上の評点および各評価規準80%をもって合格とする。 提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。					
注意点		各レポートに実践課題があるので、早目に確認すること。漢字の間違いは減点する。「なし」、「特になし」、問題の指示に沿っていない場合の解答は、空欄とみなします。					
レポート計画							
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領		
前期	1	第1章 生涯を見通す 第2章 人生をつくる 【実践課題】 1 発達課題と向き合う 2 自分の生活時間を振り返ろう	・様々な生き方があることを理解することができる。	・様々な生き方があることを理解している。	A(1)ア		
			・生涯を見通した自己の生活について、将来の生活について考察することができる。	・生涯を見通した自己の生活について、将来の生活について考察している。	A(1)イ		
			・学んだことを生活の中で実践しようとする。	・学んだことを生活の中で実践しようとしている。			
	2	第3章 子どもと共に育つ 【実践課題】 1 子ども向けの番組を視聴して、あなたの考えをまとめましょう	・子どもの発達と生活、親の役割、地域及び社会の果たす役割などについて理解することができる。	・子どもの発達と生活、親の役割、地域及び社会の果たす役割などについて理解している。	A(2)ア		
			・子どもとかわかることの重要性について考えることができる。	・子どもとかわかることの重要性について考えている。	A(2)ア		
			・将来の生活等をイメージして、実践しようとする。	・将来の生活等をイメージして、実践しようとしている。			
	3	第4章 超高齢社会を共に生きる 第5章 共に生き、共に支える 【実践課題】 1 身の回りのユニバーサルデザインをみつけよう	・高齢者の生活及び高齢社会の現状と課題について理解することができる。	・高齢者の生活及び高齢社会の現状と課題について理解している。	A(2)イ、ウ		
			・家庭や地域及び社会の一員として主体的に行動することの意義について考えることができる。	・家庭や地域及び社会の一員として主体的に行動することの意義について考えている。	A(2)イ、ウ		
	4	第8章 住生活をつくる 【課題】 1 防災について考えよう	・住まいと人との関わりや、住生活の機能を科学的に理解し、必要な技術を身につけることができる。	・住まいと人との関わりや、住生活の機能を科学的に理解し、必要な技術を身につける。	B(3)ア(ア) (イ)		
			・ライフステージと住生活とまちづくり、日本文化の継承創造について考察することができる。	・ライフステージと住生活とまちづくり、日本文化の継承創造について考察している。	B(3)イ		
			・将来の生活等をイメージして、実践しようとする。	・将来の生活等をイメージして、実践しようとしている。			

	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領
後期	1	第6章 食生活をつくる 【実践課題】 食事調べ	・食と人との関わりについて理解することができる。	・食と人との関わりについて理解しようとしている。	B(1)ア(ア)、 (イ)
			・健康、環境に配慮した自己と家族の食事について考察し、工夫しようとする。	・健康、環境に配慮した自己と家族の食事について考察し、工夫しようとしている。	B(1)イ
			・学んだことを生活の中で実践しようとする。	・学んだことを生活の中で実践しようとしている。	
	2	第6章 食生活をつくる 【実践課題】 食事づくり	・おいしさの構成要素や食品の調理上の性質について科学的に理解できる。 ・目的に応じた調理に必要な技能を身に付けることができる。	・おいしさの構成要素や食品の調理上の性質について科学的に理解しようとしている。 ・目的に応じた調理に必要な技能を身に付けようとしている。	B(1)ア(ウ)
			日本の食文化の継承・創造について考察し、工夫しようとする。	日本の食文化の継承・創造について考察し、工夫しようとしている。	B(1)イ
			・学んだことを生活の中で実践しようとする。	・学んだことを生活の中で実践しようとしている。	
	3	第7章 衣生活をつくる 【実践課題】 手縫いの基礎	・被服と人との関わりについて理解を深めることができる。 ・自己と家族の衣生活の計画・管理に必要な情報の収集・整理ができる。 ・被服材料等について科学的に理解し、衣生活の自立に必要な技能を身に付ける。	・被服と人との関わりについて理解を深めようとしている。 ・自己と家族の衣生活の計画・管理に必要な情報の収集・整理をしようとしている。 ・被服材料等について科学的に理解し、衣生活の自立に必要な技能を身に付けようとしている。	B(2)ア(ア) (イ)(ウ) Dア
			・目的や個性に応じた健康で快適、機能的な着装について考察し、工夫しようとする。	・目的や個性に応じた健康で快適、機能的な着装について考察し、工夫しようとしている。	B(2)イ
			・学んだことを生活の中で実践しようとする。	・学んだことを生活の中で実践しようとしている。	
	4	第9章 経済生活を営む 第10章 持続可能な生活を営む 【課題】 円高・円安における輸出入の場合の商品価格を計算してみよう	・家計の構造および経済と社会との関わりについて理解を深めることができる。 ・情報の収集・整理ができる。	・家計の構造および経済と社会との関わりについて理解を深めようとしている。 ・情報の収集・整理をしようとしている。	C(1)ア(ア) (イ)
			・生涯を見通した生活における経済について、社会保障制度など関連付けて考察することができる。	・生涯を見通した生活における経済について、社会保障制度など関連付けて考察している。	C(3)イ
			・学んだことを生活の中で実践しようとする。	・学んだことを生活の中で実践しようとしている。	

※上から a知識・技能 b思考・判断・表現 c主体的に学習に取り組む態度

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7（2025）年度	講座名	情報Ⅰ	
●講座基礎情報					必履修科目	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	1	3回	2回	1	1回	令和7年 7月24日（木）
後期	1	3回	2回	1	1回	令和7年12月23日（火）
使用教科書・学習書		新編情報Ⅰ（東京書籍）学習書（NHK出版）				
●学習目標						
<p>a 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。</p> <p>b 様々な事象を情報とその結びつきとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。</p> <p>c 情報と情報技術を適切に活用することにより、情報社会に主体的に参画する態度を養う。</p>						
●評価規準						
a 知識・技能		情報と情報技術を活用した問題の発見・解決の方法、情報化の進展か社会の中で果たす役割や影響、情報に関する法律・規則やマナー、個人が果たす役割や責任について理解し、情報と情報技術を適切に活用するために必要な知識・技能を身に付けている。				
b 思考・判断・表現		事象を情報とその結び付きの視点から捉え、複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだす力や、問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力を身に付けている。				
c 主体的に学習に取り組む態度		情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。				
●学習内容						
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。				
レポート合格基準		レポート内容80%以上の評点および各評価規準80%をもって合格とする。提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。				
注意点		章の最後に章末問題とまとめがあるので参考にすること。				
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領	
前期	1	1 章 情報で問題を解決する	・情報の特性から、情報とは何かを理解する。	・情報の特性から、情報とは何か理解できる。	A ア(1)	
		1 情報とメディアの特性	・問題の発見・解決するための一連の流れを理解する。	・問題を発見・解決するための一連の流れが理解できる。	A イ(7)	
		2 問題解決の流れ	・情報に関する法規や制度及びマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなど、それらの背景を科学的に捉え、考察できる。	・情報に関する法規や制度があることが理解できる。 ・情報モラルに配慮して情報発信できる。	B イ(1)	
	2	3 発想法	・情報技術による社会・生活の変化を理解する。	情報技術による、社会・生活の変化が理解できる。	A ア(9)	
		4 情報モラル	・サイバー犯罪などについて理解する。	電子マネーと現金のメリットとデメリットを考えることができる。	B イ(9)	
		5 個人情報の流出	・メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴を、変遷も踏まえて理解する。	メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴を、変遷も踏まえて理解できる。	A ア(7)	
		6 傷つかない傷つけないために	・デジタルデータとは何か、理解する。	2進法、10進法、16進法の仕組みが理解できる。	A ア(7)	
	3	7 著作権	・情報デザインの目的を理解する。	情報をわかりやすく伝達するために、文字や図、表やグラフ、配色の工夫など基本的な方法を知っている。	A ア(9)	
		8 情報技術の発展	・ユニバーサルデザインについて理解する。	デジタル情報とアナログ情報のメリットとデメリットを考えることができる。	B イ(7)	
		9 情報化と私たちの生活の変化				
10 よりよい情報化社会へ						
2章 情報を伝える						
11 コミュニケーション手段の変化						
12 ネットコミュニケーションの特徴						

	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領
後期	1	3章 コンピュータを活用する	・コンピュータの基本構成について理解する。	・コンピュータの基本構成が理解できる。	A ア(ア)
		2.1 コンピュータとは何か 2.2 ソフトウェアの仕組み 2.3 演算の仕組みとコンピュータの限界 2.4 アルゴリズムの表現 2.5 プログラムの基本構造1 2.6 プログラムの基本構造2			
	2	2.7 発展的なプログラム1 2.8 発展的なプログラム2 2.9 モデル化とシミュレーション 3.0 シミュレーションの活用	・物理モデル、図的モデル、数理モデルが理解できる。	・制御構造を組み合わせてプログラムを作成することができる。	B イ(イ)
		4章 データを活用する 3.1 ネットワークとインターネット 3.2 インターネットの仕組み 3.3 サーバとクライアント 3.4 インターネット上のサービス	・情報通信ネットワークとは何かを理解する。	・インターネットとはどのようなものか理解できる。	A ア(ア)
			・www、電子メールについて理解する。	・Web ページの閲覧、電子メールを送受信する仕組みが理解できる。	B イ(ア)
			・情報セキュリティを確保するための方法・技術を理解する。	・個人認証と暗号化について理解できる。	C ア(ア)
	3	3.5 情報セキュリティ 3.6 データの形式 3.7 データベースの活用 3.8 さまざまなデータモデル 3.9 データ分析の流れ 4.0 目的に合わせたデータの利用	・データベースの役割を理解する	・データベース管理システムの必要性が理解できる。	A ア(ウ)
			・問題解決におけるデータ分析ができる。	・クロス集計の結果を分析できる。 ・分析結果から改善を図る。	B、C イ(ウ)

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7（2025）年度	講座名	ビジネス基礎	
●講座基礎情報					選択科目	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	1	2回	3回	1	1回	令和7年7月24日（木）
後期	2	4回	4回	1	2回	令和7年12月23日（火）
使用教科書・学習書		ビジネス基礎（実教出版）・学習書（NHK出版）				
●学習目標						
<p>a. 商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>b. ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>c. 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。</p>						
●評価規準						
a 知識・技能		ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役に立つ、ビジネスに関する基礎的な知識と技術を身に付けている。				
b 思考・判断・表現		ビジネスをはじめとして様々な知識、技術を活用し、ビジネスに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、市場の動向、ビジネスに関する理論、データ、成功事例や改善に要する根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。				
c 主体的に学習に取り組む態度		ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らビジネスについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して、当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、ビジネスの創造と発展に責任をもって取り組もうとしている。				
●学習内容						
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。				
レポート合格基準		レポート内容80%以上の評点および各評価規準80%をもって合格とする。提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。				
注意点		字数指定のある問については8割以上の記述をする。指示がない場合は句読点を字数に含める。				
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領	
前期	1	第1章 商業の学習とビジネス 1. いざ、ビジネスの世界へ 2. 私たちの社会とビジネス	商業を学ぶ重要性と学び方、ビジネスの概要について理解します。	商業を学ぶ重要性と学び方、ビジネスの概要について理解している	(1) ア	
		第7章 ビジネス計算の基礎	ビジネスの役割について、企業の社会的責任や、環境、エネルギー、食料などの社会的な課題及びビジネスの動向・課題について具体的な事例と関連付けて学びます。	商業を学ぶこと及びビジネスの意義と課題について、経済社会の持続的な発展と関連について考えている。	(1) イ	
			実践する力、職業人として必要な豊かな人間性、他者と協働する力を身につける。	ビジネスの基礎的な事項について自ら学び、ビジネスに主体的かつ協動的に取り組んでいる。	(1) アイウ	
	2	第2章 ビジネスとコミュニケーション 1. コミュニケーション 2. ビジネスマナー 3. 情報の入手と活用	ビジネスにおける信頼関係構築の意義と重要性を学びます。	ビジネスにおける信頼関係構築について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている	(2) ア	
			ビジネスマナーの意義を理解し、場面に応じて考え、活動できる力を身に付ける。	ビジネスの場面を分析し、ビジネスにおいて他者への対応について考えている。	(2) イ	
			企業活動における情報の重要性について理解し、情報の活用及び評価・改善を行う。	情報を入手して活用し、評価改善している。ビジネスに主体的かつ協動的に取り組んでいる。	(2) ウ	
		第3章 経済と流通の基礎 1. 経済の仕組みとビジネス 2. 経済活動と流通	経済の仕組みと流通の必要性について理解する。	経済と流通について経済社会における事例と関連付けて理解できる。	(3) ア	
		第7章 ビジネス計算の基礎	経済の基本理念、流通の役割など経済と流通に関する知識を基盤として、流通に関する課題を発見し、その解決方法を考える。	経済と流通に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えることができる。	(3) イ	
			流通を支える組織の一員としての役割を果たすことができる力を身につける。	経済と流通について自ら学び、経済の基本概念を踏まえ、流通と流通を支える活動に組織の一員として主体的かつ協動的に取り組んでいる。	(3) ウ	

	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領
後期	1	第4章 さまざまなビジネス	ビジネスの種類について理解し、流通や流通に関わる様々なビジネスについて学ぶ。	ビジネスの種類と流通や流通に関わる様々なビジネスについて、経済社会における事例と関連付けて理解している。	(5) ア
		1. ビジネスの種類 2. 小売業 3. 卸売業 4. 金融業 5. 情報通信業	流通や流通に関わるビジネスに関する知識を基盤として、流通や流通に関わる様々なビジネスに関する課題を発見し、その対応策を考える。	流通や流通に関わる様々なビジネスに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。	(5) ア
		第7章 ビジネス計算の基礎	流通や流通に関わる組織の一員としての役割を果たすための力を身につける。	流通や流通に関わる様々なビジネスについて自ら学び、これらの組織の一員として主体的かつ協働的に取り組んでいる。	(5) イ ウ エ
	2	第5章 企業活動の基礎	企業活動の形態と組織、マーケティングの重要性と流れなど企業活動に必要な知識を学ぶ。	企業活動について経済社会における事例と関連付けて理解している。	(5) ア イ オ カ
		1. ビジネスと企業 2. マーケティングの重要性 3. 資金調達 4. 財務諸表の役割 5. 企業活動と税 6. 雇用	企業活動に関する知識を基に、企業活動の動向など、企業活動に関する課題を発見し、その対応策を考える。	企業活動に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。	(5) ウ エ
			企業活動の展開について、組織の一員としての役割を果たすことができる力を身につける。	企業活動について自ら学び、企業活動に関する事例などを踏まえ、企業活動に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	(5) ア エ
	3	第6章 ビジネスと売買取引	売買取引、代金決済など取引に関する知識や技術を学びます。	取引について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身につけている。	(4) ア
		1. 売買取引の手順 2. 代金決済	取引に関する知識や技術を基に、実務における取引に関する課題を発見し、その対応策を考えます。	取引に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。	(4) ア
			契約の履行と締結について、組織の一員としての役割を果たすことができる力を身につけます。	取引について自ら学び、適切な契約の締結と履行に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	(4) ア
	4	第7章 ビジネス計算	ビジネス計算に関する知識や技術を学びます。	ビジネス計算について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身につけている。	(4) イ
		1. ビジネス計算の基礎 2. ビジネス計算の応用	ビジネス計算について学び、その知識と技術で組織の一員としての役割を果たすことができる力を身につけます。	ビジネス計算について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。	
		第8章 身近な地域のビジネス	さまざまな地域の魅力と課題、地域ビジネスの動向について学びます。	さまざまな地域のビジネスについて理解している。	(6) ア
		1. さまざまな地域の魅力と課題 2. 地域ビジネスの動向	さまざまな地域のビジネスに関する知識などを基に、身近な地域のビジネスに関する課題を発見し、その対応策を考えます。	身近な地域のビジネスに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、ビジネスの振興策を考え、実施及び評価・改善を行っている。	
			ビジネスの振興による地域の発展について、組織の一員としての役割を果たすことができる力を身につけます。	身近なビジネスについて自ら学び、ビジネスの振興による地域の発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	(6) イ

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7（2025）年度	講座名	簿記
●講座基礎情報					選択科目
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数
前期	2	4回	4回	1	0回
後期	2	4回	4回	1	0回
使用教科書・学習書		新簿記（実教出版）			
●学習目標					
<p>a. 簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>b. 取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。</p> <p>c. 企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。</p>					
●評価規準					
a 知識・技能		簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。			
b 思考・判断・表現		取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を備えている。			
c 主体的に学習に取り組む態度		企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協動的に取り組む態度を備えている。			
●学習内容					
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。			
レポート合格基準		レポート内容80%以上の評点および各評価規準80%をもって合格とする。 提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。			
注意点		字数指定のある間については8割以上の記述をする。指示がない場合は句読点を字数に含める。			
レポート計画					
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領
前期	1	第1遍 簿記の基礎 第1章 簿記の基礎 第2章 資産・負債・純資産と貸借対照表 第3章 収益・費用と損益計算書 第4章 取引と勘定 P8～37	簿記の意味・目的を明らかにし、記帳の重要性を理解させる。 資産・負債・純資産(資本)の意味を明らかにし、これらの相互関係を理解させる。 純損益を計算する方法(財産法)を理解させる。 収益・費用の意味を明らかにし、純損益を計算する方法(損益法)を理解させる。 勘定・勘定科目・勘定口座などの意味を理解させる。	簿記の基礎的な知識を身に付けたか・簿記を学ぶことの意義と必要性を理解している。 資産・負債・純資産(資本)の種類、貸借対照表の構造や役割、財産法の仕組みを理解している。 収益・費用の種類、損益計算書の構造や役割、損益法の仕組みを理解している。 取引の分解と勘定記入について適切に判断し、性格に行えている。	(1) アイウ
	2	第5章 仕訳と転記 第6章 仕訳帳と総勘定元帳 第7章 試算表 第8章 精算表 P38～61	仕訳の意味を明らかにし、各種の取引の仕訳に習熟させる。 仕訳帳の形式・記入法を理解させ、記帳に習熟させる。総勘定元帳の意味を明らかにし、仕訳帳からの転記の仕方に習熟させる。 試算表の役割・種類・特徴などを明らかにし、その作り方に習熟させる。 精算表の役割を明らかにし、その作り方に習熟させる。	仕訳の手順を理解しているか。転記について適切に判断で、正確におこなえている。 仕訳帳と総勘定元帳の意味と記帳法を理解している。仕訳帳・総勘定元帳への記帳を適切に判断し、正確に行えている。 試算表の意味と作成方法を理解し、試算表の種類について思考し、適切に作成できる。 精算表について適切に作成できる。	(1) イウ (3) アイ
	3	第9章 決算 P62～74	決算の意味・必要性・重要性について理解させる。決算手続き全体の流れを理解させ、その記帳に習熟させる。	決算の一連の手続きについて理解している。貸借対照表と損益計算書の作成方法を理解し資産・負債・資本・収益・費用の勘定を適切に締め切ることが出来る。	(1) イウ
	4	第2編 取引の記帳 第10章 現金・預金などの取引 P76～91	現金に関する記帳方法と現金出納帳の記帳方法について理解させる。現金過不足の処理方法を理解させる。当座預金の記帳方法と当座預金出納帳の記帳方法について理解させる。小口現金のシステムを理解させ、その記帳方法と記帳の習熟をはかる。	現金・預金の取引に関する基本的な内容とその記帳方法を理解して、基礎的な技術を身に付けている。現金預金の取引について、その記帳に関して自ら考えを深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し表現する能力を身に付けている。	(2) ア

	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領
後期	1	第 11 章 商品売買の取引 P92～104 第 12 章 掛け取引 P105～111	分記法の復習から 3 分法による商品売買の記帳方法を理解させる。仕入帳・売上帳・商品有高帳の役割と記帳方法を明らかにし、その記帳方法に習熟させる。先入先出法と移動平均法を理解させる。売上原価を計算し、商品売買損益を計算する方法について明らかにする。 掛け取引の意味を明らかにし売掛金勘定と買掛金勘定の記帳方法を理解させる。人名勘定の意味を明らかにする。	商品売買の取引に関する基本的な内容とその記帳方法を理解して、基礎的な技術を身に付けている。 3 分法による記帳方法や仕入帳・売上帳・商品有高帳に関する知識とその記帳方法を理解している。 掛け取引に関する基本的な内容とその記帳法を理解して、基礎的な技術を身に付けている。	(2) ウ
	2	第 12 章 掛け取引 P105～111 第 13 章 手形の割引 P112～117 第 14 章 その他の債権・債務の取引 P118～130	売掛金元帳と買掛金元帳の役割を明らかにし、その記帳に習熟させる。 手形の種類を明らかにする。 約束手形のしくみと記帳方法を理解させ、各種取引の記帳方法について習熟させる。 手形記入帳の役割と記帳方法を理解させる。 各種の債権・債務の記帳に習熟させる。	掛け取引の記帳に関して、自ら考えを深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身に付けている。 手形の取引に関する基本的な内容とその記帳法を理解して、基礎的な技術を身に付けている。 手形に関する記帳に自らの思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身に付けている。	(2) ウ
	3	第 15 章 固定資産の取引 P131～135 第 16 章 個人企業の資本の取引 P136～141 第 17 章 販売費と一般管理費、税金の取引 P142～150 第 18 章 決算整理 P152～169	固定資産の意味と種類を明らかにし、固定資産に関する記帳方法を理解させる。固定資産台帳の役割を明らかにする。 個人企業における資本の元入れ、引き出しなどの記帳方法を理解させる。 引出金勘定を用いた場合の記帳方法を理解させる。 販売費及び一般管理費の意味と記帳方法を理解させる。個人企業に課せられる税金と消費税の記帳方法を理解させる。 決算整理の意味とその必要性を理解させる。3 分法による商品売買に関する勘定の整理、貸し倒れの見積もり、減価償却の処理法を理解させ、その記帳に習熟させる。	固定資産の取引に関する基本的な内容とその記帳法を理解して、基礎的な技術を身に付けている。 個人企業の資本の取引等に関する基本的な内容とその記帳法を理解して、基礎的な技術を身に付けている。 販売費及び一般管理費の取引等に関する基本的な内容とその記帳法を理解して、基礎的な技術を身に付けている。 決算手続きの意味を理解し、決算手続きに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。	(2) オ (2) カ (2) エ (3) アイ
	4	第 19 章 8 桁精算表 P170～174	8 桁精算表の意味を明らかにし、その作成に習熟させる。	8 桁精算表の意味を理解し、作成方法について基礎的・基本的な知識を身に付けている。8 桁精算表と 6 桁精算表との作成方法の違いについて思考し、適切に作成する能力を身に付けている。	(3) アイ
	4	第 20 章 帳簿決算 P175～182	帳簿決算の意味とその必要性を理解させる。総勘定元帳の締め切りと、繰越試算表・貸借対照表・損益計算書の作成に習熟させる。	総勘定元帳の締め切りと、繰越試算表・貸借対照表・損益計算書の作成について基礎的・基本的な作成方法を身に付けている。 決算整理を含んだ帳簿決算について、一定の方法に従って判断処理ができる。	(3) アイ

		3章 情報の集計と分析 1節 ビジネスと統計 4章 ビジネス文書の作成 3節 ビジネス文書の種類と作成	ビジネスに関する情報の集計と分析について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身につける。 ビジネスに関する情報の提供に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、情報を集計・分析して表現し、評価・改善できる。 ビジネス文書の作成に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、文書で発信することが必要な情報を表現し、評価・改善する。	ビジネスに関する情報の集計と分析について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身につけている。 ビジネスに関する情報の提供に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、情報を集計・分析して表現し、評価・改善している。 ビジネス文書の作成に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、文書で発信することが必要な情報を表現し、評価・改善することができる。	(3) ア (4) イ
期	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領
後期	1	3章 情報の集計と分析 2節 表・グラフの作成と表計算ソフトウェアの特徴	ビジネスに関する情報の集計と分析について理解し、関連する技術を身につける。	ビジネスに関する情報の集計と分析について理解し、関連する技術を身につけている。	(3) イ
			ビジネスに関する情報の提供に対する要求を分析し、情報を集計・分析して表現し、評価・改善することができる。	ビジネスに関する情報の提供に対する要求を分析し、情報を集計・分析して表現し、評価・改善している。	
			適切な情報の提供と効果的な活用主体的に取り組もうとする。	適切な情報の提供と効果的な活用主体的に取り組もうとしている。	
	2	3章 情報の集計と分析 2節 表・グラフの作成と表計算ソフトウェアの特徴	ビジネスに関する情報の集計と分析について理解し、関連する技術を身につける。	ビジネスに関する情報の集計と分析について理解し、関連する技術を身につけている。	(3) イ
			情報の提供に対する要求を分析し、情報を集計・分析して表現し、評価し改善することができる。	情報の提供に対する要求を分析し、情報を集計・分析して表現し、評価・改善している。	
			適切な情報の提供と効果的な活用主体的に取り組もうとする。	適切な情報の提供と効果的な活用主体的に取り組もうとしている。	
	3	3章 情報の集計と分析 3節 情報の分析	ビジネスに関する情報の集計と分析について理解し、関連する技術を身につける。	ビジネスに関する情報の集計と分析について理解し、関連する技術を身につけている。	(3) イ
			情報の提供に対する要求を分析し、情報を集計・分析して表現し、評価し改善することができる。	情報の提供に対する要求を分析し、情報を集計・分析して表現し、評価・改善している。	
			ビジネスに関する情報の集計と分析について、適切な情報の提供と効果的な活用主体的に取り組もうとする。	ビジネスに関する情報の集計と分析について、適切な情報の提供と効果的な活用主体的に取り組もうとしている。	
	4	3章 情報の集計と分析 3節 情報の分析 4節 問題の発見と解決の方法	ビジネスに関する情報の集計と分析について理解し、関連する技術を身につける。	ビジネスに関する情報の集計と分析について理解し、関連する技術を身につけている。	(3) イウ
			情報の提供に対する要求を分析し、情報を集計・分析して表現し、評価・改善することができる。	情報の提供に対する要求を分析し、情報を集計・分析して表現し、評価・改善している。	
			適切な情報の提供と効果的な活用主体的に取り組もうとする。	適切な情報の提供と効果的な活用主体的に取り組もうとしている。	
	5	5章 プレゼンテーション 1節 プレゼンテーションの技法 2節 プレゼンテーションソフトウェアの活用	プレゼンテーションとはどのようなものか理解し、どうすればプレゼンテーションが効果的に行えるか思考する。	プレゼンテーションについて理解し、効果的なプレゼンテーションを行う方法や手段に関する知識を身につけている。	(5) アイ
			プレゼンテーションソフトを活用し、効果的にプレゼンテーションを行うことに取り組もうとする。	プレゼンテーションソフトを活用し、効果的なプレゼンテーションが実施できている。	
			適切な情報の提供と効果的な活用主体的に取り組もうとする。	適切な情報の提供と効果的な活用主体的に取り組もうとしている。	

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7(2025)年度	講座名	保育基礎	
●講座基礎情報					選択科目	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	2	4回	4回	1	0回	令和7年7月24日(木)
後期	2	4回	4回	1	0回	令和7年12月23日(火)
使用教科書・学習書		保育基礎 ようこそ、ともに育ち合う保育の世界へ(教育図書)				
●学習目標						
<p>a 保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子どもの福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける。</p> <p>b 子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>c 子どもの健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>						
●評価規準						
a 知識・技能		保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子どもの福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。				
b 思考・判断・表現		子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。				
c 主体的に学習に取り組む態度		子どもの健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。				
●学習内容						
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。				
レポート合格基準		レポート内容80%以上の評点および各評価規準80%をもって合格とする。 提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。				
注意点		各レポートに実践課題があるので早めに確認すること。漢字の間違えは減点する。「なし」、「特になし」、問題の指示に沿っていない場合の解答は、空欄とみなします。				
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領	
前期	1	第1章 子どもの保育 (1) 保育の意義 (2) 保育の環境 (3) 保育の方法	保育の意義と方法、保育の緩急の特徴と役割について理解することができる。	保育の意義と方法、保育の緩急の特徴と役割について理解している。	(1)①	
		課題 子どもの気持ちに寄り添う保育者とは?	子どもの心身の状態や発達に応じた保育の方法とその環境について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫することができる。	子どもの心身の状態や発達に応じた保育の方法とその環境について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。	(1)②	
			子どもの保育の方法や保育の環境について自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	子どもの保育の方法や保育の環境について自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		
	2	第2章 子どもの発達 (1) 子どもの発達	生涯発達における乳幼児期について、基本的な発達と特性と心身の様々な機能の発達を発達時期ごとの子どもの姿を通して理解することができる。	生涯発達における乳幼児期について、基本的な発達と特性と心身の様々な機能の発達を発達時期ごとの子どもの姿を通して理解している。	(2)①	
		TRY1 イヤイヤ期とは何だろう	乳幼児期の子どもが健全な心身の発達について具体例から課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫することができる。	乳幼児期の子どもが健全な心身の発達について具体例から課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。	(2)②	
		TRY2 自分が通った保育施設、小学校等施設の環境を振り返ろう	具体例の課題解決に向けて、主体的に取り組むことができる。	具体例の課題解決に向けて、主体的に取り組もうとしている。		
	3	第2章 子どもの発達 (2) 乳幼児の発育と発達	生涯発達における乳幼児期について、基本的な発達と特性と心身の様々な機能の発達を発達時期ごとの子どもの姿を通して理解することができる。	生涯発達における乳幼児期について、基本的な発達と特性と心身の様々な機能の発達を発達時期ごとの子どもの姿を通して理解している。	(2)①	
		課題 発達の個人差を大事にした保育って?	乳幼児期の子どもが健全な心身の発達について具体例から課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫することができる。	乳幼児期の子どもが健全な心身の発達について具体例から課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。	(2)②	
			具体例の課題解決に向けて、主体的に取り組むことができる。	具体例の課題解決に向けて、主体的に取り組もうとしている。		

※上から a知識・技能 b思考・判断・表現 c主体的に学習に取り組む態度

	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領
	4	第3章 子どもの生活 (1)子どもの健康と生活 (2)子どもの食事	子どもの生活と養護について理解し、適切な生活習慣の形成や健康と安全管理に関する保育の技術を身につけることができる。	子どもの生活と養護について理解し、適切な生活習慣の形成や健康と安全管理に関する保育の技術を身につけている	(3)①
		課題 1. 子どもへの声掛けと行動を考えよう。 2. 子どもの嫌いな食べ物、どう工夫する? 3. 幼児の昼食献立を考えよう	子どもの生活と適切な養護について、具体例から課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫することができる。	子どもの生活と適切な養護について、具体例から課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している	(3)②
			具体例の課題解決に向けて、主体的に取り組むことができる。	具体例の課題解決に向けて、主体的に取り組もうとしている。	

	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領
後期	1	第3章 子どもの生活 (3)子どもの衣服と寝具 (4)子どもの健康と安全	子どもの生活と養護について理解し、適切な生活習慣の形成や健康と安全管理に関する保育の技術を身につけることができる。	子どもの生活と養護について理解し、適切な生活習慣の形成や健康と安全管理に関する保育の技術を身につけている	(3)①
		課題 保育施設での危険をどう防ぐ?	子どもの生活と適切な養護について、具体例から課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫することができる。	子どもの生活と適切な養護について、具体例から課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している	(3)②
			具体例の課題解決に向けて、主体的に取り組むことができる。	具体例の課題解決に向けて、主体的に取り組もうとしている。	
	2	第5章 子どもの文化1 (1)子どもの文化の意義 (2)子どもの文化を支える場	子どもの文化、子どもの遊びと表現活動について理解し、関連する技術を身につけることができる。	子どもの文化、子どもの遊びと表現活動について理解し、関連する技術を身につけている。	(5)①
		課題 コミュニケーションができる絵本づくり	子どもの健やかな発達を促す遊びや表現活動について具体例から課題を発見し、その解決に向けて考察、工夫することができる。	子どもの健やかな発達を促す遊びや表現活動について具体例から課題を発見し、その解決に向けて考察、工夫している。	(5)②
			具体例の課題解決に向けて、主体的に取り組むことができる。	具体例の課題解決に向けて、主体的に取り組もうとしている。	
	3	第5章 子どもの文化2 (3)子どもと遊び (4)子どもの表現活動	子どもの文化、子どもの遊びと表現活動について理解し、関連する技術を身につけることができる。	子どもの文化、子どもの遊びと表現活動について理解し、関連する技術を身につけている。	(5)①
		課題 絵かき歌	子どもの健やかな発達を促す遊びや表現活動について具体例から課題を発見し、その解決に向けて考察、工夫することができる。	子どもの健やかな発達を促す遊びや表現活動について具体例から課題を発見し、その解決に向けて考察、工夫している。	(5)②
			具体例の課題解決に向けて、主体的に取り組むことができる。	具体例の課題解決に向けて、主体的に取り組もうとしている。	
	4	第4章 子どもの福祉 (1)保育にみる児童観 (2)児童福祉の理念と法規・制度	児童観の変遷や児童福祉の理念と制度について理解することができる。	児童観の変遷や児童福祉の理念と制度について理解している。	(4)①
		課題 すべての子どもに充実した保育について考える	子どもの福祉を支える場の役割について具体例から課題を発見し、その解決に向けて考察、工夫することができる。	子どもの福祉を支える場の役割について具体例から課題を発見し、その解決に向けて考察、工夫している。	(4)②
			具体例の課題解決に向けて、主体的に取り組むことができる。	具体例の課題解決に向けて、主体的に取り組もうとしている。	

※上から a知識・技能 b思考・判断・表現 c主体的に学習に取り組む態度

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7(2025)年度	講座名	消費生活	
●講座基礎情報						選択科目
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	2	4回	4回	1	0回	令和7年 7月24日(木)
後期	1	2回	2回	1	0回	令和7年12月23日(火)
使用教科書・学習書		消費生活(実教出版)				
●学習目標						
<p>a 経済社会の変化と消費生活、消費者の権利と責任、消費者と企業や行政とのかかわり及び連携の在り方などに関する知識と技術を習得させる。</p> <p>b 持続可能な社会の形成に寄与する。</p> <p>c 消費者の支援に必要な能力と態度を育てる。</p>						
●評価規準						
a 知識・技能		経済社会の変化と消費生活、消費者の権利と責任、消費者と企業や行政とのかかわり及び連携の在り方などに関する知識と技術を身につけようとしている。				
b 思考・判断・表現		持続可能な社会形成に寄与しようとしている。				
c 主体的に学習に取り組む態度		消費者の支援に必要な能力と態度を身につけようとしている。				
●学習内容						
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。				
レポート合格基準		レポート内容80%以上の評点および各評価規準80%をもって合格とする。 提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。				
注意点		各レポートの最後に実践課題があるので、早目に確認すること。漢字の間違えは減点する。「なし」、「特になし」、問題の指示に沿っていない場合は、空欄とみなします。				
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領	
前期	1	第1章 社会を支える消費者課題 1.地域の相談窓口を確認 2.自分が生まれた年代の消費者問題を調べる 3.エンカール消費について考える	・経済社会の変化に伴って、流通・販売方法が複雑化している現状を理解する。	・経済社会の変化に伴って、流通・販売方法が複雑化している現状を理解している。	(1)ア、イ、ウ、エ	
			・家族一人一人の生涯を見通した経済生活の計画と管理について考察する。	・家族一人一人の生涯を見通した経済生活の計画と管理について考察している。	(1)ア、イ、ウ、エ	
			・学んだことを生活の中で実践しようとする。	・学んだことを生活の中で実践しようとしている。		
	2	第2章 消費者被害と消費者の権利・責任 課題 消費者行政のホームページを閲覧してみよう 発展課題 生活協同組合について調べてみよう	・これまでの消費者問題の背景と問題点を通して、消費者が留意すべき事項を理解する。 ・消費者行政と基本的な法規の目的と概要を理解する。	・これまでの消費者問題の背景と問題点を通して、消費者が留意すべき事項を理解している。 ・消費者行政と基本的な法規の目的と概要を理解している。	(2)ア、イ	
			・消費者としての義務と責任を果たすことが権利の行使につながることを考察する。	・消費者としての義務と責任を果たすことが権利の行使につながることを考察している。	(2)ア、イ	
			・学んだことを生活の中で実践しようとする。	・学んだことを生活の中で実践しようとしている。		
	3	第3章 消費生活の安全と自由 課題 1.牛肉の個体識別番号を調べる 2.安全性を欠いた事故事例を調べる	・様々な方法で商品・サービスの情報提供が行われていることを理解する。	・様々な方法で商品・サービスの情報提供が行われていることを理解している。	(3)ア	
			・消費者問題の未然防止や解決の方法について考察する。	・消費者問題の未然防止や解決の方法について考察している。	(2)ア	
			・学んだことを生活の中で実践しようとする。	・学んだことを生活の中で実践しようとしている。		

※上から a知識・技能 b思考・判断・表現 c主体的に学習に取り組む態度

	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領
前期	4	第4章 消費者の自立支援 第6章 環境と消費者	・消費者問題が起きないために、消費者の自立を支援することが行政の責務であることを理解する。 ・環境保全に配慮した、持続可能な消費生活の在り方を理解する。	・消費者問題が起きないために、消費者の自立を支援することが行政の責務であることを理解している。 ・環境保全に配慮した、持続可能な消費生活の在り方を理解している。	(3)イ (4)ア、イ
		課題 1.消費生活相談員、消費生活アドバイザーについて調べる 2.環境を視点に生活を振り返る	・消費者の自立を支援することが行政の責務であることを、事例を通して考察する。 ・環境保全に配慮した、持続可能な消費生活を、事例を通して考察する。	・消費者の自立を支援することが行政の責務であることを、事例を通して考察している。 ・環境保全に配慮した、持続可能な消費生活を、事例を通して考察している。	(3)イ (4)ア、イ
			・学んだことを生活の中で実践しようとする。	・学んだことを生活の中で実践しようとしている。	

	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領
後期	1	第5章 消費者契約と法	・契約に関する基礎的事項、具体的な消費者が留意すべき事項を理解する。 ・消費者教育の重要性を理解する。	・契約に関する基礎的事項、具体的な消費者が留意すべき事項を理解している。 ・消費者教育の重要性を理解している。	(2)ウ、エ (3)ウ
		課題 事例から学ぶ1	・消費者信用、カードの利用、多重債務等、事例を通して考察する。 ・経済社会を正しく理解し、正確な知識、情報に基づいて行動することの意義を考察する。	・消費者信用、カードの利用、多重債務等、事例を通して考察している。 ・経済社会を正しく理解し、正確な知識、情報に基づいて行動することの意義を考察している。	(2)ウ、エ (3)ウ
			・学んだことを生活の中で実践しようとする。	・学んだことを生活の中で実践しようとしている。	
	2	第5章 消費者契約と法	・契約に関する基礎的事項、具体的な消費者が留意すべき事項を理解する。 ・消費者教育の重要性を理解する。	・契約に関する基礎的事項、具体的な消費者が留意すべき事項を理解している ・消費者教育の重要性を理解している	(2)ウ、エ
		課題 事例から学ぶ2	・消費者信用、カードの利用、多重債務等、事例を通して考察する。 ・経済社会を正しく理解し、正確な知識、情報に基づいて行動することの意義を考察する。	・消費者信用、カードの利用、多重債務等、事例を通して考察している ・経済社会を正しく理解し、正確な知識、情報に基づいて行動することの意義を考察している	(2)ウ、エ
			・学んだことを生活の中で実践しようとする。	・学んだことを生活の中で実践しようとしている。	

※上から a知識・技能 b思考・判断・表現 c主体的に学習に取り組む態度

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7(2025)年度	講座名	服飾文化	
●講座基礎情報					選択科目	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	レポート合格しめきり日
前期	1	2回	2回	1	0回	令和7年 7月24日(木)
後期	1	2回	2回	1	0回	令和7年12月23日(火)
使用教科書・学習書		服飾文化 文部科学省(実教出版)				
●学習目標						
<p>a 被服と文化のかかわり、着装などに関する知識と技能を身につける。</p> <p>b 服飾文化を伝承し、新たな発想で服飾文化を創造する能力を養う。</p> <p>c 主体的、実践的に生活に取り組む態度を養う。</p>						
●評価規準						
a 知識・技能		被服と文化のかかわり、着装などに関する知識と技能を身につけている。				
b 思考・判断・表現		服飾文化を伝承し、新たな発想で服飾文化を創造する能力を身につけている。				
c 主体的に学習に取り組む態度		主体的、実践的に生活に取り組む態度を身につけようとしている。				
●学習内容						
学習の進め方		自学自習を基本とし、レポートに取り組む。疑問点は、面接指導等を利用して全ての問いに答え、レポートを提出する。				
レポート合格基準		レポート内容80%以上の評点および各評価規準80%をもって合格とする。 提出しめきり日を過ぎて提出した場合、観点Cにおいて減点する。				
注意点		スクーリングは本校のみで実施する。各レポートに実技課題があるので早めに確認すること。 漢字の間違えは減点する。「なし」、「特になし」、問題の指示に沿っていない場合の解答は、空欄とみなします。 本校のみでの開講とする。(実技課題あり)				
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	学習指導要領	
前期	1	第1章 「服飾文化」を学ぶ目的と意義	被服の起源、服飾の変遷について、人間の生活とのかかわりについて理解することができる。	被服の起源、服飾の変遷について、人間の生活とのかかわりについて理解している。	(1)ア	
		第2章 服飾の多様性 課題 世界の特徴ある衣装調べ 実技課題 フランス刺繍	歴史的背景、気候、風土、生活スタイルなどと関連付けて考察することができる。 実技課題に主体的に取り組むことができる。	歴史的背景、気候、風土、生活スタイルなどと関連付けて考察している。 実技課題に主体的に取り組もうとしている。	(1)ア	
		第5章 着ること装うこと 第6章 服飾文化の伝承と創造 課題 白無垢、地域の服飾文化 実技課題 風呂敷包み	着用目的と場所等に応じた着装の基本について理解することができる。 トータルコーディネートを楽しみながら工夫できる。 実技課題に主体的に取り組むことができる。	着用目的と場所等に応じた着装の基本について理解している。 トータルコーディネートを楽しみながら工夫している。 実技課題に主体的に取り組もうとしている。	(2) (3) (2) (3)	
	1	第3章 日本の服飾文化の変遷 課題 甚平と浴衣の違い 実技課題 「子ども用じんべい」(上衣)	和服を中心にその変遷と歴史的背景、気候、封素、文化などかかわらせて、概要を理解することができる。 現在および未来の服飾を創造することができる。 実技課題に主体的に取り組むことができる。	和服を中心にその変遷と歴史的背景、気候、封素、文化などかかわらせて、概要を理解している。 現在および未来の服飾を創造しようとしている。 実技課題に主体的に取り組もうとしている。	(1)イ (1)イ	
		2	第4章 西洋の服飾文化の変遷 課題 甚平と作務衣の違い 実技課題 「子ども用じんべい」(下衣)	洋服を中心にその変遷と歴史的背景、気候、封素、文化などかかわらせて、概要を理解することができる。 現在および未来の服飾を創造することができる。 実技課題に主体的に取り組むことができる。	洋服を中心にその変遷と歴史的背景、気候、封素、文化などかかわらせて、概要を理解している。 現在および未来の服飾を創造しようとしている。 実技課題に主体的に取り組もうとしている。	(1)ウ (1)ウ

※上から a知識・技能 b思考・判断・表現 c主体的に学習に取り組む態度

浜田高等学校通信制課程		開講年度	令和7(2025)年度	講座名	総合的な探究の時間	
●講座基礎情報					必修修科目	
	単位数	レポート回数	最低面接指導回数	試験	放送視聴学習可能時数	
通年	3	4回	3回			レポート合格しめきり日
						第1回 令和7年 8月 6日(水)
						第2回 令和7年 11月 27日(木)
						第3回 令和7年 11月 27日(木)
第4回 令和8年 1月 29日(木)						
使用教科書・学習書	なし					
●学習目標						
<p>日常生活や社会と自己との関わりの中で生じる疑問や関心から課題を見つけ、主体的・協働的に情報を収集し、整理・分析を経て知識や技能を得ながら問題解決に取り組む。そして探究過程や考え等をまとめ、表現することで、自己の在り方や生き方を考え、よりよい社会を実現しようという行動につなげる。</p> <p>[目標を実現するのにふさわしい探究課題]</p> <p>自分たちが住んでいる地域を実際に巡り、自然や歴史・文化の豊かさに触れ、そこに生きる人々の営みである産業や生活に触れる活動を通して地域に目を向け、その魅力や抱えている課題を知る。自分たちが地域にどのように関わっていきけるのか、考えをまとめて表現する。</p>						
●評価規準						
a 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力や課題に気づき、自分自身の生活とつながっていることを理解している。 ・複数の手段を使って、情報の収集をしている。 ・地域への関わりを通して、自己の変容を意識している。 					
b 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力や課題を把握し、自分の進路や興味・関心と結びつけながら思考している。 ・収集した情報を比較・分析し、魅力や課題を明確にしている。 ・自らの主張や提案が相手に伝わるように文を構成したり、写真や絵、グラフを利用したりしている。 					
c 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や歴史・文化の豊かさに触れ、そこに生きる人々の営み、産業や生活に触れる活動に参加して地域の魅力や課題を考えようとしている。 ・研究テーマについて、自分で計画を立て、自分から情報収集しようとしている。 ・多様な考えや意見を受け入れながら、地域に貢献しようとしている。 					
●学習内容						
学習の進め方	自学自習を基本とし、レポートに取り組む。面接指導等を利用して、担当の先生等にアドバイスをもらいながら進める。					
レポート合格基準	レポート内容80%以上をもって合格とする。					
注意点	スクーリングの出席は、通年(前期・後期)でカウントします。 教科のレポートと合格しめきり日が違います。再提出の場合もあるので、1週間前には提出しましょう。 試験はありません。					
レポート計画						
	回	学習内容	学習の目標	学習の評価規準	探究の過程	
通年	1	<p>ステップ1</p> <p>地域の魅力や課題についてのテーマを設定して、課題解決に向けて探究するための計画を立て、調査する。</p> <p>※(A)または(B)のどちらかを実施する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会のあり方に関するテーマを設定して、探究計画を立てることができる。 ・調査結果をまとめ、新たな課題に気づくことができる。 ・教員と対話しながら、体験を通して思考を深めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会のあり方に関するテーマを設定して、探究計画を立てようとしている。 ・調査結果をまとめ、新たな課題を考えようとしている。 ・教員と対話しながら、体験を通して思考を深めようとしている。 <p>[評価方法:レポート記載]</p>	①課題の設定	
	2	<p>ステップ2</p> <p>第1回で設定したテーマを発展させ、課題解決に向けて行動する。</p> <p>※第1回で選んだテーマで実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を振り返り、探究テーマをより深める行動ができる。 ・地域の方との対話や活動を通して思考を深めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を振り返り、探究テーマをより深める行動をしようとしている。 ・地域の方との対話や活動を通して思考を深めようとしている。 <p>[評価方法:レポート記載]</p>	②情報の収集 ③整理分析 ④まとめ・表現	
	3	<p>地域巡検、企業・学校見学等に参加して、訪問先についてまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中に出かけ、体験を通して、地域の魅力を感じ課題を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中に出かけ、体験を通して、地域の魅力を感じ課題を考えようとしている。 <p>[評価方法:レポート記載]</p>	②情報の収集 ③整理分析 ④まとめ・表現	
	4	<p>まとめ</p> <p>実施した内容を学校指定の用紙に、わかりやすくまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に分かりやすく伝えるように、写真や絵を用いて A3用紙2枚にまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に分かりやすく伝えるように、写真や絵、グラフを用いてA3用紙2枚にまとめようとしている。 <p>[評価方法:まとめの成果物]</p>	②情報の収集 ③整理分析 ④まとめ・表現	